

鳥栖市誌資料編 第7集

鳥栖市域の方言

序文

本書の執筆を担当されました篠原眞氏は、先の鳥栖市史（昭和48年度刊行）の事務局を担当されてから今日に至る30年あまりにかけて、自らが生まれ育った基肄養父の方言を記録されてまいりました。一方、同じ市域でありながら異なる方言域に属する旧佐賀藩領分にも足を運ばれ、また先人の残した方言資料を収集し、この度「鳥栖市域の方言」を刊行する運びとなりました。

以前から鳥栖市域の方言の特異性については問題にされつつも、その全容に迫る方言資料の蓄積がありませんでした。つまり対馬藩田代領域と佐賀鍋島藩領域とが近接し、それぞれに異なる方言域を形成していること。各種交通路の結節点という地理的特徴から、他地域との交流が盛んであったこと。また他地域の文化を柔軟に受け入れる気質であることから、他地域の言葉をも柔軟に取り入れていったこと。これらの条件が複雑に絡み合い、重層化しているゆえに、「方言」の特性を把握しにくく、方言研究を困難なものにしていたのではないかと思えます。

地域の文化的成り立ちを推し量る上においては、日常交わされる言葉を見ていくことこそ、他地域との交流の歴史や文化的特質に迫る糸口であると言えます。しかしながら方言そのものの話し手が減った今となつては、方言研究そのものが困難な状況であると言つても過言ではありません。ですから氏が収集されました方言の記録は、世相の変遷を映す鏡であり、歴史の記録であり、よくぞ方言に着眼され今日まで続けられたものだと感服するものであります。しかも氏の収集の特色は、言葉を単語として切断するのではなく、現実の会話の場を用例に挙げ、生き生きと扱っておられる点に価値があると言えましょう。

一般に学術的批判に耐えうる内容を記述すると言ふことになりますと、難解な表現が多くなりがちですが、肩肘張らず読み進めることのできる資料編にまとまりましたのも、氏の郷土の言葉に対する深い愛情と知識による所であり、本書の刊行が後の方言研究の基礎となることを信じ、氏の労苦に感謝いたします。

鳥栖市誌編纂委員長

米倉 利昭

監修にあたって

佐賀県は、九州の西北部に位置する。かつては、長崎県とともに肥前の国を形成していた。九州のなかでは、肥前の言葉と、肥後（熊本県）、筑前筑後（福岡県）の言葉は互いに共通するところが多く、これらをまとめて肥筑方言と呼んでいる。その特徴としては、「ヨカバイ」（いいよ）「ヨカタイ」（いいんだよ）のような、文末助詞「バイ・タイ」、「イッタバテン」（行ったけれども）のような逆態接続助詞の「バテン」、「ホンバヨム」（本を読む）などの対格助詞「バ」、「ウレシカ」（嬉しい）などの形容詞・形容動詞にまたがるカ語尾形容語などがあげられる。

この肥筑方言に含まれる佐賀県域の方言の地域差については、小野志真男氏（1983）に四区画案がある。これによれば、南部の旧佐賀藩域、北部の旧唐津藩域、東部の旧対馬藩域（田代）の三地域がまず大きく対立する。また、旧佐賀藩域の方言はさらに東部と西部の方言に分かれる。その東西の境界はおおむね、小城郡の西境とされる。各地域の違いの一端を見ると、旧佐賀藩域（以下、佐賀地域）では、語中語尾の「リ」の子音が脱落して「イ」となるが、旧唐津藩域（以下、唐津地域）と旧対馬藩域の田代（以下、田代地域）では脱落せず「リ」である。例えば「栗」は、佐賀地域では「クイ」となるが、唐津・田代地域では「クリ」である。また、動作進行の「書いている」を、佐賀地域の東部が「カキヨッ」、同西部は「カキウオー」とすることが多く、唐津・田代地域では「カキヨル」という。状態継続の「立っている」は、佐賀地域が「タットツ・タットー」、唐津地域は「タッチョル」、田代地域では、「タットル」という。

このように県域の方言は大きく三つに分かれるが、従来の研究は佐賀地域のもものが主で唐津・田代地域についてのものは少なかった。この意味で今回このような形で篠原氏によって鳥栖地域の方言が田代地域のものに重点をおいてまとめられることとなったのは従来の研究の空白を埋めることとなり、まことに意義のあるものといえる。氏の御労苦に敬意を表したい。

鳥栖市誌執筆委員

藤田 勝良

はじめに

身の周りの方言を記録してみたいと考えた動機は、晩年の両親がはばかりことなく語らう会話の面白さや、口論の中の方言のおかしさに気付かされたからである。それまで20年ほど親元を離れていたため、方言が新鮮に聞こえたこともあったろう。

父は生っ粋の土着者、母は基山出身で、どちらもキャブと称する旧対馬藩田代領(鳥栖市の凡そ東半分と基山町)に住んだ。そんな環境で私も幼少年期を育ったから、両親の会話は自然身についている筈なのに、

・とじよんなか(寂しい)

・しかとんなか(みつともない)

・どんこんなん(どうにもならない)

などの言葉が改めて耳だったのであった。

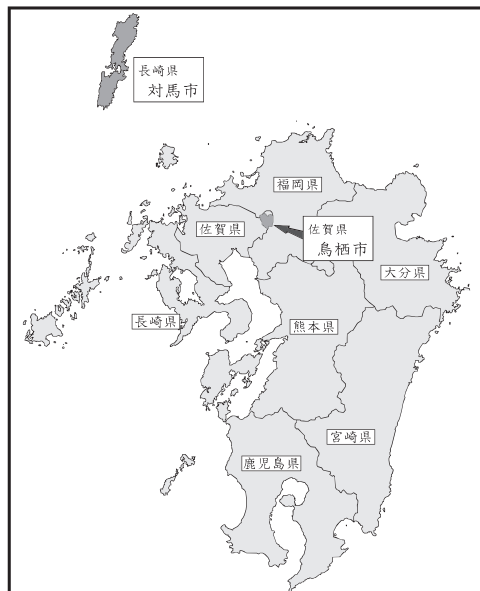
ことに市史編纂(第一次・昭和42〜48)にたずさわるようになって以来、人の会話の中の方言に聴き耳をたて、ふっと思いついた言葉をメモして家で照合することが、この数十年来の習性になってしまった。それでもまだまだ脱漏した語彙はあろう。

昭和7年ごろの私たちの初等科修身教科書では、「おとうさん、おかえりなさい。おかあさん、おかえりなさい」とあって、家ではそのようにあいさつすること、そして、方言はきたないからつかうな。「もぐらうち」のような物をもらう卑しい行事に参加するなど教えられたものだ。

家に帰った子が学校で教えられたとおり、「おとうさん」と呼んだら、「このガキ、水くさいことをいうやつだ」となぐられたという話もある。

鳥栖は鉄道員の多いまちだったから、クラスの子のなかには教科書どおりの呼び方をする者はいた。おい(俺)をボクという級友から、わが(お前)でなくキミと呼ばれるだけでも尻こそばゆく感じた。

明治41年(1908)以降、昭和10年代あたりまでの国語教育のひとつは、実は「方言撲滅」方言



矯正」の時代だったのである。明治から大正にかけての言語学者であった岡倉由三郎は、言語の統一ということについて、「国民として十分の団結力ができなくなると国家の統括力は著しく減ずる。国家の統一をはかるには先ず、一般の地方語の消滅のために好い方法をとらねばならぬ。」とさえいつている。こういった国語教育が方言コンプレックスを助長したのであろう。

昭和32年5月22日の東京新聞は、「子を道連れの抗議、若い母、田舎言葉をからかわれ」の見出しで、東京足立区に住む24歳の母親が東武線に飛び込み自殺したことを報じている。

同じ昭和32年の『言語生活』65「九州なまり」のなかで、福岡県出身の野田宇太郎は、江戸っ児からシェンシェイを冷やかされて、「自分が先生をシェンシェイと訛るのはふるさを愛しているから当然だ」と反発し、「デメエたちだって、もっとおかしなことがあるじゃネエか。日比谷（シビヤ）と渋谷（ヒブヤ）を続けていつてみる。うまく言えたらおごつてヤラア！なんて、きたなく崩れた江戸弁をまねてみたくもなる。」と溜飲を下げている。

梅棹忠夫によれば、「京都・大阪の人は九州の人よりも言葉に対して劣等感をいだくことが少ない。むしろ、京都・大阪が東京に対して損をする筋合いはない。」といい、さらに、人口・歴史・文化などの点で関東方言に対抗できる唯一の大言語集団であるからというのはいずれもなげける。

方言撲滅論から凡そ40年後の昭和40年ごろの「天声人語」欄では、転勤で大阪から首都圏に引越した家族が、小学生の娘の大阪弁を気にして、学校から帰った娘がいうのには、教室で少し大阪弁が出た。すると先生が「みんな、前に方言を勉強したでしょう。よかったわねえ、大阪弁が聞けて。これからもたくさんしゃべってね」とおっしゃったと投書があった、というまでに好転した。

幼年期を旧植民地で暮らし、中学・高校を筑後で育った作家の五木寛之は、共通語も地方語もきちんと使えない自分は、言語無国籍者だといひ、できれば正しい筑後弁を学びたいと書いている。（2002年6月3日付『西日本新聞』）さらに、「醇乎たる言語をもたぬということは、自分がいまいな存在だ。私たちは正しい地方語を失いかけている。共通語もいい加減だ。」として、個人と社会の二つの言語を持ち、異なったものを対比させてより明らかにする。共通語をきちんと学ぶと同時に、地方語も謙虚に学ぼう。地方語はかけがえのない財産だといっているのは、今

後に示唆を与えるものといえよう。

方言をまとめていて気付かされる二つの事がある。その一は、明治・大正期の人が使ってきた言葉の中には、当然の事ながらその時代の文明開化と庶民の暮らしが込められている事である。「うま(うし)つくれ」は、牛馬が農耕の中心だったころの養生の行事であり、「付けだけ(付け木)」、「どーしみ」種油のあかりの芯にする「ふしのき」、「生石」^{なまいし}「燃え石」といった石炭、「いけび」(オキを灰に埋める埋め火)、「そして暖房具としての火鉢をはじめ、火箱、湯たんば、たび、学用品として用いた石板やチョーク代わりの温石、^{おんじやく}また、「かねつけ」ということばの存在は、まだ「おはぐろ」をする婦人が昭和初期まで身近にいたことを示す。

いまひとつは暮らしの清貧、ことに食べ物の粗末さである。「どーがやし(麦飯)」、「ひらかし(裸麦飯に味噌汁をかけたもの)」、「さねめし(裸麦を米に混ぜたもの)」などの語彙が残るのは、米をつくるはずの農民の普段の主食の貧困さの証である。また、ある地区では「せんたく」の意味が(つくろう)と同義語になっているのは、洗濯後の衣類のつくろいが、いかに大仕事であったかを知らされる。

また、同じ鳥栖市域でありながら、旧藩が違ったための基肄^{きせ}養父^{やぶ}と、佐賀藩域の言葉の違いは、この地域の方言をいっそう際立たせている。そして、佐賀弁の語彙^{ごい}の豊富さ、ユニークさには、改めて驚くばかりである。

なお、言葉の中央指向について付言したい。

いったいに、言葉は東京・大阪など大都市の言葉に、また、地方では中核都市に影響されるのはなかろうかと思う。現代においても地方のある者が一時期滞在した東京語や浪速ことばを、得意げに使ううちにそれが地方に伝ばする。あるいは、中央から地方に派遣された者が伝ばさせる方言の中には意外と古語の転化したものがみられることなどにもその傾向がある。部分的ながら「貸してんか」「食べてんか」の「:みたら」、「有難うの」「おおきに」などの浪速ことばは、私共子ども時代の日常語であった。

また、佐賀県では、県庁・警察・旧師範学校が佐賀市にあったことから、かつてそこに通勤・通学したキャブ者が、また、鳥栖市内に勤務する他所出身の教師・警察官が土地に馴染もうとして意図

的に使う佐賀弁が次第に耳慣れていくうちに、土地の者も使うよう(あるいはよく理解するよう)なる実態を私は見てきた。県庁と接触の多い市町村職員にもこの傾向はあった。

中央指向と言えば、旧対馬藩田代領の田代代官所の役人(多くは土地の者)が、府中厳原の言葉
を伝えたのではと注意深く、『対馬藩南部方言集』なども参照してみたが、基本的には九州の中・
北部を占める肥筑方言の範疇に入るものが多い。厳原の人たちが話す日常語とそのアクセントに
おいても、あまり違和感はない。

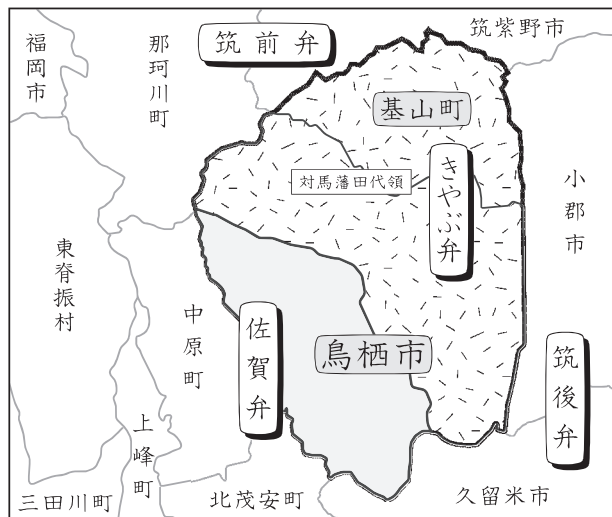
日本語そのものが時代とともに崩れ、変り、また、カタカナ語が増え続ける過去・現在からみ
て、方言は、ますます消滅の一途を辿るであろう。まれに郷里に帰った子や孫たちが、語尾やア
クセントを面白がる程度の存在であろう。日常使わないものは忘れる。かく言う私も、記憶の中
だけの方言ではうまく使えないので、日常意識して使うようにしているが、それも、同年輩の老
人仲間ですえ通用しにくくなってきた。今は、もう残り少なくなったガキ仲間と、思い切り方言
をおらんでみたい心境である。

鳥栖市誌生活民俗編 執筆委員

篠原 眞

記述の要領

- 1 一般語彙の掲載順は、五十音順である。
- 2 記載の順序は、方言・品詞・訳・用例の順である。基肄養父弁(正しくは「キイヤブ」だが、通称は「キヤブ」となるので、以下「キヤブ」と発音)は(基)、佐賀弁は(佐)で示すが、指定のないものは基肄養父弁か佐賀弁との共通語である。
- 3 基肄養父弁は鳥栖地域の旧対馬藩田代領域で、佐賀弁は鳥栖地域の旧佐賀藩域で使われる方言である。(略図参照)
- 4 佐賀弁については、主として、宇野得三氏の私家版『佐賀東部方言』によった。
- 5 **品詞は、名詞〔名〕、代名詞〔代〕、動詞〔動〕、形容詞〔形〕、副詞〔副〕、接続詞〔接〕、接続助詞〔接助〕、応答詞〔応〕、感動詞〔感〕、助詞〔助〕、助動詞〔助動〕、接頭詞〔接頭〕、接尾詞〔接尾〕、成句〔成〕** ①②(反対語)として示した。
- 6 古語・語源などに関連のある語彙の出版については、『』で示した。
- 7 共通語からの索引に便利なように、古語・肉親・親族・人称・食べ物など、一般語彙と重複して別に掲げた。
- 8 そのほか、成句・ことわざ・お天気ことわざ・縁起禁忌・軽口・地名町名の呼び名を掲げた。
- 9 ごく一部に差別語に類するものがあるが、あえてそのまま、事実記録のため残した。
- 10 方言と関わりの深い「わらべうた」を付録として掲げた。
- 11 共通語から方言を探すに便利なよう、巻末に共通語による索引を掲げたが、助詞・成句などで表記しにくいものは省いた。



目次

特論

田代地区方言と佐賀東部地区方言の特徴……………12

五十音順

【あ】	15	【い】	16	【う】	18	【え】	19	【お】	20
【か】	22	【き】	24	【く】	25	【け】	26	【こ】	27
【さ】	29	【し】	30	【す】	33	【せ】	34	【そ】	35
【た】	35	【ち】	36	【つ】	38	【て】	39	【と】	40
【な】	41	【に】	42	【ぬ】	43	【ね】	43	【の】	44
【は】	44	【ひ】	46	【ふ】	47	【へ】	48	【ほ】	49
【ま】	50	【み】	50	【む】	51	【め】	51	【も】	51
【や】	52	【ゆ】	53	【よ】	53	【れ】	54	【ろ】	54
【ら】	54	【り】	54	【る】	54				
【わ】	54	【ん】	55						

分類別

数・量・日どり……………	57
明治・大正期の職種……………	58
古語または古語の転化……………	59
肉親親族の呼び名……………	60

主な助詞……………	61
主な助動詞……………	62
あいさつ言葉……………	63
顔・形・体……………	65
年中行事・民俗語彙……………	66
幼児語……………	69
成句のいろいろ……………	70
さまざまな人称……………	71
鳥栖のことわざ……………	72
お天気ことわざ……………	74
地名・町名の呼び名……………	78
食べ物……………	79
軽口・モチのいろいろ・味のいろいろ……………	81
きやぶことばの用例(方言対話)	
老人が孫の靴買いに……………	83
釣り帰りの亭主と妻……………	83
隣家の男を弔問……………	83
本家の結婚を祝う……………	84
病気の老人を見舞う……………	84
孫の出産を祝う……………	85
老人が友人に旅行の勧誘……………	85
使用人が急用で実家に帰る……………	86
飼い主に飼い犬のことで談判……………	86
姑が近所で嫁の悪口……………	86

女同士が近所の嫁入り話	86
基肄養父弁の「ほんげんぎょう」	87
佐賀弁の用例	
お寺参り	88
受験勉強	88
ひでりつづき	89
豪雨のあと	89
医院の待合室で	90
農作ばなし	90
世間ばなし	91
とすのわらべうた	
くりやあばし	92
押しくらまんじゅう	92
いっぼでっぼ	92
指遊びうた	92
手合わせ唄	93
じゃんけんあそび	94
手遊びうた	94
口遊びうた	94
手合わせ唄	94
手たたき唄	95
石なご唄	95
しな玉うた	96
ふうせん	96
鬼あそびうた	
めくら鬼	96
ほんさんぼんさん・あずきあずき	

じゃんけんあそび・鬼あそび	97
まりつき唄	98
風船つきうた・羽根つきうた	100
子守唄	100
つなとびうた	103
仕事の唄	
米つき唄	104
木びき唄	104
ぶるこ打ち唄	104
麦打ち唄	105
かすり織り唄	105
機織り唄	105
田の草とり唄	106
石つき唄	106
本節	106
すもうちり唄	107
もぐらうち唄	107
たんす長持ち唄	108
口遊びうた	111
だるまさん	112
占い	113
楽譜	114
参考文献	123
取材協力者	124
逆引き索引(標準語彙↓方言)	
巻末	

田代地区方言と佐賀東部地区方言の特徴

藤田 勝良

ここでは、鳥栖市域に並存する田代地区方言と佐賀東部地区方言の特徴について概観しておくこととする。

1 田代地区方言

鳥栖市北部・三養基郡北部がこの方言にあたる。この方言の主な特徴を記せば次の通りである。

1. 語中語尾の「リ」の子音は脱落しない。
2. 代名詞語尾の「れ」が「ル」となる。
コル（これ） ソル（それ）
3. 動詞助動詞の語尾「る」は共通語と同じく「ル」である。
4. 準体助詞「の」は「ツ」となる。
5. 指示引用の「と」は「チ」となる。
6. 接続助詞の「て」も「チ」となる。
キヤーチミル（書いてみる）
ただし、「テ」を用いることもある。
7. 動作進行態の「ている」は、次のように表現される。
カキヨル、カキヨル（書いている）
フリヨル、フリヨル（降っている）
8. 状態継続態の「ている」は、次のように表現される。
タツトル（立っている）

9. 「受ける」「出る」などの命令表現に「レ」語尾があらわれる。

ウケレ（受）、デレ（出）、オキレ（起）、ミレ（見）、セレ（為）

10. 過去の否定表現に次のような形を用いる。

デラジャッタ（出なかった）

11. 第三者の動作状態への敬語が次のようになる。

ヨミオラツシャル（読んでいらっしゃる）

12. 条件表現「なら」「たら」に相当する表現が「ギリ」となる。

13. 確定の理由を示す「から」に対応する表現が「ケ・ケー」となる。

14. タイ系統の文末助詞に「タナ」がある。

15. 肯定の応答に「ナイ」を用いることがなく、「ハイ」「アイ」「へー」などを用いる。

16. アクセントは、型の区別を失った崩壊一型音調である。

2 佐賀東部地区方言

小城郡・佐賀郡・佐賀市・神埼郡・鳥栖市西部がこの方言にあたる。

この方言の特徴をあげれば次のようになる。

1. セ・ゼの口蓋化が老年層で著しい。

アシエ [aie] ミシエ [mie] (店) カジエ [kaje] (風)

2. 語中語尾の「リ」の子音が脱落して「イ」となる。

クイ [kui] (粟) クスイ [kusui] (葉) マツイ [matui] (祭り)

3. 代名詞語尾の「レ」が母音変化と子音脱落を起こして「イ」となる。

- アイ [ai] (あれ) ソイ [soi] (それ)
4. 「取る」「有る」などの動詞語尾のルが促音となる。
トツ [tot] (取る) アッ [at] (有る)
5. 語中語尾のミが子音を脱落して鼻母音のイとなる現象がある。
カカイ [kagai] (鏡) ハサイ [hasai] (鉄) タタイ [tatai] (畳)
一方で、ム語尾の動詞を「アン(編む)」「ヨン(読む)」など撥音を用いる傾向がある。
6. 老年層に四つ仮名の区別が認められることがある。
チシン(地震)ージテンシヤ(自転車)
ヨカトバ(よいのを)
7. 準体助詞の「の」は、「ト」になる。
8. 動作進行態の「ている」について、「書いている」を、「カキヨツ(ー)」で表現する。
9. 状態継続態の「ている」について、「書いている」を、「カイトツ(ー)」で表現する。
10. 第三者への敬意表現は、「読んでいらっしやる」であれば、「ヨミオンサツ」とナサル系で表現する。
11. 条件表現「なら」「たら」に相当する表現として、「ギ(ー)」がある。
ミトーギ(見ているなら)
12. 肯定の応答表現に老年層で「ナイ」を用いる。
ナイ ナイ(はい、はい)
13. アクセントは、おおむねアクセントの区別を失った崩壊一型音調である。

五十音順

【あ】

ああ【感】ア、キツア。きつい。きつしの詠り

あい【代】彼・彼女。アイドマ(あれたち)

あい【名】鮎(あゆ)

あい【心】はい・うん

あいぎい【り】【副】あるだけ。アイギイノハナシ

(佐)腹藏ない話

あいじやけ【成】あれだから

あいそん【そん】な【成】無愛想

あいた【感】しまった。シモタ・アチャーとも

あいとま【代】彼・彼女たちは。アイトンとも

あいな【名】間。(佐)ヤーナカ

あいもん【名】和え物

あいさぎ【名】佐【雑煮、お浅黄。浅黄椀(黒塗りに浅葱色の漆で描いた椀)で食べるからか。浅黄

は古語

あおしがき【名】さわしがき

あおじゆむ【動】打撲などで皮膚が青黒くなる

あおたれとる【成】佐【青々としている

あおちのよる【成】内出血する

あおつうがい【名】佐【甲羅の青いカニ

あおなく【動】上を向く

あがい【り】くち【名】家の上がり口(框)。 (佐)天

気になりかけの意も

あかか【形】赤い。または明るい

あかがい【り】【名】あかぎれ

あがきたがき【成】佐【ひどく気をもむ

あかちよこへ【名】あかんべい

あかつらまつきや【成】赤面すること

あがり【副】すんだあとで

あがる【動】食べる。アガランナ(食べなさい)

あぎ・あぎと【名】あご。アギノオチル(うまい)

あき【に】やあ【名】商い

あぎやなひと【代】あんな人。(悪意を含む)

あぎやん【副】あんなに

あぎやんこぎやん【成】あんなこんな

あくしやうつ【成】持て余す。(佐)こっちゃーうつ

あぐる【動】嘔吐する。(佐)タバキ

あげくのさんばち【成】あげくの果てに。(佐)ア

ゲクノシヤーハテ

あげもん【名】そなえもの。おくりもの

あごた【名】佐【話す。また、言い方。アゴタン・キイ

ートツ(弁舌がうまい)

あさおろし【名】佐【午前中

あさがちや【名】朝がた。朝

あさましゆーする【成】佐【薄情な扱いをする

あさんよるから【成】朝早くから

あしちや【名】明日

あしちやさみやー【名】佐【あすあたり

あしな【名】わら草履の短いもの(図)

あしな【名】明朝。アシナスタとも

あしりやー【名】佐【あ

しらう。応対

あすーでくる【成】遊

んでくる。(佐)アスウ

ツクル

あすもん【名】遊び道具

あすけ【助】あそこへ(に)

あすぶ【動】遊ぶ

あせがる【動】せがむ

あせくる【動】かきまぜる。アセルとも

あせこ【名】あせも。アセコノオヤ↓おでき

あせごいか【形】汗かき

あせしらかわ【名】佐【大汗

あせせせい【り】【名】隣のあせを削り、田を広め

ること。アゼクジリとも

あせび【名】あしび(馬酔木)

あたい【名】佐【私(女性語)。アタイドン↓私ども

あたい【り】こたい【り】【名】近所近辺

あだかわ【名】栗などの内皮

あだくる【動】探す。「家人中をアダクル」

あたた【副】急に。(佐)アタジャ、アタタモン↓

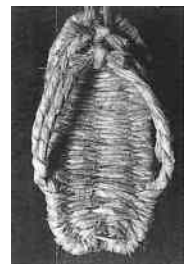
急ごしらえ物

あだび【名】無駄なたき火

あたまんこつん【成】頭のとっぺん

あちやー【感】しまった

あつか【形】暑い。「ヌツカ」とも



あつへくあつへく【副】あえぐさま。(シペサツ)ども

あつへい(り)・あつへい(り)【副】うつらうつら

あつこ【名】あそこ

あつこんたい【副】あそこあたり

あつたらか【形】もつたいない

あつじ【名】足。(幼児語)

あつち【形】熱い。(幼児語)

あつちやまじ【名】さかさま

あつちり【代】そ(ち)り

あつごん【代】あれたち

あつぶか【形】きれいな。(幼児語)

あとえー【名】後追い。幼児が親などの外出に同行したがること

あとしゃん【名】仏様。(幼児語)

あととり【名】嫡子

あとびぎ【名】歩くときかかるとに泥がつくこと

あとびざい(り)【名】あとずさり

あなずる【動】佐【あなどる

あなせ【名】北西風

あなんぼん・あなぼん【名】穴。類語↓ホゲタン

(くぼみ)

あねさ・あねしゃん【名】姉。(佐)アニヨウ

あねどん【名】女の奉公人。類語↓モリアネ・モ

リジヨ(共に、子守女)。(佐)アンネ

あのしったんたち【代】佐【あの人たち

あのわいさん【代】佐【あの人

あば・あばちー【形】汚い。(幼児語)

あばあば【形】大きすぎ

あばおろし【名】佐【初おろし

あばく【動】収容できる。セモーシテアバカン↓狭くて入らない

あばける【動】傷などが悪化する

あばれこほれ【成】あふれるさま

あぶらや【名】菜種製油業

あぼ【名】糞。(幼児語)

あぼあぼ【形】佐【大きすぎる

あまかわ【名】たたき(三和土)

あまね【名】ちがや。根部はうす甘く、未熟果穂(ズバナ)を食べる。古代、八朔の節句の「茅の輪」の材料。茅の輪参照

あめがた【名】短冊形のあめ。(佐)アンチヨ

あもつなる【動】ネジなどがゆるむ

あやわしか【形】あやふや

あゆぶ【動】あゆむ

あゆる【動】落ちる

あらあら【副】あらかた

あらい【感】これ。あのね

あらかましか【形】荒っぽい

あらんかつ【名】佐【間違

あり【代】彼・彼女

ありや【成】あれは

ありやーせすと【成】なにもない。イッタバッテン、

ナンモアリヤーセスト↓行ってみたが何もなかった

ありやた【動】荒らした

あるき【名】里帰り。サトアルキとも

あわれしおれ【形】佐【哀れな様

あんぎあんぎ【動】噛む・食べる。(幼児語)

あんくさい【感】これ。あのね

あんじやいもん【名】佐【兄

あんざいと【副】佐【はつきりと

あんじらんと【副】佐【味わいよく

あんちゃん【名】兄・オヤカツジャとも

あんちよ【名】佐【飴

あんびやーのわかるか【成】体の具合(案配)が悪い

あんぼんたん【名】阿呆者

あんゆ(ゆ)【動】歩く。(幼児語)

[5]

い(っ)ちよく【動】置き去りにする

い(っ)んにや【応】いいえ。違う

いいし【名】聾^{ろう}啞^あ者

いいたむなか【成】言いたくない

いいつける【動】結いつける。背負う。イイツケオビ

↓幼児をゆわえる帯

いいでのきけん【成】佐【命令を守らぬ

いいなざる【動】おっしゃる。(佐)イインナル

いお【名】うお・魚

いおんめ【名】うおの目

いがかく【動】湯がく

いかする【動】行かせる

いかる【動】埋まる。コギャンフコーイカットル↓
んなに深く埋まっている

いがわ【名】井戸。

いきすいごーて【成・佐】すれ違つて

いきすいたててなく【成・佐】泣きじゃくる

いきずわる【動・佐】動かぬ

いきない【動・佐】放任する

いきはいる【動・佐】窒息する

いきばかう【形・佐】呼吸困難

いきもどいり【名】折り返し。類義語↓ノンボ

リクンダリ(往復)

いきやーこ【名】たくさん。(佐)イキヤーシコ

いきやーじ【名】多人数

いくけ【名】埋める。川魚を池などで養殖す

ること。また、食欲があること

いくい【名・佐】徒食すること。居食いの意か

いくいり【名】わら製の米櫃こめびつ

いくい【名】えぐる

いくいぼい【名・佐】芋を素手で掘ること

いくたい【動】行く。イコーダイ↓行こう

いくらか【副】どんなにか・さぞ

いへらんこももめめぼい【成・佐】こともあろ

うに

いげ【名】とげ

いけと【副】直接に

いけなえ【名】補植用の稲苗

いけび【名】埋め火。(佐)ひげき

いけほい【名・佐】埋葬の穴掘り

いげんは【名】サルトリイバラの葉。イゲンハンジン

ユウ↓その葉でくるんだまんじゅう

いこうつうな【成】行きたくない

いごく【動】動く

いさぎゆう【副】えらく・イズウとも。(佐)イジ

イ・イサギユールジャツカ↓えらくやるな

いさか【形・佐】敏捷

いさぶる【動】揺さぶる

いしあずき【名】煮えない小豆

いしたたき【名】せきれい。(尾で石を叩くような

どうさから)(佐)シツタキ↓尻たたき

いしな【名】おてだま。ナゴは、ナンゴともいい、こ

こ)

いしや【代】石工

いしやどん【名】医者(殿)

いする【動・佐】もがく

いたあし【名】偏平足

いたがんさる【動・佐】いたがる

いたぐらみ【名・佐】安産

いたちくつ【名】成】行く。イタテクルとも

いたむ【動】食物が腐る。また、病気になることも。イ

トードル↓病気をしている。田代代官所日記

に「当節相痛居り」

いたんま【名】板の間(普通は台所)

いちからじゅうまで【成・佐】始終

いちじやあやんみやー【成・佐】一代病

いちどき【副】一度に

いちまき【名・佐】ひとりよがり

いちもにもなが【成】雑作ない

いさき【副】すぐ。古語。ホツタイツキ↓掘つてすぐ

いづもかつも【副】時をえらばず・つねに

いづんずわいり【名】尾頭付き

いっしゅういっぴやあ【成・佐】入るだけ

いっしよんたくいり【成】ませこぜ・一緒に

いっせんどん【名】床屋(明治初期ごろの理髪代

が1銭だった)

いったん【名・佐】ひとつだけのもの

いっだん【副】いっそう・かえつて。タガムネとも。イ

ツタンフルーナル↓かえつて悪くなる

いっただじやれ【成】行つただろうか。ドコサニヤイツ

タジャレ↓どこへ行つたか

いっただやあ【名】一反田

いっち【名】石儲いっちいがし

いっちご【副】めつたに。イッチゴカオミセン↓全く

顔を出さな

いっちよ【名】ひとつ

いっちやあらき【副・佐】そこらじゅう

いっちよび【名】一 張羅

いっぢーちーちーちーちー【副】ちつとも。イッチョデンとも。イッチョ
ンナカ↓何もない

いっぢーちーちー【名】終日。ヒノイッチンチとも

いっぢーちー【名】イチジク。類似のイヌビワも同じ

いっぢーちー【副】いつでも

いっぢーちーちーちーちー【副】いつでも。イツモカツモ・イツ
ジャンシ・トーシなども

いっぢーちー【副】しばらく。(一刻)

いっぢーちーちーちー【成】少々の時間。イットキンコ
ツジャンナカ↓思ったより長い間

いっぢーちー【名】一筋。ヒヤクシヨウイッパター↓お百姓

いっぢーちー【動】ゆでる

いっぢーちー【動】病气している

いっぢーちー【形】怒りっぽ

いとんかゆんなか【連】痛くも痒くもない

いなつ【動】担う

いっぢーちー【名】稲むら

いっぢーちー【名】稲むら

いっぢーちー【名】陰暦10月の収穫の初亥の日、万

病を除くとして新米でついたもちを近所に配る

いび【名】指

いひゆー【よ】もん【名】変屈者・変わり者・意表
か。類語↓フーガジン

いひゆーか【形】偏屈

いまざき【副】ちよつと前

いまの【副】いましがた・イマジブンとも。

いみる【動】増える

いもから【名】里芋の葉柄を乾燥させたもの

いもと【代】妹

いもりや【名】イモリ科の両生類

いもんくぶり【名】里芋と大根などを味噌でたい
た煮(ごり)

いやしか【形】いやしい・食い意地のきたないこと。
ヤシカとも

いやばい【感】いや・いやだ。イヤバナは女性語

いやらしか【形】(女性にとって)嫌なことを言う
男性

いらせ【名】毛虫

いらんさん【名】佐 厄介者

いりもち【名】佐 樹上などに住む小毒へび

いりゆう【代】佐 寄食者↓入り人

いるい【名】佐 囲炉裏

いん【動】投票する

いれくる【動】ごまかす

いるまつ【お】形 顔が青ざめる

いわまつ【名】イワヒバ(岩檜葉)

いん【名】大

いんが【つと】副 ていねいに。モットラットとも

いんがいと【副】佐 いかめしく

いんぐら【名】えのころぐき。または、ねこや
なぎ

いんづげ【名】イヌツゲ(植物)

いんに【名】佐 いいえの敬語

いんにやいんにや【成】咀嚼すること。(幼児語)

いんのくそ【名】ものもらい。オヒメサンとも。(佐
ナイワズ

いんばたらき【名】佐 無駄働き

いんま【副】あとで・いまに

【い】

い(い)んにや【感】いいえ。違つ

いっぢーちーちーちー【名】佐 ところ一面

うーかまさん【名】味噌や醤油をつくる時の大
かまど

うーばち【名】大鉢

うーごつ【名】おごこと

ううする【動】佐 牛馬に荷をつける。負わすの
訛りか

ううだ【つと】名 大げさ。ウウダゴツイウ↓大げさ
に言う

ううばち【名】佐 うそ

うーまん(か)ぎや(形)おおよっぱ。(佐)ウーバン
ギヤーカ

うえーうつ(名)佐(名)追い銭

うええじょう(名)佐(名)甥

うかる(形)浮かぶ。受かる。試験にウカル

うきばん(形)水などが溜まるさま

うけ(名)川魚をと

る竹製のカゴ(図)

うすべり(名)こぎ

うけなう(動)引き

受ける

うしたいもん(名)佐(名)不要物

うじつる(動)佐(名)捨てる

うしもー(名)牛(幼児語)

うせる(感)佐(名)消えて失くなれ・行け。古語で、
失せる

うそ(名)口笛。鶯の鳴き声に似ているからか

うたく(動)抱く

うち(名)私(女性語)複数形はウツタチ

うちあげ(名)慰労会

うちがき(名)牡蠣

うちこみ(名)佐(名)小麦粉をこね、平たく伸ばし

味噌で煮たもの。キヤブ弁のダゴジルか

うちわいこきわい(形)佐(名)ぎっくばらん

うちんにき(名)近所・近辺

うっかいひょん(副)佐(名)うっかり



うっかかる(動)佐(名)依頼する

うっかつ(副)ちよつど。相殺

うったたく(動)叩く

うったたる(動)山積みになる

うったち(名)佐(名)出発(打ち発ち)

うっちよく(動)置き去りにする

うっぱまる(動)ふざぐ・ささぎる。スギヤントコレ、
ウツパマルナ(そんな所に立つな)

うつぶく(動)下を向く

うっぱんぼん(名)すっぱんぼん。素っ裸。(佐)スッ
ペラポン

うごあ(や)う(動)相手になる。打ち合うの転化

↑↓ウテアワン↓相手にせぬ

うどぐら(名)うすぐらい

うべ(名)むべ(郁子・野木瓜)

うまいれがわ(名)農耕のあとの牛馬の脚を冷や
し、体を洗う川や堀

うまつくれ(名)2、3月の農閑期、牛馬を検診
し簡単な治療をすること。ツクレはつくる。整え
るの意か。牛の多かった河内では、「牛つくれ」

うみどろ(名)夏の水田に生える青藻

うむる(動)熱い湯に水をさす。ヌベルとも

うらめしか(形)きたない。面倒な意にも

うりやあ(名)裏

うるじ(名)稗

うるる(動)売れる。熟れる

うわこ(名)表面

うわんたん(名)一段上級。または上手

うん(代)うぬ。古語で相手を卑しめていう語(き
さま・てめえ)。ウンガワルカツ(お前が悪い)

うんすけ(名)素焼きのかめ。雲州松江の主生産

地説と、雲助徳利の転化説

うんてんどくら(成)佐(名)はつきりしない

うんてんばんでん(成)佐(名)違いの甚だしいこと

うんとんすつとん(成)何もいわず黙りこくる

【え】

えーぐちなわ(名)アオダイショウ。へびはクチナ
ワ

ええくりや(名)よほらい。(佐)エークリイ

えーたくる(動)追いかける

えーちらかす(動)追い散らす

えーんか(形)えぐい。えがらっぽい

えさい(動)膝(い)行る

えしやく(名)ご機嫌取り。エシヤクバカリスナ
(ご機嫌取りをするな)

えすい(形)おそろしい。古語

えすえず(副)おすおす

えのち(名)家

えびんちよ(名)エビ

えぶき(名)屋根ふき。バージャ(屋根葺き職)とも

えべす(名)恵比寿。エベッサンとも

える【動】えらぶ・よる

えんか【形】えぐい

えんずつ【名】エンドウ豆

えんてーい【名】佐：様子を知っている

えほ【名】荷札

えんのき【名】エノキ、エノキ茸

【お】

おあさぎ【名】佐：雑煮。(お浅黄)

おい(り)【代】おれ、ハイの代わりにオイ

おいどん【代】私共

おいなる【動】佐：居る。居られる

おつまん【名】あてずっぽう。オーマンギヤとも

おえかぶる【動】髪やひげの伸びたさま

おおきに【名】ありがと。(大阪ことば)

おおけのある【成】食物などが長く保つ。↑↑オーケンナカ↓すぐなくなる

おおこ【名】担い棒。(佐)ソガイオオコ↓普通両端を削いだ竹製、地方文書では枋(おこ)

おおどか【形】横着

おーなく【動】仰向き

になる。オーナカセー
仰向きにする。『葉隠』

1002、あふなき

おーまん【名】あてずっぽう



おかえにん【代】佐：給仕人

おかしか【形】恥ずかしい。(佐)チャーガツカ・オハモシカとも

おかしやん【名】佐：おかあさん。カカサンとも

おかちん【名】もち。カチン(室町期の女房言葉)

おがどん【名】きこり。オガ(大型の鋸)

おがみだぶつ【名】かまきり。(佐)オガマダトウサ
ン

おくび【名】襟ざわ

おくもじ【名】菜漬け(女房ことば)。オコモジとも

おげ【名】佐：詐欺師

おけたん【名】桶職人

おごさ【名】嫁または奥さん。『広辞苑』に「御御、他人の娘または妻の敬称」

おごさんかちやる【成】奥さんが婿さんより優れているたとえ。介ムコサンカツチャル

おごる【動】叱る。オゴラレヨル↓叱られている

おこわい【名】赤飯

おさい【名】おかず。シャ(菜)とも

おしくくる【動】押し込む

おしくみ【名】押し入れ

おしころばかす【動】押し倒す

おしべつとこーべつと【名】子どもの冬の遊びで「押し合い」

おしみやーんさつたかた【成】佐：挨拶言葉で、食事は済まれたか(基)シマイナサツタナ

おしもくる【動】もみくちやにする

おしゆつあん【名】僧侶

おす【動】育てる。ニワトリオシ(養鶏)

おす(ぞ)む【動】目を覚ます

おせ【名】大人。おおせ(お兄)の転化。『基肆養父実記』に「御代官様御通の時おせなるものは云に及ばず、五、七歳の童子までも道脇に頭を下げ候」

おせやないだち【成】佐：ご馳走になつてすぐ

おそえる【動】教える

おそぶる【動】震える。サムカケ、オゾブルウトル

(寒いので、震えている)

おそわるし【形】佐：悪夢にうなされて

おたいさー代【代】お大師様

おたいさーまいり【名】彼岸のお遍路まいり

おだいやー【感】あら・まあ(女性語)。オダイー、オタモイヤー、オダイヤージャロとも。(佐)オナイヤー

おたからぼっち【名】男の子

おだる【動】穏やかに。転じて進行が劣える

おちおち【副】佐：落ちて着いて

おちかやる【成】病気が再発する

おちやこー【名】女の寄り合い。チャゴ(茶合)とも

おちる【動】飯を釜から移す

おちやっぴい【名】おてんば

おつかしやん【名】おかあさん。(佐)オカヤン・オカヤン・カカヤン(肉親・親族の項参照)

おつけ【名】味噌汁

おつけだご【名】平たいだんご入り味噌汁

おつけぎ【名】つべこべ。オッセシとも

おつけしがつせし【成】佐 押し合い

おつたてじり【名】佐 味噌の濃い生汁

おつちやん【名】伯(叔)父。(大阪言葉)

おつちらつと【副】佐 落ち着いて

おつといてある【成】佐 落ち着きがある

おつとりへんちよ【形】動 うばいあい。グッチョ↓競うこと。(佐)オットイゴッチョ

おつとる【動】奪う。(佐)盗む

おつとん・おいとん【代】私共

おつぱい【名】たくさん。(幼児語)

おつべしやん【名】醜女

おつぱれ【副】佐 髪を振り乱して

おつこむ【動】落ち込む

おつつく【動】落ち着く

おつき【名】^と齋

おつこし【名】男達。し↓衆。介↓オナゴシ(女達)

おつこじや【名】弟。オトトとも。(佐)シャテー↓舎弟

おつこちゃん【名】おとうさん。(佐)オトツツァン

おつて(ち)ー【名】一昨日

おとほう【名】佐 末っ子。(基)スゴ

おどま【成】私達は。オドメ↓私達に

おとん【名】佐 お前。(御殿の詠りか)

おどん【代】私

おとんことんなか【成】音沙汰がない。(佐)オトコツイトモナカ

おな(に)や(し)つ【名】同じこと

おなご【名】女。オナゴシ(女衆)介↓オトコシ(男衆)

おなごむすび【名】女結び

おにやあどし【名】同じ年齢

おぼこ【名】オオバコ

おばしやん【名】伯(叔)母。(佐)オバツチャン

おひやさん【名】佐 位牌

おぶか【形】重い

おぶくさん【名】佐 お仏飯(御仏供)

おぶしいし【名】漬物の重し石。オモシとも

おべーつかん【成】意識を失う、気をとられる。類似語にオメーツカン(思い出せない)

おぼえしよーこん【名】佐 記憶力

おまい【代】お前。(佐)オマリ

おめーいる【動】思い込む

おめーおんまく【成】佐 気づかない。(思い思惑)

おめえがた【名】佐 予定。心づもり

おめく【名】呻く

おめーんなか【副】思いもよらない。又はうっかり

おもっさんぼつ【副】佐 嫌と言うほど

おもし【名】おもし【名】重り

おもす【動】蒸す

おもゆ【名】焦げついた飯を粥状にした飲み物。平安期では飯に湯や水をかけて食べるものを

「をもゆ」

おももる【動】ほどよく蒸す。麴の発酵がほどよいこと

おやかた【名】兄。オヤカッドンとも

おやく【名】親類

おゆる【動】生える

およつではしる【成】佐 泳いでいく

およこし【名】和之物。古語↓よこし

おらぶ【動】大声をあげる↓古語。オメクとも

おり【代】俺。オリバナメトリハタス(俺をなめているな)

おろ【接頭】比較して、少しの意。キュウハキノーヨリ、オロサムカ(今日は昨日より寒くない)

おろー【感】おや！オリヨとも

おろかげん【形】佐 体調がよくない。オロホンポ一カとも

おろたえゆ【動】うろたえる。オロタエマクルとも

おんじさん【名】佐 伯(叔)父

おんじやく【名】ぬくめいし。または白墨(チョーク)の代わりにした、白っぽく柔らかい石。黒っぽい

石板に書く。昭和7年ごろまで、小学校で使用

おんちゃん【名】おじ(小父)さん

おんちよ【名】おす(おメシ)ちゃん

おんなさる【動】居られる。ゴザル・オリゴザル・オツ

テとも。(佐)オンサル・オイヤル・オイナル

おんなん【名】鬼(ごっこ)。(佐)オンジヨオンジヨ

おんび【名】帯(幼児語)

【か】

【助】のに。ヤブルガ↓破れるのに。センガヨカ
ト↓しないがよいのに

がーが【名】鳥・鳥。(幼児語)

かーたん【名】ひい【感】これ。あのね。コライとも

かい【助】か。カン・ナとも。イッタカイ。(佐)カンタ

かい【名】粥

がい【名】佐【か】に

かいかいと【副】佐【窓を開け放つ

がえ【助】へ。タローガエイク↓太郎の家へ行く

がが【名】魚の骨(幼児語)

かかさ【名】妻またはおかあさん。カーチャン・オツ

カシヤンとも。(佐)カクサン・カカヤン

かがりあげ【名】うらなりの収穫

かかり【名】嫡子

かがる【動】刈る

かきさく【動】かき傷をつける

かきめき【名】請求書
かきもち【名】短冊型に切つて乾燥させたもち。
(佐)クワイモチ
かきやあえなます【名】佐【魚肉をいれたなます
かくさか【名】佐【酒瓶の臭味
かくち【名】佐【酒をマスに入れてのむこと
かくる【動】計量する
かげつたん【副】佐【ほんのちよびり
かげんのわるか【成】体の具合が悪い
かこむ【動】屈む
がざがざ【形】肌触りの荒いこと
かさほけ【名】かさのできた者
かじつり【名】マクワウリ(植物)
かじゆむ【動】ちちこまる。ガシユドル↓寒そうに
している
かすいもん【名】残り物
かすかすとある【成】佐【やせた体
かすくだす【動】すべてかき出す。カスクイアゲ
ルとも
かすくる【動】かきだす
かすねる【動】数える
かたいし【名】ツバキ・サザンカの実。(佐)カチャ
シ
かたぐ(げ)る【動】担ぐ。カタムルとも
かたげ【名】食事。ヒトカタゲ(1回の食事)。『広
辞苑』片食(かたげ)①1日2度の食事(近世、

朝夕2食)のうち、1回の食事)

かたこわい【名】佐【もち米を蒸した飯。おこわ。

コワイは強飯

かたぼ【名】片一方。カチャッポとも

かため【名】婚約の成立を意味する酒肴(一生一

鯛||一生一代)を仲人が嫁方に贈ること

かちがらす【名】鵜(鳥)

かちやきらん【成】勝てない

がつ・かと【助】ほど。はかり売りのような、値段
のはつきりしないものを買う場合に使う。100

円ガト(100円ほど)

かつかつ【名】佐【熱の高いこと

かつがつ【副】つぎつぎと。順序よく

かつきらーつと【副】判然と・正確に

がつくい【副】佐【きつちり・あつらえむぎ。カップイ
とも

かつこ(ぼ)ん【名】下駄。ガツタンとも。(幼児語)

かつし【名】頭(幼児語)

がつしよく【名】たへあわせ

かつたり【名】正確

がつたんこぶむ【成】佐【台の脚がそろわぬこと

がつたんひつちん【形】手荒く物音をたてる

かつちえん【成】佐【加入させない。(基)カテン

かつちりかん【形】佐【切り詰めた

かつてんぐるみ【成】佐【鵜呑み

がつばい【副】佐【がつくり。たくさんの意も

がつぶい[名] 逃へ向き

かつれる[動] 飢える

かてる[動] おかずを食べる。また、加える。古語
↓(糀つ・交つ・雑つ)。ワガモカチュージャ↓お前も
加えよ(佐)カッチェン

かと[副] 程、だけ。(バラ売りのものを)10銭が
ト

かどい[名] 火打ち石(石英)。昔火を起こすと
きに、石英と鉄片を摺り合わせた

かどぎる[名] 花嫁が婚家の近所のあいさつ廻
りすること。サルク↓歩く

かなぐつや[名] 馬蹄を打つ人

かなそれ[動] 佐 手足が引きつる

かなどる[動] 佐 うどんを湯がき小玉にする

かねつけ[名] お歯黒。(女房ことば)(佐)カネ。

昭和初期、市内でもお歯黒する人が見られた

かねぶつぼう[名] 佐 こがねむし

がばがば[名] がばがば[形] 履物・衣類の大きすぎ

かばし[名] 香ばしい

かぶいつく[動] 蓄り付く

かぶか[名] 蝸(虫)

かふすべ[名] 蚊をくすべること。(農家では、米
ぬかを焼く)

かぶる[動] 被る。ヒッカブル↓布をおおうこと。コ
ラム「被る」参照

かべたたき[名] 佐 サボテン

がつぶく かんび

かべちよろ[名] やもり

かまぎ[名] 吠

かまげる[動] 憶測する

がまたす[動] 精出す

がめに[名] 里芋・人参・ごぼう・大根などをごっ
た煮して、鱧や鶏肉などで味付けしたもの。旧盆

では、干しだら。祝いごとでは、自家飼育の鶏。

がめんこ[名] 子守用の袖なし、紐付きの冬着。

亀の形に似る

がめんはまんじゅう[名] サルトリイバラの葉を
両面にはった米の粉まんじゅう。

かやす[動] 返す。ヒックリカヤス(ひっくり返す)

から(る)こ[動] 背負う

からがみなり[名] 音だけの雷

からしな[名] あぶらな。※からしとは別種

からすみ[名] 佐 木炭

から(る)ほ[名] から、虚ろ

からむすび[名] 男むすび↓オナゴムスビ

がらる(れ)る[動] 叱られる

かる[動] 借りる。カッター↓借りてくる。借り
たは、カッター(買った)と混同されやすい

かるか[形] 軽い

かれひこ[名] 佐 やせっぽち

かわい(り)ごし[名] かわりばんこ

かわかわ[名] 水遊び。(幼児語)

かわぐるみ[副] 皮ごと。カワグルミタベル(皮のつ

いたまま食べる)

かわぞう[名] 佐 かわうそ

がわた[名] 物の外側。もちや饅頭の表皮

がん[名] 蟹。(佐)ガイ

がんから[副] 元から。全て

がんだん[名] 缶

がんだんしゃん[名] 神社。(鈴の擬声)幼児語

かんだんと[副] 佐 酒の爛を熱く

かんぎ[名] 石段・土の階段。基山の土塁の凹凸
を↓イモノガンギ。ガンギキル↓畑の小うねをつ

くること

かんげ[名] 毛髪

かんどしき[名] 佐 蒸籠

かんどろ[名] 切り干し大根

かんしよう[名] 佐 きちがい

かんじようする[動] 儉約する

かんすけ[名] 佐 きのこ

がんとちやーか[形] 佐 頑丈だ

がんによーに[名] お参り、葬式(幼児語)

かんにん[名] ごめんなさい。(大阪言葉)

かんのんさんがりやー[名] 佐 背中合わせに背
負う。ガリヤー↓カラウ(負う)

がんばん[名] 佐 岸

がんばんち[名] きせる

かんびゆう[名] 佐 頭

かんびよーえ[名] 佐 堀の泥をくみあげる器具

かんぶい(り)ふる[成]承知しない

かんぶいかんぶい[名]いやいや。(幼児語)

かんまん[副]佐 構わない。カンマンガツチャとも

かんめんさんな[成]佐 お構いなく

かんもかんも[副]うようよ

かんや[名]時候。カンヤノヨーナツタ(季節が良い頃になった)

【き】

き(ぎ)ーつく[動]くいつく

き(く)びる[動]くくる

きあがり[名]上気

きい[名]佐 水

きいこみ[名]佐 きりこみ↓重箱の大きいもの

きいす[名]キリギリス。ギイスナキ(舌打ち)キリギリスのなき声に似るからか

きーちらかす[名]食い散らす

きーつく[名]食いつく

きーなか[形]黄色い

きーもん[名]食い物

きうちこむ[動]佐 しょぼこむ

きおんさん[名]八坂神社(鳥栖・田代)。鳥栖では昭和3年から山笠が登場して、全市的な行事となった

きぎゆーた[名]ギギ↓なまずに似た魚で、エラの下に刺ひれ、鳴声の転化か。(佐)ギギユタロー

きく[動]匂いをかく。カズムとも

きく(け)る[動]効く

きこ[名]きなこ。キゴモチ↓きなこもち

きさきさき[名]佐 気前

きじぎし[名]すいば・すかんぽう

きしよく[名]気持ち。キシヨクノワルカ(気持ちが悪い)

きしよくええ[名]佐 大変

きじよす[名]佐 生繻子。生織の繻子。織り上げ後に糊抜・精錬をする『広辞苑』

きじんそつ[名]ゆきのした

きすのいごき[成]佐 微動。ギストン(毛)セン↓微動だにしない。『葉隠』267、「ぎすともすることなし」

きすほたくい(り)[形]傷だらけ

きたんぶらす(じ)か[形]佐 汚い

きち[名]粘土

きちーこつ[形]残念。(佐)キビシカコツ。(甲間のあいさつ)キチーコツジャツタ

きちぎち[副]きつちり。ギツチギツチとも

きちぎすす[名]動 ねばねばする

きつか[形]きつい。キツカツタ↓きつい意味のほか、残念だった意も

きつこんばつたん[名]シーソー。(幼児語)

きつすいばつたんらん[成]佐 ぬきさしならぬ

きつちやする[動]くつたりする

きつちよ[名]左利き

きつちよんちよん[名]いなご。(佐)シイツチョ

きつぱし[名]はし。(端)

きてれ[成]来い。キテンナー(丁寧語)

ぎと[接]佐 ならば。ソイギニヤート↓そんなら

ぎとぎと[形]油っぽいこと

ぎなん[名]ぎんなん

きのいく[成]交合の快感。(佐)ケノヨカ

きのんばん[名]一昨夜

きばる[動]精出す・りきむ。類語↓ガダダス・ハリコム

きびしや[名]かがと

きびしよ[名]佐 急須

きびる[動]くくる

きもききる[成]佐 多少むりして思いきる

きもん[名]着物

きやーくだます[成]佐 だます

きやーけ[名]風邪。『広辞苑』「がいけ(咳気)せきの多く出ること。また、せきの出る病気。風邪」

きやす[動]消す

きやーすか[動]たやすい・容易。ソククリヤンコ

きやーつか(ら)る[名]カイツブリ(鳥)

きやーとる[動]貸している

きやーなえる[動]なえる

きやーなずる【動】からかう。古語「掻き撫つ」↓
なでる・さする

きやーまぜる【動】かき混ぜる

きやーびよう【名・佐】看病

きやーもち【名】そばがき↓そば粉を熱湯でねり、塩味で食べる即席料理

きやしこ【成】これだけ

きやしこんしこ【成】こんなにたくさん。シコ↓シコロ(容量)。シコロンウーカ↓量が多い

きやす【動】消す

きやすか【名】たやすい

きやすちゆーごつ【成】いやというほど

きやひびき【名】蛙。ヒキとも

きやふ【名】脚布・腰巻。キヤフカブセラレチゴザル

↓かかあ天下。(佐)ハダシイ

きやぶつ【名】基肄養父の者

きやん【接・佐】だろっか。キヤーモンニイタキヤン↓買物に行ったか

きやん【副】こんなに。ギヤンカカリニヤーテ↓こんなに

きゆつ【名】今日

きゆーらしか【形】ぎょうぎょうしい

きゆんきゆん【形】鼻を刺激する

きよつじや【名】兄弟

きよーぎよーし【名】オオヨシキリ(鳥)

きよーほ【名】けいれん。キョーホンヒク↓けいれ

んをおこす。(佐)ツイノクル

きよらんきよらん【形】きよろぎよろ

きよん【名・佐】相うち

きよんきよん【形】威勢がよい

きらす【動・佐】そらす

きらす【名】おから・トーフノハナとも。きらすは、古語で雪花菜・切らず。切る必要がないの意

ぎりぎりす【名】つむじ。ギリギリスノヨゴドル↓つむじまがり

きる【動】お金をくずす。ワルとも

きん【名】絹

きんきんむくる【名】ムクロジ(植物)。実は、羽子板の羽根に利用

きんこすな【名】粉のような砂

きんさい【成・佐】きなさい

きんだらまき【名】ぐるぐるまき

きんだらみやー【名】きりきりまい

きんど【名】屋敷の入口付近。切戸・木戸・近道などの転化か

きんにや【接】ならば。(佐)ギント

きんねふむ【成・佐】人を評価する

きんば【名・佐】きわ・はし

きんばす【名】部分的な頭髮のハゲ

きんばんじや【名】きれいずき・几帳面の意。キントジャとも

きんや【名】両替商

きんりよう【名】はかり

く

くい【名・佐】栗

くいり【やーばし】【名】栗の枝で作った、正月料理用の箸。厨房||台所と、栗をかけている。わらべ唄参照

くだす【動・佐】くみ出す

くだんさい【成・佐】ください。クンサイとも

くいやあ【名・佐】やりくり

くうず【名】クサガメ

くーすと【副】ぐっと。グストツカム(ギツと掴む)

くーつとして【副】ふきげんに

くうや【名】染物屋。紺屋の訛りか

くーらしか【形】蒸し暑い

くうわびき【名・佐】トノサマガエル

くける【動】間引く。古語に、くけこむ(縮け込む)↓糸目が見えないように布の端の中に入れて縫う。くける

くしくい【名】熱中する

くじく【動】下腹がしくしく痛む

くじや【助】こそ。ソギヤンクシャ↓そうにきまってる

くじる【動】いじる。セセルとも

くそごーり【名】からすうり。クソゴイとも

くそたれごし【名】へっぴり腰

くだけ【名】屑米

くださらんか【成】下さい。〔丁寧語〕

くだす【動】下痢する

くだまき【名】くつわ虫。(鳴き声が糸を竹管に巻く音に似ている。)

くだまく【動】くだを巻く

くちなわ【名】へび

くちへんじ【名】口ごたえ

ぐつく【名】靴(幼児語)

ぐつじやい【名】たくさん

ぐつちやい【形・佐】ぐつたり

ぐつちよ【接】競う。ハシリグツチョ↓競争。オット

リグツチョ↓奪い合い

くど【名】かまど。クド

ヅクリ↓かまど形の

家のつくり。へつちサン

とも。かまどの神の古

語は「へつひ」、古くは

かまどの後方の通気

穴のこと(図)

くどらしか【形】くど

ら。『葉隠』343、くどづく。グドウグドウスル↓

ぐずつく

ぐんやつ【副】ぐにやぐにや

ぐのき【名・佐】くぬぎ

ぐのみ【動】まるのみ

くぶる【動】くべる

くまんちよ【名】アブラゼミ

くやく【名】公役。(村や地区の作業)

くやみ【名】吊問

くゆる【動】くずれる

くひひ【名】連【がつかりする

くらすみ【名】暗い隅・目に届かぬ所

くらする【動】殴る。クレツケルとも

くりや【名】小粒の栗。ササグリとも

くりに【助】くらいいほど。アングリヤー↓あの

くら

くまのり【名】まわり

くまぶく【動】下を向く

くまや【名】水車による脱穀製粉業

くぬめ【接】ぐるみ。ホネグルメクウ↓骨ごと食べる

くぬひつ【副】ぐるっと

くぬの【動】物をくれる

くれくれとなか【成・佐】久しく見当たらぬ

くぬめ【名】玄米

くんさい【動・佐】下さい【基】クレンナ

くんち【名】供日。9のつく日を選び村の祭日と

したが、現在では日曜日などに変更

【か】

け【接】だから。ケン・ケンガラとも。ソイケンデ(そ

れだから)

けえ【動】来い。コンナ。(佐)キンサイ

けーけ【動】帰る。(幼児語)

けーばちがやす【連】蹴ってひっくりかえす。単

に、バチガヤスとも

げさつか【形】下品な

げしげし【名】すいば。ギシギシとも

けしにやーこえ【名・佐】地声

げすのき【名】カラタチの木。ゲズは接木の台木

のこと

げせる【動】こまごまという。グズルとも

けそけ【副】そわそわ

けた【名・佐】稲穂から落ちたもみ

けちんぼ【代】けちな人

けつくつ【副】佐【むしろ

けつくつ【動】佐【関係する

げどされ【名】道に外れた者

げにや【接】ならば。(佐)ギント。ゲンニヤとも。ア

サハヨクゲニヤ↓朝早く行くと

けぶい【形】けむたい

けぶいだし【名】煙突

けーまつる【動】佐【つまずく。『葉隠』848、ケ

マツル↓けつまずくの方言

けん【接】ケンデとも。アメノフルケンヤメタ(雨が

降るからやめた)

けんか【形】佐【刺々しい顔

けんしきとる【成】威張る。気取る。アンヒトハケンシキノタカカ(あの人は威張る)

【ナ】

こい【代】これ。人物。人に対しては卑語。コイドン→これらの者

こいごい【形・佐】食欲盛んなさま

こいじ【副】これだけ。コギヤシコとも

こいじ【形・佐】本気になって

こいじかんじ【成・佐】こんなにたくさん

こいじやけ【成】これだけ

こいど【副】これで

こいどん【代】この人たち。どん↓殿

こいば【成】これを。コイバクリユーター↓これをやろう

こいほ【成・佐】こりる

こい【感・佐】ほっ

こい【名・佐】脚半

こい【名・佐】坪刈り

こい【名・佐】乾く

こい【名】麴作り屋

こい【名】寝る

こい【名】騒ぎ出す

こい【名】買った【成・佐】買ってくれた

こいばし【名】裸麦をいって粉にした食物(佐)ハツタイ

こい【名】カワニナ

こい【名】スズメノテツポウ(植物)

こい【名】こもり傘

こい【名】背中

こい【名】シマヘビ

こい【名】堆肥すくい。(基)サキジョーケ

こい【名】肥松。(松の根・節の松脂の多い部分で、燃やして明かりとした。)

こい【副】急いで。ゴーゴツイカンカイ↓ささと歩け

こい【名】素焼き

こい【名】フクロウ(鳥)。(佐)トロットコーズ

こい【名】鳥見鳥貝。(溝貝)

こい【名】巻き貝。(佐)ホージャ

こい【名】肩甲骨

こい【名】大きな

こい【名】たくさん。(佐)ゴーホイ。ゴーホナ

こい【名】焙烙・素焼きの平たい土鍋

こい【名】洗面用の脚高桶

こい【名】こげつく

こぎしやべる【動】つぶれる

こぎや【副】これだけ

こぎやし【名】成【成】こんなにたくさん

こぎやな【副】こんな。コギヤンとも

こぎやんかかり【副】こんなさまに。

こぎ【動】値切る

こく【動】ぬかす。ナンバコクカ↓何を言うか

こく【名】粉みじん

こく【名】びんの口。(城や陣營の要所となるマス形に、曲げた出入口を虎口。)

こく【動】くぐる

こく【名】よく煮えきらず、歯になじぬ

こく【副】こくにこ入

こぎ【成・佐】さようなら。(佐)ソイギとも

こさがし【名】家の中を探す

こさ【動】こさぐ

こさ【名】こま・小物

こさ【名】おられる

こさ【名】おられます

こさ【接尾】おき。イチンチゴシ↓1日ごと

こさ【動・佐】挫折する

こさ【動】凍死する

こさ【動】かじかむ

こさ【副】本気になって

こさ【形】ませた

こじらかす【動】無理して容態(事態)を悪くする。(こじらせる)

こすか【形】けち

こすく【名】動】こまかす

こすほ【名】佐】ずるい人。コスホーとも

こせんぼ【名】佐】食事時

こせんぼ【名】佐】助産婦の古称

こつと【副】こつそりと

こたえん【副】すぐ。ゴツットオキル。イツキとも

こたえん【成】たまらん。シヨンベンシユゴシテコ

タエン↓小便したくてたまらない

こたる【助動】よつた

こちやー【名】体。(五体)

こちやしくり【名】休養から転じて、共同作業。

(公役)

こちよべん【動】くすぐる

こちよべん【形】魚がたくさん泳ぐさま

こちよこちよのき【名】佐】サルスベリ(植物)。(佐)コ

チヨグイノキ

こつ【接尾】ごと。アメノフローゴツナツタ(雨が降りそつになつた)

こつ【名】佐】農作物の陰

こつ【名】佐】投げつける

こつかぶい【名】動】ゴキブリ。関西弁で、御器被

りの縮音。明治初期の教科書が誤つて、ゴキブリ

とした

こびくーさん【名】神に供える新米飯

こびくやす【動】くずす

こびくらす【動】殴る

こびけ【名】肝斑。(皮膚に出る褐色の斑点)コツケ

ジジイ↓爺じじい

こびけん【名】成】こつりところぶ

こびけん【名】佐】老婆

こびく【動】佐】押し込む

こびちーめし【名】炊きそごないの固い米

こつちけー【成】こつちに来い

こつちやー【成】持て余す。疲れる。(基)あく

しゃつつ

こつ【名】成】鉢合わせ

こつ【名】佐】しらみの親

こつ【名】佐】雄牛・容易に動かぬ牛

こつ【副】佐】いつも

こつ【名】成】要領がよい

こつ【名】動】はがす

こつ【名】成】忙しい。(事が多い)

こつ【名】佐】よどむとどこおる

こつ【名】佐】謝罪

こつ【名】動】いじめる。『葉隠』597

こねり【名】リンパ腺の腫れ

こねる【動】理屈をなぐる(佐)コネクレ

こびんちよ【形】小さい

こぶ【名】クモ(虫)

こぶてらしか【形】厚ぼたたい・味がしつこい

こぶのえ【名】佐】クモの巣

こぶる【動】かじる

こまか【形】小さい。コンチョコカ・チーンカとも。

(佐)ケーマカ・ケンチョコカ

こみじゅつ【名】ぱちんこ。(佐)ゴム鉄砲↓二又に分かれた枝の主軸にゴムを張り、小石などを挟んで飛ばすおもちゃ

こめぬか【名】てのこ

こめんげた【名】竹皮をはった歯のない下駄。大

正始め頃の子どものはきもの

こもくそ【名】こみ

こもつか【名】カマツカ(魚)

こもりじよ【名】子守女。モリジョとも

こやらしか【形】かわいい(佐)ムヅウカ

こらい【感】これ・あのね。コリヤー(卑語)

こらし【接尾】こい・きなさい(佐)キンサイ

こらゆる【動】こらえる

こりこり【形】歯ごたえのよい味。コリンコリンとも

こりこり【副】かりかり

こりやー【感】これ・おい。コライとも

ころごる【名】成】いくらあつてもたりない。ゼンノ

ゴロゴイル↓お金がうんといふ

ころごる【名】雷様

ころじ【名】小麦粉。ハンゴロシ↓半分ついた粉

【副】はつきり。コロットシトル

【名】赤飯・強飯。(佐)セツカン

【形】いかめしい

【形】かたぐるしい

【名】歌う前、空咳で声を整えること。声をつくるの詠り

【名】固くなったもち

【動】凝る

【名】全部。シツキヤとも

【名】こみ。ゴモクゾとも

【名】たくあん。(幼児語)

【副】勢いよく水が流れる様

【代】意志の強いしつかりした人

【名】客間・座敷。御前の転化か

【名】あおっぱな

【名】人形

【動】かき混ぜる

【形】小さい

【名】米や種を入れる小袋

【副】この限り

【名】今夜

【名】米麦の取り入れ

【名】ゴボウ

【ナ】

【形】やりっぱなし。

ころっく さらん

【助】…へ…に。シニヤとも

【名】先ほど

【動】差し出す

【名】浪曲(祭文)

【名】浪曲師

【形】賢い

【名】さかさま

【名】逆さま

【動】発情する

【名】一昨々日

【名】堆肥すくい

【名】竹馬。鷺足からか

【名】暗中模索

【名】米ぬか、テノコとも

【名】インゲン豆

【名】小形の栗

【名】左(牛馬使)

【名】差し支える・金に困る。『磯野寿延記』に「差問え。』『葉隠』305 差合(差支え・鉢合せ)

【名】唐突

【成】咲いている。シャートルとも

【形】下火になる

【名】さつきから

【名】ペンギン

【副】さつさつと。ゴーツツとも

【成】てんやわんや

【名】祝儀。またはその折の食、物。『雑餉(ぎっしょう)』響応のための酒や食物、雑掌

『広辞苑』

【副】ちよつとの間

【副】おいそれと

【副】はつきりしない

【動】ころぶ

【名】里帰り。単にアルキとも

【名】物音

【名】種。(果実の種子の部分)

【名】裸麦を米に混ぜた飯

【動】さばける

【成】あつさりとした性格

【形】寒い

【形】みにくい

【名】炊事場の格子窓。冬は和紙をはり、夏は除く。古語で

狭間(図)

【形】さらった

とした態度

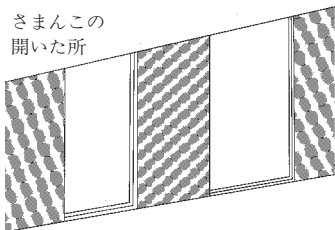
【名】新品。

マッサラとも

【名】女性

【名】初回の交合

【名】鉢



さるく【動】歩く。(佐)ソック↓うろつく意も

さるのかじみまやあ【成】酔って赤くなること

さんじ【名】佐 魚

さんちんわい【名】佐 3 等分

さんたく【名】佐 財布

さんびやーつけ【名】三杯酢

さんまえ【名】妊婦。(産前)

さんによつ【名】計算。算用の訛り

【く】

し(ひ)ちやべち【名】ひたひ

しー【名】幼児に小用を促す語。(幼児語)

し(い)り【名】かぶら【名】尻

し(い)か【名】佐 すいか

し(い)ぐち【名】佐 ヤマカガシ(へビの一種)

しーせ【名】祖父。ジジジャン・ジッチャン

し(い)しい【名】佐 魚。(基)ジジ。(幼児語)

じ(い)てん【名】成【佐】てんてんてん

し(い)せめ【動】佐 無理強い

しーだす【動】吸い出す

し(い)な【名】枇しんぼ

しーの【名】篩ふる(裏うら)し

じーばち【名】クワイ(植物)

し(い)もん【名】佐 吸い物

し(い)おあまか【形】塩味がうすい

し(い)おたれ【形】佐 みすばらしい。『葉隠』74、「兎

角武士はしほたれ、草臥くたがるるは疵かさなり」

しか【名】佐 うご

しかくる【動】しむける・手を付ける

しかしか【形】ちくちく。(佐)シカジカ

しかつか【形】乱雑な

しかとん(み)なか【形】つまらない見栄みえのな

い。シカトシナカモンバツテン↓粗末なものです

しかぶる【動】大小便を漏らす

しがまいつく【動】佐 しがみつく

しかめかやつて【形】しかめかえつて

じ(き)【副】すぐ

し(ぎ)い【名】佐 もとで

し(ぎ)い(ん)のいる【成】足がしびれる

じ(き)たび【名】地下足袋じかたび

し(き)る【動】できる

しく(け)る【動】しよげる。バシケスツ↓雰囲気

おされる

じ(く)ーな【形】佐 妙な

じ(く)じ【名】じゆくし。(熟柿)(佐)じぐい

じ(く)じく【形】じゆくじゆく

じ(げ)んもん【名】土地の人

じ(ご)【名】はらわた。ジゴノデゴトキバル↓腸の出

るほど頑張る

じ(ご)え【名】だみ声

じ(ご)たむる【動】佐 いじめる

じ(ご)る【動】繁る・成長する

じ(ご)る【名】容量。シゴとも。コギヤシコ↓これだけ

の量。シゴロンウーカ↓量が多い

じ(ご)んじ(ご)ん【形】し(ご)んじ(ご)

じ(ご)【名】小便(幼児語)

じ(ご)【名】魚。(幼児語)タイノジジ↓鯛。(佐)ジ

ジ

じ(じ)やん【名】祖父(佐賀)ジヤン

じ(し)ゆーがる【成】佐 大事にする

じ(だ)【名】地面

じ(た)たか【名】佐 相当長時間じきじつという間

じ(た)たきたらじよ【名】佐 ヒタキ

じ(た)んさき【名】舌

じ(ち)こいか【形】濃い味。し(ち)この訛りか

じ(ち)むつかしか【形】佐 気安くない

じ(ち)やかちや【形】めちやくちや・乱雑な。同義語

↓サーグラバーグラ

じ(ち)よめかす【動】そそのかす

じ(ち)きや【副】佐 全部

じ(ち)くい【副】佐 ずぶ濡れ。ジヨポリとも

じ(ち)もへい【副】佐 手を替え品を替え

じ(ち)くんさい【成】佐 して下さる

じ(ち)たんたき【動】佐 沸騰する

じ(ち)ちやんじ【名】佐 あべへん

じ(ち)ちよこちよ【形】佐 つんつるてん。ツンツラツン

とも

じ(ち)ちのくさい【成】知っているよ

じつぱか【形・佐】立派・美しい

じつぽくだい【名・佐】飯台

じつろ【成】したろう。キツカツツロ↓きつかつたろ

じつえて【成・佐】しておいて

じつんにてん【形・佐】工夫を凝らす

してんな【動】してごらん。(佐)シテンヤイ

しと【名・佐】人。シツサン(人様)

しとじめ【名・佐】一々

しとせんに【副・佐】一気に

しとと【名・佐】小鳥

しとる【動】湿る

しとんしとん【副】しとしと

しな【名・佐】しな

しな【動】しな

しな【名・佐】しな

しな【名・佐】しな

しな【名・佐】しな

しな【名・佐】しな

しな【名・佐】しな

しな【名・佐】しな

しな【名・佐】しな

しな【名・佐】しな

しな【名・佐】しな

しな【名・佐】しな

まひぬ『日本書紀』

しみじみ【副】じつじつ。シミジミトニル

しみやーいやー【名】慰労会・うちあげ

しめじ【名】おしめ

しもつた感【佐】しまった

しもだりやー【名】下盥↓汚いものを洗うたらい

しやー【名】おかず。(菜)

じやーく【名】大工

じやーくじ【名】神官

じやーご【名】田舎。在郷の訛り

じやーこくばしら【名・佐】大黒柱

じやーこん【名】大根

じやーじどん【名】散使(村の小使いさん)

じやーづち【名】かけや

じやーとる【形】咲いている

じやーねか【形・佐】執念深い

しやーのけ【名・佐】

行列浮立の白熊(図)

しやーはて【名・佐】

最後(最期)

じやいけ【接・佐】だから

じやいこーべ【名・佐】されこうべ

しやいびやーづく【成・佐】おせっかいすぎる

しやいもなか【成・佐】ぞうさもない

しやか【助】さへ。でも。コイシヤカアレバ

しやかん【名】左官

しやく【名】物差し・尺

しやくし【名】しゃもじ

しやくなんぞ【名】しゃくなげ

しやくま【名】行列浮立のひとつで、棒の先端の赤

毛飾り(赤熊)

じやくる【名】ざくろ

じやくう【名・佐】アラゼミ。(基)クマンチョ

じやくむ【動】しやがむ

しやくてー【名・佐】弟

しやくべる【動】しやくべる。チャンボンフクとも

しやくばん【名・佐】ザボン(植物)

じやくる【動】邪魔する

しやくりき【名】大八車。シャリキバシャ↓大八車と

台車を組み立てた農事用馬車

しやくむり【副】しやくむりに

じやくええ【名】だみ声

しやくん【接尾】さん(様)

しやくす【名】情婦

しやくぎ【名】結婚式・祝儀

じやくげもん【名】つむじまがり

じやくご【名・佐】田舎。在郷の訛り

しやくご【名・佐】焼香

しやくたい【成】しやくたい。スルタイとも

じやくつ【名】縮まる

じやくる【動・佐】料理する

しやくれんがき【名・佐】干し柿

しゅーんとなる【成】元気がなくなる。シヨツチャイとも

じゅくじゅく【副】じくじく

じゅちやじゅちやめし【名・佐】水気が多い飯

じゅつくらつと【形・佐】十分な湿り

じゅつたまい【名・佐】水たまり

じゅつとなる【成】しゅんとなる

じゅむ【動】しみる

じゆぬ【名】汁

じゆるあめ【名】大麦で作った粘液状のあめ。短冊形に固めたものをアメカタ

じゆるか【形】水気が多い

じゆぬけだ【名】湿田

じゆつじ【名】醬油

じゆつじ【名・佐】ぞうり。ジヨッコとも。(基)ジヨッコ

じゆつきすの【動】風呂でのぼせる

じゆつじゆつくだす【成・佐】ひどい下痢

じゆつじゆつじ【副】きりきりつと

じゆつじゆつじ【名】小ばえ

じゆつじゆつじ【名・成】執念深い。(佐)シユーネツ

じゆつじゆつじ【名・成】根性がない

じゆつじゆつじ【名・佐】納税・上納。(基)小作米の納

じゆつじゆつじ【名・副】きりきりつと

じゆつじゆつじ【名・成】執念深い。(佐)シユーネツ

じゆつじゆつじ【名・成】根性がない

じゆつじゆつじ【名・副】きりきりつと

じゆつじゆつじ【名・成】根性がない

じよーしきする【成】ひとみしりする・我意をはける

じよーべんたご【名】小便所。(佐)シヨーベントング

じよーろへんぶ【名】シヨウロトンボ(虫)

じよご【名】草履(幼児語)、(佐)ぞうり

じよしまだめ【名】台所の溜めます

じよたじよた【形】雨にぬれるさま

じよらほい【形】ずぶ濡れ

じよて【名・佐】はじめ。シヨテカラ↓最初から

じよる【名】棕欄

じよるじよる【名】へび(幼児語)

じよんじよん【副】ごんざん

じよん【名・佐】娘

じよんじよん【名】汁・おつゆ。シヨンシヨンカケテマ

じよんだれみや【名】下がり眉

じよらげの【動】精白する(佐)はがす

じよあさつて【名】明々後日

じよかぶひ【名】尻

じよき(くれかんのん【名】やりつぱなし

じよくらべ【名】お互いに尻込みする

じよつじよつじ【名・成】いたたまれない・尻がこそば

じよ

じよやけ【名】飽き性

じよしか【形】辛い。古代の形容詞で、近世のいち

じるしの原語。夜や雨の外出などをシルシカ

しれーとわらう【成】にっこり笑う

しれんざれん【副】うやむや

じろじろ【成】字を書く。(幼児語)

じろぬたあえ【名・佐】豆腐の味噌和え

じわがれ【名】塩辛声

じわじゅーじゅー【名・佐】しわだらけ。(基)しわ

くちやもくちや

しわつと【形・佐】湿って歯切れが悪い

しわんしわん【形】手触りがやわらかい

しんぎく【名】春菊

しんじやーかぎ【名・佐】身代限りの詛り

しんじやんならん【成】もてあます。(佐)シンジヤ

しんない【形・佐】萎れたさま

しんのす【名】肝門。す↓ミンス、ハナンスと穴の

しんのす【名】便秘

しんばちがさ【名】竹皮製の

筥(図)

しんぶー【名】辛抱

しんぶん【副】よく。シンブン

ガマダス↓よく精を出す

しんべん【副】珍しい

しんみらーつと【副】しみじみ

と・味がよくしみた



【す】

す(こ)ぎやん【副】そつだ

すい(ひ)こすい【名】すりつける

すい(り)こむ【動】布団の中にもぐる

すいこぎ【名】すりこぎ

すいつけぎ【名】マッチ。ツケギ(付け木)は、マッチ

以前の薄板に硫黄をぬつたもの

すーいか【形】すっぱい

すつきい【名】佐 魚などを丸ごと切る

すつべい【名】佐 ドングリ

すーしー【名】雑炊

すつすつとある【成】佐 うすら寒い

すつだ【名】佐 蓮の実

すえこ【名】佐 末っ子

すーちやー【名】凶体。胴体の詠り

すーんとする【動】ぞーっとする

すうなが【名】佐 まんなか

すーぼーどん【名】鑄掛け屋さん

すがい(り)【名】アリ(虫)

すかしべ【名】音をたてぬ屁

すがじやー【名】佐 婚礼のときの飾り菓子

すかたんくらつ【成】すかされる

すかばれ【名】顔がはれる

すぎやん【名】そつだ

すくたれ【形】佐 だらしがない。『葉隠』61、すくた

れ↓卑怯・卑劣・やくざな者。スタレンゴトシトル(身なりに締りがない)

すくこ【副】ずんぐりと

すくにゆうん【名】頭。(佐)カンピユウ・カンパイ

すくにゆうんよごごつ【成】素直でないこと。木菟きう入、僧にゅうや坊主頭の人を罵って言う後。『広辞苑』

すくね【名】動 すねる

すくほ【名】つくし

すくれる【動】佐 弱る・閉口する

すぐるじむ【成】佐 内出血で青黒くなる

すけいし【名】礎石

すけもん【名】受ける物

すける【動】受ける

すげる【動】下駄の緒をたてる・くわの柄などを取りかえる。古語↓すぐ(挿ぐ)差し込む

すけんすけん【副】すけすけ

すごく【動】しごく

すこたんくらつ【成】すかされる

すごちやー【名】手ぶら↓素五体。

すじ【名】静脈

すじょうのよか【成】形のよい

すすくいあがる【動】佐 ずり上がる

すすめぎやー【名】シジミ貝

すすめる【動】溢れる

すそご【名】末っ子

すたーつとする【成】急に止む

すたくもん【名】怠け者

すたくもんおどし【成】秋口、急に冷えること。(冬支度のすんでない主婦をあわてさせる)

すたすた【形】刃物のよくきれるさま

すだだれかかる【成】佐 くちて落ちかかる

すためる【動】余分の湯水をする

すだももつ【名】佐 シタ(植物)

すたんすたん【副】ぼたぼた

すつうせぬ【成】佐 ぴんとこぬ

すつきらつと【形】はつきりと・鮮やかに

すつきん【名】頭巾

すつきんすつきん【副】すきすき

すつくつ【名】佐 横太りの人

すつけんぎよう【名】片足とび

すつたいする【動】泣き止む

すつたいする【動】佐 気力が衰える

すつてんごつてん【副】佐 そつとかこうとか

すつてんごつてん【副】うんともすんとも。(佐)スツテンイワン

すつばい【名】佐 全部・すべて

すつべらぼん【名】佐 スポンポン

すつばらまきや【成】そ知らぬふうで

すつぽく【動】抜く。ヒツコグとも。(佐)スッポイ

すて【名】油粕。すて粕の略か

すてんぼてん【名】佐 無一文、すつからかん

すてんびん【名】重みのないこと

すぎやーすどん

ずな【名】砂

ずびく【形】つめたい。スピクゴタル↓冷たい水を飲んだ時の慣用句

ずひんか【形・佐】生意気

ずぶがえ【名】物々交換

ずぶくる【動】すべる(佐)スメクル・スメクイタオス

ずぼる【動】くすぶる

すめ【名】吸い物

すめく【動・佐】隙間風が入る

すもる【名】どもる

すらかす【動・佐】怠ける

すららじ【名】うそ(空事)

すらなき【名】泣きまね

すりや【成】すれば。オマイが、ヨカゴトスリヤー

ヨカタイ↓お前が、いいようにすればよい

すりや〜わりや【名】つくり笑い。『葉隠』61、

「すら笑いする者は、男はすくたれ(身なりにしまりがないう者)、女はへらはる(淫乱)」

ずるずるべつたい【り】【成】ずるずると延ばす

すれ〜つ〜つ【副】何食わぬ顔で

するつで【名・佐】手の筋を痛める

すわぶる【動】吸う。(佐)シユール

ずんぐいかえし【成・佐】折り返し

すんだあがり【い】【副】すんだあと

すんだれる【形】ずりさがる

すんつ(と)きゃー・すんなら【名・佐】さような

ら・そのときは

【せ】

せい【名】セリ(芹||植物)

せいせけ【接】ので・から。スギヤンゼケ↓そうだから

せえかくる【副】せいにする

せーべ【名】楔くさび

せがせが【形】のどがむずがゆい

せからしか【形】うるさい

せきせばい【形・佐】狭い所で混みあう

せきたんかん【名】石油缶

せく【動】腹痛

せじい【接・佐】せずに

せじよう【名・佐】世帯

せせい【り】【名】せせりちよう(虫)

せつか【名・佐】牡蛎かき

せつかん【名・佐】赤飯

せつく【動】まつわる

せでずむむ【成】せんでもよいこと

せどや【名】家と家との狭い所

せにや【接】しなれば

せばか【形】狭い。セセコマシカとも。(佐)セツナカ

せび【名】セミ(蟬||虫)

せまち【名】小面積の田畑(狭地)

せりこむ【動】割り込む

せわしか【形】せわしい・忙しい

せわなし【名】安心・手がいらぬ。カセーシテクルルケ、セワナシ(手伝ってくれるので、助かる)

せん【名】澱粉。ワラビノセン

せん【名】お金(ぜに)

せんから【副】さつきから

せんきゅー【名】あばた

せんこずき【名】百日咳。コスク↓咳をする

せんじやーばたけ【名】屋敷内の畑。前菜の詛りか。『近世風俗史』にせんじや畑・前菜売り、『田代代官所日記』に「正徳元年正月、地面相改、相極左如し」として「せんさい」、センジヤモン(庭先でとれた農作物)

せんしやくのわるか【成】胸、腹のさしこみ

せんずい【り】【名】手淫

せんせん【名】お金(銭)。(幼児語)

せんぞー【名】使用人の部屋で、入口に近い所

せんどこつふ【代】線路工夫

せんのどろろ【い】【成】出費多端

せんなく【副】わざわざ

せんふり【名】せんぶり

せんぼん【名】出費。昔の財布は紐でくくったので、その紐をほどくの意か

せんみやー【名】せんまい

[N]

そいで【代】それ

そいり【代】成【成】それを

そいきん【名】竹木を伐ったあとのがった部分

(削ぎ木か)

そいけ【接】それで。ソイジャケン・ソイケンデと

も。(佐)ソイギ・ソイギニヤート

そいし【副】それだけ

そいしこいし【副】それしたりこれしたり(仕事

が定まらない)

そいばつてん【接】それでも。ソリバツテンとも

そいつい【名】佐【草履(ぞうり)

そつくしや【名】そうだ。スギヤクシャートとも

そつさつ【名】雑作もない

そつすつ【副】全部。ソーヨとも

そつだく【動】佐【処分する。片づける

そつこのつ【副】あまだこうだ

そつもつ【名】佐【凶作

そつら【名】簾(ささら)。直径4〜5cmくらいの

竹を細く割った鍋などの洗ひ具

そーがましか【形】騒がしい

そーぐれ【名】わるぶぎけ

そーさこーさなか【成】佐【雑作もない

そーすつ【名】すべて。ソーヨ・ミンナガツシャと

も。(佐)シツキヤ・スツバイ

そいゝだうす

ぞーたん【名】冗談。ゾータンハンブン(冗談半分)

ぞーつく【動】佐【うろつく。(基)サルク(歩く)に

類似

ぞーてるんこーてるん【副】そうとかこうとか

ぞーな【名】そうですか。スギヤンナとも

ぞーにや【副】とても。ソーニヤウーゴツジャロ→と

ても大変だろう

ぞーよ【名】費用。ゾーヨシイル↓経費がかかる

ぞぎやし【副】それだけ

ぞぎやんかかり【副】そんなふう

ぞくしやか【形】面憎い・くどい

ぞくぞく【副】佐【おしつげに

ぞくまんだち【名】佐【密生

ぞけべら【名】佐【続飯(そくい)べら。米粒をつぶして糊に

するべら

ぞくぞく【形】ぞくぞく

ぞこんにき【副】その辺。ソコンタイとも

ぞす【副】壊れる

ぞせんぼ【名】佐【助産婦

ぞそくる【動】手直す

ぞーな【副】そうですか

ぞねくる【動】反る。クセルとも

そのこうり【副】佐【その代わり

そばはちく【成】佐【そばづえをくう

そろけ【く】動【ぎっくり腰。コシノソロケタ

ぞろぞろ【名】うどん・そば。またはへび。(幼児語)

ぞろろ【副】そろりと

ぞろび【ぶ】動【引きずる

ぞんきりわく【成】腹が立つ。(佐)ゾウノワク

ぞんきい【名】佐【削ぎ木

ぞんくりやん【成】その位のこと

ぞんこく【動】損をする

ぞんときや【副】そのときは

ぞんなら【接】それなら。(佐)ソンナイバ

ぞんなり【副】そのまま

ぞんぶい【副】佐【びっしより

[た]

だー【感】どれどれ。ダーナ・ターヤとも

だい【代】だれ

だい(り)やみ【名】つかれがやむこと。古語で疲る

(つかれる)

だいがつな【成】誰の物ですか

だいさんか【副】佐【どなたか

だいでん【副】誰でも

たいてんまかちや【副】たいがい。(佐)タイガイ

ブン

たいのいお【名】鯛。(佐)チャー

たいへいらく【名】佐【自慢話

たいわん【副】佐【より多い

たいわんなぎ【名】ホテイアオイ(植物)

だうす【名】醸造用の大桶(図)

たかざるき【名】遠出

たきもん【名】たきもの。(薪)

たきやつぼ【名】佐 竹筒

たぐらう【動】暴れる

たけしやぼー【名】竹ぎれ

たけつぎ【名】踏み台。(丈継ぎ)

たけとぶ【動】佐 川・海で立つて

足がつくこと

たけん【名】タケノコ(筍)

たご【名】だんご

たごけ【名】こえ桶

たごじゆる【名】だんご汁。(味噌汁に練った小麦

粉を薄くのばし、手延べしたものを入れる)

たしなむ【動】大事にしまっておく。(佐)タボウ

トク。タシノードル↓ちびちびと飲み食べる

たす【名】ニワトコ(植物)

たたかう【動】佐 二つのが同時におこる

たたくれる【動】しわがよる。(佐)シワガル

ただむね【副】次第に

ただぼしり【名】ひた走り

だち【接】だてら

たちたちのぼれ【名】袋グモ。(ジグモ)

たつか【形】高い。タカカとも

たっち【名】立つこと。(幼児語)

だうちや【接】だが。ヨンダッチャ↓呼んでも

たうちやぎ【名】ナタマメ(植物)。古語↓太刀佩たちばな



|| 帯刀の形ににているからか。(佐)タチシヤギ

たてかう【動】からかう。(佐)たてつくこと

たてせ【副】縦に。介↓ヨコセ(横に)

たな助【ですよ。ソギヤンタナ↓そうです

たなぐる【形】仕事の段取り

たにわとい【名】佐 くいな。(田鶏か)

たねがし【名】餞別

たねひねい【名】佐 種まき

たのき【名】佐 タヌキ(狸)

たのし【名】たにし

たのみず【名】牛馬の飲み水。

たのむし【名】めい虫(稲茎にくい入る蛾の幼

虫)。タノムシトリ↓昭和初期まで小学生がかり

だされた

たばき【名】嘔吐

たばや【名】鮠はえ(魚)

たびらくち【名】佐 げんごろうの幼虫

たふな【名】水田のなかの小鮠な

たぶる【動】食べる

たぼーとく【形動】佐 使わずにしまっておく

たま【名】飴玉

だま【名】雌馬

たまがる【動】たまげる。古語に、魂消たまぎる(驚く)

だまくらかす【動】だます

だめる【動】毛筆の字や絵を何度もなぞる。『だむ

(彩む)・いろどる・彩色する。だむ』『広辞苑』

たより【名】死亡通知。(佐)トリーヤー

だら【名】たら(榎木)

だりがめ【名】たんぼがめ

だりのやむ【成】疲れが取れる。(佐)ダイヤミ

たりやあ【名】たらい

だる【形】疲れる。だるくなる

だるか【形】だるい。ダヤシカとも。(佐)チャーマシ

カ

たれかぶる【動】下痢する

だんぎ【名】杭

たんごぶ【名】こぶ

たんぞく【動】佐 探す。タンヌルとも

たんたん【名】湯茶。(幼児語)

たんとき【副】やにわに

たんなか【名】田んぼ、ホキヤ(戸外)とも

だんなんさん【名】地主・商家の主

たんねこくらく【成】佐 訪ね歩く

たんび【名】足袋たび(幼児語)

たんびたんび【副】たびたび。(佐)タンビンニ

だんぶ【名】風呂。(幼児語)

だんわい【形】水などがこぼれて溢れるさま。た

んまりの音声変化か。類以語、スズルル

【ち】

ち【接頭語】チーアエタ(落ちた)・チーマケタ(負けた)

ちよつくらかす【動】たぶらかす

ちーこーた【動・佐】買った

ちーちせび【名】ニイニイゼミ(虫)

ちーで【動】ついで。メシバチーデ。(飯をよそって)

ちーん【副】めったに。チーンキナサラン↓めったに
来られない

ちーんみらん【成】久しく見ない。(佐)クレクレ

トナカ

ちかつと【副】すこし。チヨビットとも。(佐)チーツ

ちかもい【名・佐】近所

ちからしば【名】椰なまき

ちきい(り)【名】はかり。大

きなものはキンリヨウ(図)

ちぎる【動】もぐ

ちげ【名・佐】頭の重い病氣

ちげ【名】地元・土地。古語

で治ちげ下、支配、管轄下にある村里

ちごかす【動】捻挫する

ちごちご【形】親しく

ちじゅむ【形】縮む

ちちくじゅみやー【名・佐】急いで逃げること。(基)

チンニアル

ちっかんぱつたん【形】足の不自由な時の歩く様

ちつご【名】筑後。チツゴガワ↓筑後川

ちつじゅびつ【副】佐【こじんまりと



ちまき【名】チガヤの葉で、

こねた米の粉をまき蒸し

た物。(図)

ちや【接】ともても。ソギ

ヤンユータツチャ
ちやーすがましか【成】手

荒い。テアラカとも

ちやーのいお【名・佐】鯛。

イオ↓魚うお

ちやーましか【形・佐】だるい

ちやいろかし【名】取っ手つきで経20cm位の素焼

きの器で、ゴマや豆などをい

ちやつがき【名・佐】キヤラガキ(柿の一種)

ちやちやくちや【名】めちやくちや

ちやのこ【名】おやつ・お三時

ちやば【名・佐】萬苳(植物)

ちやも【名】チャボ

ちやん【名・佐】お父さん

ちやんちやん【名】おしまい。(幼児語)

ちやんぼんぶく【成】おしやべり

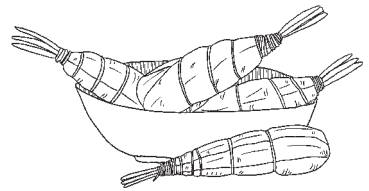
ちゆーき【名】中風

ちゆーそんぶらい【名・佐】どちらでもない

ちゆーの【名】手斧

ちゆぢゅむ【動】ちぢむ

ちよいころい【副】佐【少しの時間
ちよーず【名】便所。チョーズドコとも



ちよーずこがえ【名・佐】洗面用の長脚たらい

ちよーちよ【名】猫。ニャーニャとも。(幼児語)

ちよーちよまんご【名】チヨウ(蝶)。(幼児語)

ちよーちる【動】佐【落ちる

ちよつくらかす【動】たぶらかす
ちよぎつと【名・佐】ぶつきらぼう

ちよごつと【副】少し。チヨポットとも

ちよかごーで【成・佐】しゃがんで

ちよごがい【副】ちよこんと。(佐)チヨンモイト

ちよつちよつ【名】手洗い桶

ちよつちよつ【副】ちよくちよく

ちよごごいにや【副】急には

ちよろい【副】簡単・容易

ちよるまがす【成】ごまがす

ちよんちよん【名】性交。(佐)女性器

ちーんみらん【成】久しく見ない

ちんか【形】小さい。コンチヨカ・コマカとも。(佐)コ

ピンチヨ。ちんこ(こども)の転化か

ちんかもん【名】こども

ちんころ【名・佐】髪飾り

ちんじゅつかしら【名・佐】ちぢれ髪

ちんだいはな【名】百日草。鎮台ちんたいは旧陸軍の師団

の古称で、軍服の色が花に似ているからか

ちんちくだけ【名】ほてい竹

ちんちくりん【形】着物の丈が短いこと
ちんちるみやー【名】てんてこ舞い

ちんちるりん【名】松虫またはヤブコージ

ちんちん【名】女性器

ちんちんばらばら【形動】てんでんばらばら

ちんちいがけ【名・佐】紐を千鳥にかける

ちんにげる【動】逃げる

ちんぼ【名】男性器。(佐)ドンベン

ちんまるか【形・佐】まんまるい

じ

つ【名】果物などのへた。かさぶた

つ(り)【名】おつり。ツイノクル↓おつりがくる

ついいびやー【副・佐】きつちり

ついやう【動・佐】連絡する

つー【名】かさぶた

つうたん【名・佐】馬鹿者

つが(ぐる)【動】交尾する

つがえ【名】小桶

つかしい【副・佐】変な

つかまえおんじよ【名・佐】鬼(ご)。 (基) オンナン

つき【名】うつわ。古語で、つき(坏・杯)

つきあつ【動・佐】押し合っ

つき(け)みちちて【成・佐】つききりで

つきやー【名】使い。ツキヤーイタチケ↓使いにいつ

て(い)

つくしか【形・佐】美しい

つくべ(る)【動】つくべ

つくくつくく【名】つくつくぼし。(佐)ズクズク

ツシヨ

つくばむ【動】うずくまる。ツクボードル(うずく

まつてい(る))

つくむ(る)【動・佐】いじめる

つくくつくく【名・佐】ふところ

つくくつくく【動・佐】へじがとぐろをまく

つくくつくく【名・佐】懐炉。

つくあ(げ)【名】肌が黒ずむ

つけだけ【名】付け木。薄い短冊形の板の一端に、

硫黄をぬったもの。火を移すに用い、昭和初年ま

で使用。(佐)スイツケギ

つけもん【名】漬物

つごーてぬ(る)【成・佐】布団の双方から足を入れ

て寝る

つごもり【名】晦日

つごんばん【名】大みそか

つち【名】天上裏。(たきぎ・わらなどを収納)

ついいも【名・佐】サボテン

つにおだ【名・佐】屑米で作っただんご

つかれる【動】枯れる

つつきえる【動】消える

つぎわたる【動・佐】長く列をなす

つづく【動】歯の痛み

つづくつ【名・佐】横太りの人

つづくやす【動】壊す

つづくつ【動】つくく

つづくつ【副】平均して(佐)ボツコミ

つづくつ【名】つづくつ。大人と男の子の冬の家

庭着で、袖口から袖付まで斜めになった着物

つづくつ【名・佐】旋風

つづくつ【名】溜池・堤。古賀町の古文書に、「香椎

宮泉水に包候水と、古賀村に包候水と等分に分

け候事」また『基肄養父実記』に、「水口の田に

ても心ままに水をつつませなされず」

つづくつ【名】わらづと苞。食べ物を入れるわら製の

容器で、ツトコブラ(ふ

くらはぎ)に似ている

つづくつ【名】ふくらはぎ。こぶら↓腓

つづくつ【名】おとつさん。ツトシヤンとも。(佐)チャ

ン

つば(る)つしな【成】寒さで唇の赤味がなくな

る

つば(じ)や(る)【動・佐】ひしやげる

つば【名】庭。ツボサキ(庭先)

つまぐれ【名】ホウセンカ(植物)。(佐)ツマネ

つめつき【形・佐】ボタン付き

つめ(る)【動】どもる

つらー【副】ひととおり・一律に



つらぬすくして【形：佐】そ知らぬ顔で

つらぼる【動】表面に皮ができる

つらみたんなか【形：佐】つらくい

つらよー【名】顔形・面様・面容か。(全国的に顔

面の2系統にわかれ、つらは九州西・中部以南と
関東以北に混在、かおより古い)

つらわれ【名】はずかしがりや

つれうしなう【成】離ればなれ

つれやー【名】つれあい、夫婦

つわ【名】つわぶき

つんきーだこ【名：佐】麦粉をねってちぎり、味噌

味で煮たもの。ツンキル↓千切る。(基)だごじる

つんくじむ【動】つみ切る・ちぎる

つんぐりまんぐり【形】もつれるさま

つんたか【形】冷たい

つんなう【動】つれなう。ツン(接頭語)はツンモル
(もれる)、ツンバル(支える)、ツンバラウ(払う)な
ど意味を強める

つんまいと【形：佐】かつこうよく

つんぶるつ【形動】払い落とす

(N)

て【終助】よ。ヨカテ(いいよ)

てあらか【形】手荒い。(佐)テアツガマシカ

ていこくられて【成：佐】照り付けられて

ていじ【名】砥石とじ

ていじびやー【名】手いっぱい。(佐)意のまま

ていぐ【動：佐】出向く

てえじんさん【名】天神様

てーす【名】主人・亭主

てーすまえ【名】主人側・招待する側

てへつとして【形：佐】がっちりした

てべるみ【副：佐】勝手に。テゴミとも。『葉隠』3

43、手ごなし(たやすく手みずからすること)

てけもん【名】おでき

てしー【副】手ずから

てしきおよばん【成：佐】手におえぬ

てしでしと【副：佐】思いきりよく

てしやーにん【名：佐】器用な人

てすからやみやー【成：佐】自分から病気をひ

きおこす

てすまとり【名】手品

てちやあ【接】でも。ソギヤンユータテチャア↓そ

んなにいつても

てつきぬつ【名】もち網

てつちやん【名】弟子

てつていばちつ【副】手取り早く

てつていばちつ【副：佐】しようと思つて

てつていばちつ【名】鉄砲

てつていばちつ【形】ふくぶくしく

てつぼう【名】袖が、筒状になったあわせの家庭

着。ツツソデ・トージンとも

てて【名】手(幼児語)

てて【助：佐】と思つて

ててくりあう【成：佐】野合・私通(乳繰り合)

ててくぶぶ【名】素焼きの鳩のおもちや

てぬき【名】手袋・(手を抜く)

てのこ【名】米ぬか

てのぐい【名】手ぬぐい。テングとも。「のぐい」は古

語ことば「拭」の転化か

てほ【名】かゝ

てほちん【名】出びたい・ひたい

てませ【名】手遊び

てまり【名】あじさい

てや【助：佐】だど。ナンテヤ↓何だと

てやすまい【名：佐】手を抜く

てゆう【動】稲麦を束に結ぶ

てようじょう【名：佐】入院

てれいする【形動：佐】宛が外れる

てれんぱれん【形動】何もせずぶらぶら

てる【助】とか。ナンテローテロ↓何とかこうとか

てん【助】二つ以上のを併列する意味。カミテン

フデテン↓紙や筆。テロンとも

てん【助】でも。ダッテン↓誰でも

てんか【助】みたら。キテンカ↓きてみたら。(大阪

言葉)

てんぐい(り)がやす【動】ひっくりかえす

てんじく【名】天・空

てんじょくいつびやめ【名:佐】全世界

てんてん【名】頭(幼児語)

てんぞい(り)ほひぞい(り)【名】奪い合ふ

てんとくさー【名】太陽

てんなつ【動:佐】許しをさえる

てんなんてん【助】なんか。コーカイテンナンテン

セン→後悔などしない

てんび【名:佐】隕石いんせき

てんやい【名:佐】してごらん。クーテンヤイ→食

べてごらん

【ト】

てい【名】鳥

てい【名】土手。(佐)デエ

ていくいしもつた【成:佐】しまった

ていつく【動】取憑とりつく

ていで【成】どれで

ていは【助】どれを

ていめ【名】とりめ。(夜盲症)

ていも【名】サツマイモ。カライモとも

ていやがっしや【名:佐】混

雑

てつきび【名】トウモロコシ

ていつく【名:佐】七輪。(基)

銅壺

てうす【名】土臼。糎すり



器(図)

てうどう馬を止める掛け声

てうどう【名:佐】水口から川に水が落ちる所

てうどうしか【形】ぶさがち

てうみ【名】唐箕、穀物の選

別機(図)

てーかい【成】どうですか

てーがやし【名】麦飯

てーさんまん【名】とつ

せんぼ(幼児語)

てーじ【副】いつも

てーじうち【名】相討ち・仲間うちのけんか

てーしたと【成】どうしたの。ドギャンシタとも

てーしみ【名】燈心。古語、油にひたして燈火を

灯すもの。はくさんぼくの若枝のズイを針金で

押し出し、油に浸して干す。和名で度宇之美

てーじん【名】筒袖の着物。(佐)シヤツ

てーじくされ【名】悪友に染まる

てーちにやー【成】何だと。ドーチャーとも

てーつき【名】土突き。(佐)

イシボツキ。「仕事の唄」

(石つき唄)参照(図)

てーてろんこーてろん

【副】どうとかこうとか。ド

ーテロコーテロとも

てーでん【副】ぜひ。同義語



↓シャッテ

てーでんこーでん【副】どうしても

てーど【名】馬(幼児語)

てーな【成】どうですか。ドーカイとも

てーばた【名:佐】紙製の凧た

てーふのはな【名】おから

てーろきやーる【副】どうにか。ドーロコーロとも

てーわるかい【成】かまうものか(佐)カンマン

てーんなか【形】どうもない・味がない

どがいかかる【動:佐】つかかる

とかぎ【名】とかげ。トカンキとも

てーぐら【名】サーカス、曲芸

どきずわる【動:佐】座り込む

どぎやし【副】どれほど

どぎやなふーな【成】どんな様子・どんな具合か

どぎやん【副】どんな

どぎやんかすつ【副】どうかすると

どぎやんとすつ【成】何をするのか

どけ【成】どこに・どこへ

と【名】ところ

と【え(ゆ)る【動】おどける。トンコスクとも

とこれ【助】なのに。トケとも。ハヨイキナサツタ

トコレ→早く行かれた

どんんどんん【副】どんも(こ)も

とじ【名:佐】飯のこげ

どし【名】友人・仲間

どじくされ[名]佐 悪友にそまること

どじなげき[成] 女性が二人で行動すること

どじより[名] 年寄り

どじよんなか[成] 寂しい。トゼンナカとも。古語

「徒然」退屈、手持ち無沙汰なさま

どずどず[名] どたばた

どんぐんぐん[副] 佐 かれこれ

どぢどぢ[形] 汁などねばっこい

どぢみぢ[副] どのみぢ

どすむる[動] 佐 頭の働きがにぶる

どびき[名] 佐 泊りがけ

どっへん[形] 動 佐 腹一杯になる

どつこい[副] 佐 ゆっくり・トッコイスル↓腰を落ち着ける

どんぐんぐん[名] 佐 腰をすえた

どんぐす[名] 佐 子どもの頭にできる腫物

どんぐんぐん[副] 佐 ゆったりと

どつさい[副] 佐 どつさり。(基)ゴーホン。ミタバカリ

リデドツサイ↓見ただけで腹一杯

どつちしたつちや[成] どつちにしても。ドツチミチ

とも

どぶちやい[名] 佐 相撲

どつでんついでん[副] 誰も彼も皆な

どつや[名] 鶏(幼児語)

どつへり[副] げんなり。ドンドーンとも

どしどしがないが

どつへんさき[名] 先端・頂上。トツバサキとも

どつしか[形] 佐 不器用

どつまずく[動] つまずく

どへら[名] ドクダミ(植物)

どま[成] どもは

どまべれる[動] 正気を失う・度紛れる

どまてはじる[成] 佐 泊つて行こう

どやおし[名] 佐 大勢

どゆう[名] 土用

どろろろろーず[名] 佐 ふくろろろ。コースとも

どろどろ[名] 大勢。ドロドロマイリ↓おへんろ

どん[名] しんがり。ドベ・ドンベとも。(佐)ドンボケ・ドンボス

どんがらがつちゃん[名] 肩車(幼児語)

どんぎん[名] 綿入れの冬着。ドンゴロスとも

どんくりやー[副] どのくらい

とんごがき[名] 佐 先の尖った柿。トンガリガキ

とも

とんごすく[動] おどける。ヒョーグルとも。(佐)

知らないふりをする

とんこつ[名] 煙管。叩く時の擬音からか

とんころりん[名] コレラ。(大正5〜11年にかけ

県下で流行、死亡率が高かった)

どんこんなん[成] どうにもならない

どんざ[名] あわせ

どんずわる[動] 地面に直接腰をおろす

どんだ[名] 土手。ドイ・デエとも

どんつう[名] 佐 頭の鈍いもの。ツウ↓者

どんどーんとなる[成] 満腹の気分

どんばら[名] 大きな腹・妊婦のことも

とんびとんび[副] とびとび

どんびやくしう[代] 土百姓

どんぶいしよ[名] 佐 ねんねこ、ハンズウバンテン

とも

どんん[名] 佐 男性器

どんべ[名] ビリ(しんがり)

どんぼ[名] どんこ

とんぼとんぼ[名] 点々と

とんまめ[名] そらまめ

【な】

な[助] 呼びかけ、応答の語尾に付く。(基)の特
徴で、「か・に」に当たる。ドケイキヨンナ↓どこに
行くか。ドギヤンシタツナ↓どつしたのか

ない[応] 佐 応答または承諾の意味。タバコアツ
カンタ、ナイ↓たばこありますか、はい

ない[助] な。コギヤンジャローモンナイ↓こうだろ
うな

ない(ん)きや[応] はい・何だって。ナンカイ、ナン
ネとも。(女性語)

ない(ん)でんかい(ん)でん[副] 何もかも
ないがなし[副] 佐 いずれ・どのみち。(基)ナンカ

ナシ

ないかね【名・佐】熟しきつていない果物

ないない【名】無い。(幼児語)

ないないふうじやあ【副・佐】成り行きまかせ

ないでんかいでん【副・佐】何もかも

なえしろがんや【名】苗代のころ急に冷え込む気

候。がんやは寒合いか

なえほう【名・佐】骨軟症

なかあがい【名・佐】入浴中一時浴槽を出る。ま

た、一旦田畑から帰ること

なかにやー【名・佐】荷を2人で担う

なかえ【名】中の中。または、真ん中の家

ながせ【名】梅雨

なかだつどん【名】仲人。(仲立殿)

なかつちよ【名】3人兄弟の真ん中

なかんえ【名】中間の家

なき(け)へす【代】泣き虫

なきはゆる【動・佐】へびが長く延びる事

なぐれもん【名・佐】落ちぶれた人

なげあしく【成・佐】そば杖をくっ

なげごき【名・佐】酔つて食器などを投げる

なし【副】なぜ。ナシヤとも。ナシジャロカ↓何故だ

ろっか

なたなげ【名】年季で雇われた奉公人の年限日。

普通12月15日

なつごんき【副・佐】夏の暑い時に

なご(ず)る【動】穀物を砕く。なすは、ひき砕く。

なでぎね【名】米つき用のきね。(もちつき用より

大形)

なまいし【名】石炭の古称(生石、モエイシとも

なめい(り)【名】鯉の子

なもめ【名】ななみのき・もちのき

ならし【名・佐】衣類を掛けるさお

ならちや【名・佐】茶碗

なわす【動】しまっ

なんか【形】長い。ナガカとも

なんかけく【る】動】たてかける

なんかなし【副】とにかく

なんこむ【動】投げ込む

なんしか【形】少し。軽い(労働・病気)。ノーシカ

とも

なんじやろか【成】何だろっ

なんち【感】何だど。ナンチャとも

なんちゆー【こ】成】何と、ということ

なんてる【こ】こる【副】何とかこうとか(はつきり

しない)

なんど【名】寢床。(ふつう北東隅の間)

【11】

に(ぬ)しへいひける【動】こすりつける

にあがる【動】つけあがる

にあげ【動】縫い上げ

にーじん【名】ニジン

にがごい(り)【名】ニガウリ

にくくじゆ【名】意地悪。ニクジュンゴタルアメ↓相に

くの雨

に(ご)じ【名】米のとぎ汁。『葉隠』904にも

にしいほじい【成・佐】にじりよる

にしくる【動】人のせいにする。ヌリツケル・ナ

スクルとも

にしめ【名・佐】西の方

にやんにやん【名】猫、または噛むこと。(幼児語)

にだめく【名】蒸し暑い。ヌクダヤ(ニ)シカとも。

(佐)モウラシカ・グウラシカ

にちやにちや【副】いぢやいぢや

につき【名】につけい。ニッキスイ↓につけいを使った

清涼飲料水

にのくちやあかん【成】二の句がつけない

にばんめ【名】二男・二女。ニバンチョとも

にぶ【名・佐】割り木にする原木

にや【助】にへ。トスシナイク↓鳥栖へ行く

にや【接】ねば。ユカニヤナラン↓行かねばならない

にやー【助】なあ・だろっか。ドウカニヤー↓どう

かなあ

にやー(づ)【名】何事。ニヤーゴツカイ↓何だ・どう

したか

にやーしよ【名】土間に近い客間・土間。庭所の訛

りか

にゆーめん【名】煮込み麺

によーいとこ【連】ぼかんとして。(佐)ヒョーン

によろまり【副】のっそり

によろきん【名】佐【糞(基)アポ

によろる【成】似合っている

にわあげ【名】米麦の乾燥を終え、土間に積み上げること

にわいもん【名】佐【傷物

にわなか【名】佐【土間・たたき

にんぎにんぎ【名】おにぎり(幼児語)

にんにんさん【名】人形(幼児語)

【ぬ】

ぬがる【動】刺さる。ノカルとも

ぬきでる【動】夜中、布団からずり上がる

ぬく【動】物品や金を徴収する。近世文書に「貫銀」

ぬくたまい【り】【名】ひだまり

ぬくだらしい【形】暑苦しい。ヌクダヤシカとも

ぬくめ【名】堀や池の魚のかくれ場所。(佐)アグマ。または抱卵の意

ぬくめいし【名】温「石」焼いた軽石を布などに包んで、冬の寒さまたは、病気の際に体を温める

もの『広辞苑』

ぬくめ【動】鶏の抱卵

ぬけさく【名】間抜け

ぬしくりつけ【動】こすりつける

ぬすど【動】盗人

ぬた【名】ぬるぬるとした泥。ヌタンゴタル↓つかみどころがない

ぬたか【形】佐【不潔

ぬつか【形】ぬくい。(暑い意も)

ぬつか【連】あまいこと。ヌツカコツユーナ↓いい

加減なことをいうな

ぬつくりつ【副】佐【ぬくぬくと

ぬつたんじやー【成】佐【むちゃくちゃに荒らす

ぬつてつー【名】佐【反応のにぶい人。ツー↓者

ぬつべらぼん【名】のつべらぼつ

ぬてーつとして【成】無表情で。スレートシテとも

ぬべ【ぶ】る【動】うめる(湯に水をさす)。ウムル・ヌルメルとも

ぬめくいたわす【形】動【佐】すべて倒れる

ぬらい【名】佐【無精者。ヌライ万作(ことわざ)

ぬれしよぼたれて【成】ずぶ濡れで

ぬれぬれ【副】ぬるぬる

【ね】

ねいこむ【動】佐【練りこむ

ねえる【動】寝る。(寝入るの訛り)(佐)ヌル

ねおそみ【名】寝起き。ネオゾミノヨカ↓寝起き

の機嫌がよい

ねぎだれ【名】軒下や家のまわり。古い上方語に

「ねぎ」そば・かたわら。「もぐら打ち唄」にネギダレ・キヤダレ

ねごきやー【名】きざざざ。(おはじきにする貝)

ねごじんしゃく【成】うわべだけの遠慮。ジンシヤクは斟酌で古語

ねこのしやみせん【名】なすな。しやみせんは三味線で種の形が似る

ねごぼかほつす【名】佐【義理しらず

ねこよりまし【成】幼児が親のいっつけを不十分ながらはたすこと

ねごんけあめ【名】佐【霧雨

ねごんたぶる【つ】成【猫が餌をねだるように、

子どもが食物をねだること。また、ピチャピチャ音を立てて食へること

ねしかり【名】寝むずがり。(寝慣)

ねしたる【動】佐【病気で長く寝込む

ねじもんじよう【名】佐【身もだえて苦しむ

ねせもん【名】佐【死蔵物

ねたぼー【名】寝坊・ネタローとも

ねちどんおる【成】ふてくされて寝ている者を、なじることば

ねつちよかくる【成】佐【付けねらつ

ねつー【名】根元。ネマリとも

ねついで【名】筒袖の(ツツポソデ)で丈が膝までの

家庭着。単衣・合わせがある。捻り袖の転化か

ねとぼけ【名】寝ぼけ

ねねぶる【動】目をつむる。見て見ないふりをする
こと

ねばさけ【名】佐【際限なく酒を飲むこと

ねばし【名】真綿

ねばしか【形】ねばつこい

ねぶか【動】眠い

ねぶれる【動】刃物の切れ味がにぶる

ねほいはほい【副】ねほりはほり

ねまる【動】くさる。イタムとも

ねらんずく【副】寝ないで

ねりべごや【名】粘土に切りわらを混ぜてねり

固めた堆肥小屋(練り堀小屋)。(佐)ヌルベゴヤ

ねーる【動】寝る(佐)ぬる

ねんがら【名】削いだ木を土に突き立てて、相手

の木を倒す子どもの遊び。根木

ねんちゅっさんぼう【副】佐【いつでも

ねんね【名】寝る。

(幼児語)

ねんねこ【名】子守

用のゆつたりとした

着物。トージンとも(図)



【9】

の【助】が。ウンノワルカ↓運が悪い

の【すず】【名】声。ノーズンタッカ↓声高

のこなる【動】なくなる

のーしか【形】軽い。コンドンウーカゼワ、ノーシカ
ツタナ(今度の台風は軽かったね)

のーしろがんや【名】苗代の頃の気候

のーなる【名】なくなる

のーりやー【名】直会、神事のあとの酒宴。元旦の
朝、家族で屠蘇を汲みかわし雑煮を食べること

も。

のかる【動】棘などが刺さる。ヌカルとも

のげそつじ【名】ぞうきんがけ

のこ【名】のこぎり

のこ【動】ぬぐう

のこくす【名】おがくす

のこし【名】野越し、洪水の際、堤防の決壊を防

ぐために、わざと溢水させるための仕組み

のさん【成】かなわぬ

のす【動】佐【担う・持ち上げる

のすかい【助】佐【抱えられるか

のすかい【名】佐【娼婦

のつち【副】のちほど

のつべらぼん【名】のつべらぼう

のほつきやあ【名】佐【野外

のめいひょう【名】佐【食べられる雑草

の【名】佐【土

のんほい(り)くんだい(り)【成】往復・上がった

り下つたり

のぼせる【動】上気する・夢中

【は】

【は】を。イクトバキラウ↓行くのがいや

ばーきい【代】佐【おばあさん。(基)ばーちゃん

ばーじゃとん【名】屋根ふき職人

ばあこ【副】ぱつと

はい【名】針

はい【名】捨てる。(幼児語)

はい(り)こむ【動】精を出す

はい・ばな・ばん【助】だよ。タイとも

ばいな【助】ようだ。キトツタバイナ↓来ていたな

ばいばい【名】傘・ちようちん(幼児語)

はがいか【形】はがゆい

ばかう【動】奪い合う

はがえ【名】下駄の歯をかえる。またその人

はかげつしる【名】佐【歯の欠けた人

はかたれ【名】馬鹿者(佐)ツータン

はがま【名】釜

ばかりしか【形】ばかりして

はかんいく【動】はかどる

はぎし【名】歯茎

はぎな【名】よめな

はくらくとん【代】獣医殿。近世文書では伯樂

はくりゆー【名】博勞

はげあめ【名】梅雨明け前の豪雨

ばご[名]ムカゴ。ヤマノイモの種子。(佐)タゴ

はざ[名]時間または暇。ヨカハザ↓かなりの時間。クウハザモナカ↓食べる暇もない

はざぎ(ぐい)[名]間食

はさみぐち[名]果実をもぐための竹ざお

ばさらか[形]たくさん。バサラとも。古語に「婆娑羅」贅沢する意

ばし[助]でも。ナンバシスルゴツ↓特別なことをするでもなく

はしかいん[名]狂犬病の犬

はしかか[形]農作業で体がちくちくする

ばしけすつ[成]気後れする・雰囲気にもまれる

はしごんだん[名]階段

はしふ[名]佐ジフテリア

ばしやひきごん[名]荷馬車を引く人

はしりぐつちよ[名]かけっこ。グツチョ↓競争。

(佐)カケゴロ・カケゴツチョ

はせ[名]川魚を捕るときの、竹製のすのこ

ばたぐるつ[動]もがく

はたれんこん[名]オクラ

はだしたび[名]地下足袋

はたす[助動]している。オリバナメトリハタス↓俺をなめてやがる

はたす[動]粉をふるう。ハタシコ↓粉。『葉隠』480、「身をはたりて報い奉公する事」身を粉にする意

ばちがやす[動]器を倒す。「鉢を返す」の転化。サデグリガヤストも

ばつきーさん[名]佐伯(叔)母。オバキとも

はつくせん[名]くしゃみ

はつし[名]箸(幼児語)

はつしやーか[形]佐手荒い

はつたはつたする[連]はらはらする

はつち[代]乞食。ホイトとも。古語で陪堂。(佐)ぜんもん

ばうちり[名]面子

はつてく[名]去る。去りて行くの転化。または死ぬ

ばつてん[接]だから・けれども。バッテンガラとも

ばつぱ[名]たばこ(幼児語)

はつぱつ[副]ざりざり

はつもん[名]はつもの。ワサモンとも

はなかぶら[名]小鼻

はなこ[名]上等の小麦粉

はなしば[名]しきみ

はなしやなか[成]佐問題ない

はなつぼ[名]花壇・庭

はなほん[名]天然痘で鼻に傷のある人

はなんす[名]鼻の穴

はねられる[成]医者に見放される。または、試験に落ちること

ばば[名]大便(幼児語)

ばばしか[形]佐かさばる

ばばしやん[名]おばあさん

ばばやる[動]威張る

ばぼ[代]息子。または、男の使用人

はまる[動]したくする

はみ[名]牛馬の飼料。古語で、「食む」食べる・飲む

はむくだす[成]佐歯をむきだして怒る

はもじ[名]腰巻き。キヤーフ(脚布)とも

はや[名]鮠(魚)

はやんかせ[名]はえ(南風)

はよさき[副]早々に

はらかきべつ[名]おこりっぽい人

はらかく[動]怒る

はらやくびょう[名]佐願いがかなう。(願成就)

はらんきゆう[名]スモモ。(はたんきょう)

はらんせく[成]腹痛がする

はりこむ[動]奮発する

はりはり[形]ぱりぱり

ばれる[名]露見する

ばれん[名]葉蘭

はんぎい[名]半切り桶

ばんこ[名]縁台

はんずーがめ[名]佐水がめ

はんずうばんてん[名]佐ねんねこ、ドンブイシヨとも

はんちや[名]袖のついたはんで、紐はない。

(昔の庶民の外出用)

はなのける【動】はねのける

【ろ】

ひいじ【名】菱(ひし)(植物)

ひーじ【名】一日中。ヒノイチンチとも

ひーじ【名】一日おき

ひーだますえ【名:佐】きもだめし。(試胆会)

ひーどろ【名】ガラスびん。(ポルトガル語)

ひーな【名】ひなまつり

ひーのよわか【成】気が小さい。ヒー↓脾臓ひびの略

ひいびい【名】笛

ひーりんちよ【名:佐】お手玉

ひーる【名】蛭(ひる)。ビイトも

ひいりんち【名:佐】ガ(蛾)の一種

ひえのいろ【成:佐】化膿する

ひおひお【名:動】枝がしなるさま

ひおる【動】たわむ

ひかい(り)もん【名】いなびかり

ひぎ【名】カエル。ピッキとも

ひぎのじょうりだい【成】水田の土くれに、カエル(びぎ)がもたれている状態(代掻き不良)を、
浄瑠璃台じょうりだいにみたてたもの

ひぎのひらかき【名】アキノウナギツカミ(植物)

ひぎほづき【名】女結び。男結びは、カラムスビ

ひく【動】敷く

ひくたん【名】くぼ地

ひげき【名:佐】埋め火

ひけしか【形】臆病。ヒケシボ↓臆病者

ひげもくじや【形】ヒゲだらけ

ひくくれ【形】曲がつたり歪んだり

ひこばえ【名】株の脇芽または稲株の新芽。『万葉集』(巻5・810)に「孫枝ひこばえ」

ひさかき【名】あくしば。葉を焼き灰汁あかをとる

ひざほす【名】膝頭。ヒザボンサンとも

ひざる【動】さがる

ひじやーけ【名:佐】火遊び

ひすむ【動】沈む

ひだるか【形】ひもじい。ヒモシカとも。古語に、ひだるし

ひちこい【形】しつこい

ひちやくす【名】額

ひつかく【名:形動】借金を踏み倒す

ひつきち・ひつきん【名】オタマジヤクシ

ひつらい(り)しゃへい(り)【成】びつくり

ひつらいがやす【動】ひつくりがえす

ひつづく【動】抜く。スツボグとも

ひつく【名:動】ひきまわす

ひつほす【動】こぼす

ひつくる【名】オタマジヤクシ

ひつじやく【動】ひしゃぐ。古語で、ひしぐ「拉ぐ」。

ひしゃげるの転化

びつちゃんかつちゃん【名】大人が仰向けに寝て、

幼児を足首と膝に乗せ上下させる遊び。(幼児

語)

ひつづく【動】くつづく

ひつぱりなんご【名】おおばこの花茎を双方か

ら、ひつぱり合う遊び。ナンゴ→ゴッコ

ひついがめ【名:佐】除け者にされること

ひとかたげ【名】1食分。古語で、かたけ(片食)、

近世の食事は朝夕の2度

ひつきせ【名】いづく・一休み

ひつしおもん【名】塩ものの魚

ひつせんに【副:佐】一気に、一時期に

ひつたま【名】うどんなどの1食分

ひつたま【名】一滴・一口

ひつんじ【名】同じ事

ひつなつこか【形】人に馴れている

ひつはさみ【名】一箸

ひつみち【名】人見知り

ひつりご【名】ひとりごと

ひのおらび【名:佐】急に

叫ぶ。古語で、おらぶ

ひのくじかす【成】ふさば

けで日が暮れる

ひのたま【名】人だま

ひばこ【名】火箱。(陶製の

暖房具)(図)



ひぼ[名]ひも

ひぼかし[名]川魚

をくしに刺し焼いて乾燥させたもの



(図)

ひま[名]時間または手数。ヒマニイル↓時間がかる

ひまなし[名]仕事に追われる事

ひめんぬるか[成]穀物の乾燥がたりないこと

ひや[名:佐]花火

ひや[名]灰

ひや[名]蠅

ひやーみやひやーみや[形動]這い回る。(佐)ヒヤーモーン

ひやーも[名]孟宗竹の地下茎。(先端の芽を食材にする)(図)

ひやーもーそー[成]這い回る。ヒヤーガヒヤーンナキ

ヤヒヤーツテヒヤーモーン

スツ↓蠅が灰の中へ入って

はい廻る

ひやーら[名]小枝。粗朶そだ

ひやーる[動]入る。ヒヤンコム↓入り込む

ひやけだ[名:佐]水のかかりにくい田

ひやじる[名:佐]うどんのたれにする味噌の生汁



ひやつぼんげ[名]たくあん漬け

ひやひやこーすー[名:佐]寒がりや

ひゃんこむ[動]入りこむ

ひゅーぎん[名]日雇い賃金。ヒュートリ↓日雇い人夫

ひゅーたん[名]ヒョウタン(植物)

ひゅーたんご[名]ナマズの子

ひょうせき[名:佐]拍子木ひょうしぎ

ひょおん[副:佐]ぼかんとして

ひよんきんたん[名]ひょうきんな人

ひよーぐん[動]おどける

ひよーしみ(も)なか[形]とんでもない

ひよーすかす[動:佐]なだめる。おだてる。『葉隠』10、「若殿々とひよすかし立て候」

ひよく(こ)つ[副]ひよつこり

ひよこぐさ[名]ハコベラ(植物)

ひよす[名]ヒヨドリ(鳥)。ヒヨとも

ひよこい[副]思いがけず

ひよんなつ[副]妙なこと

ひらかし[名:佐]たいた裸麦に味噌汁をかけたもの。(基)ヒラカシムギ↓麦を押し開いて米に混ぜて炊く

ひらくち[名]ママシ

ひらひら[副]ひりひり

ひり[名]昼。ヒリアガリ↓昼食に田畑から帰宅する。(佐)ヒロガイ

ひりから[名]午後

ひりまえ[名]午前中

ひるんひなか[名]日中

ひろ(こ)でんせん[成:佐]ちっとも姿を見せない。(基)チーンミラン

ひろひろする[成:佐]びくびくする

ひわ[名]びわ

ひわるる[形動]ひびが入る

ひんがらめ[名]やぶにらみ

ひんこしゃんこ[形動]飛び跳ねる

ひんならし[名:佐]昼の浮立練習。介↓ヨナラシ

ひんのむ[動]飲み込む

びんびん[名]三味線(幼児語)

びんぶー[名]貧乏。ピンブギヤ↓貧乏な家

ひんまぐろ[動]曲げる

【ふ】

ふーがじん[名]変わり者。古語で、「風雅」通俗でないこと。イヒューモン(異風者)に類似

ふうきやあ[名:佐]嫉妬。気違いの意も

ふうけもん[名]馬鹿者。『葉隠』180、ふうけ

↓呆気の意か。阿呆

ふうす(ぞ)ばな[名]レンゲ草。単にフーズとも

ふうすうたんご[名:佐]鑄掛け屋。ふう(吹く)、

すう(吸う)の擬音からか

ふーすき[名]ホオズキ(植物)

ふーたらぬつか**【形】**なまぬるい。動作が鈍い

ふうづつみ**【名】**頬包み

ふーばる**【名】**ほお張る

ふーばれ**【名】**ほおばれ。(おたふくかせ)

ふうふうゆー**【成】**ひどく文句を言う

ふーべんた**【名】**頬。ピントン・ペンプー・フートとも

ふうらんさんご**【名】**佐**【名】**佐**【名】**ぶらんこ

ふうわんきや**【名】**ほら貝。吹き鳴らす擬音

ふきの**【名】**佐**【名】**布巾ふきん

ふきゆうする**【動】**合点がゆかぬ

ふくだむ**【動】**しゃがむ。(基)ツクバム

ふぐるる**【動】**暴れる。ウシノフグルル↓牛が暴れる。(佐)タグラウ

ふくれまんじゅう**【名】**膨れっ面

ぶげんしゃ**【名】**金持ち

ぶごうごなか**【形】**佐**【名】**無器用だ

ふしのき**【名】**ヌルデ(白膠木)。この木の虫えい(フシ)を、水で腐らせて煮た古鉄の中に入れ、その液で歯を染めた(お歯黒)

ふしやく**【名】**柄杓ひしやく

ぶしゅうもん**【名】**無精者。(佐)フユウボウ

ぶすいだけ**【名】**火吹き竹

ぶする**【動】**伏せ縫い

ふせぶる**【動】**くすぶる(基)スポル

ぶちよほー**【名】**粗相。不調法の転化か。プチョホ

ンキートツ↓粗相ばかりする

ふつ**【名】**よもぎ

ふつくら**【名】**ふところ。(佐)ツクラ

ぶつちー**【名】**虫(幼児語)

ぶつー**【名】**泡

ぶつーくらげ**【形】**佐**【名】**ふくれてっかぬ様子

ぶつらつと**【副】**佐**【名】**ふくぶくしい

ふつての**【動】**ふとんからはみでる

ふつもち**【名】**よもぎもち

ふといたち**【名】**佐**【名】**成長期

ふなやき**【名】**どろどろに練った小麦粉を素焼き鍋で焼き、黒砂糖を挟んで食べる。(佐)ブツヤキ

ふなんごぐい**【名】**佐**【名】**フナを昆布巻きにして煮つめた食品

ふのよか**【形】**符がよい。↑↓フノワルカ

ぶぶ**【名】**水・湯(幼児語)

ふみ(ん)ぐんま

【動】踏み車・揚水や堀干し用の水車(囷)

ふゆうか**【副】**おつくつ

ふゆうぶゆうと**【副】**佐**【名】**しかたなしに

ふゆほう**【名】**寒がりや

ぶり**【名】**刈り草・農作物・堆肥などの運搬具。「草一荷」は、ブ



りに詰めた生草の分量(囷)

ぶるこ**【名】**脱穀用の廻転具。和名からさお

ぶるいつく**【名】**憑物つきのものが付く

ふるかんだな**【名】**佐**【名】**古物店

ふるふる**【副】**とても。フルフルスキャン↓大嫌い

ふれる**【動】**広く知らせる。古語で、「触れる」

ふんこく**【成】**踏みつける

ふんたくる**【成】**踏む

ふんたつく**【成】**踏み固める

く

へーとる**【動】**物を干している

べーんか**【形】**きれいな(幼児語)

へこ**【名】**へこ帯の略転へんどうし 褌

へご**【名】**竹ひご

べしよつくる**【成】**佐**【名】**べそをかく

へずる**【動】**削る

へせ**【動】**右(牛馬使い)

へたくそ**【名】**下手

べたつと**【副】**密着。ベチャット・ベツタイとも

べたんべたん**【副】**べたべた

べつたいする**【動】**長座する

へつちさん**【名】**かまど。古語は、「へつひ」古くはか

まどの後ろの通気穴のこと

へつべき**【成】**息もたえなさま

へばいつく**【動】**へばり付く

へふる【動】尻をひる

べべ【名】着物(幼児語)

べらい【副】佐べらり。カワノペライムクツ↓皮膚がべらりと剥ける

べる【名】舌

べんじやさん【名】弁財天

へんぶ【名】トンボ

へんぶつ【名】類。フート・ホウベタとも

へんべん【名】着物、または血。(幼児語)

【ほ】

ほい【名】堀

ほい(り)ちらかす【形動】放りちらかす

ほいたく【名】掘る

ほいと【名】乞食。古語は、陪堂ほいと。ハッチとも。(佐)

ゼンモン

ほつかる【動】捨てる

ほつじや【名】巻き貝。ホージャーギヤートも

ほつじよ【名】佐最初の見者。(子どもことば)

ほつほつしおる【成】佐虫などがたくさん飛ぶこと

ほつかる【動】うち捨てる

ほーくらかす【成】放置する。なげやり。(佐)イッ

チョコク

ほーとくなか【形】ふがない。頼りない。ウチンオ

ヤジドマホンナコテホートクナカーうちの親爺

へふるくほんな

は、本当に頼りない

ほーぶら【名】カボチャ

ほーぶり【名】ぼうふら

ほーもり【代】僧侶の妻。(坊守)

ほか【名】たんぼ。ホキヤイク↓田へ行く

ほがす【動】うがつ

ほきほきと【副】佐腰を入れて思い切つて

ほく(げ)る【動】穴があく。(佐)ホッキ

ほくそん【副】思いきり

ほくと【名】棒

ほくり【名】下駄。(本来は木製の靴の意)

ほけ【名】湯気。古語「火気」からか。機関車乗務員仲間で、ホケツクリ(機関助手)・ホケニガシ(機関士)

ほげたん【名】くぼみ。古語「岸ほぎ」の転化か。ヒク

タンとも

ほげんごとし【成】ほんやりしている

ほさ【名】麦の表皮

ほさつと【形】ほんやりと。(佐)ボンシトル

ほしくる【動】佐果実が自然に割れる

ほしめかす【形】佐そそのかす。『葉隠』300、

「ほしめかして」

ほじやつとして【成】

佐おとなしそう

な顔つきで

ほたるかこ【名】麦

ほたるかこ【名】麦



わらで編んだ籠で、蜜をいれる(図)

ほたるぐさ【名】つめ草

ほたれんきよう【名】佐蜜

ほっかいする【動】心配がなくなる

ほっ(い)り(り)やき【名】焼き芋

ほっ(み)【副】平均して

ほうち【名】もち。(幼児語)

ほっほつ【副】ほちほち。ホツホツヤランナー↓ほちほちしなさい

ほてほて【副】果実が次々落ちるさま

ほど【名】背丈。ホドノフトカ↓背が高い

ほどき【名】佐仕事

ほときさん【名】仏様

ほとびる【動】穀物などが、水気で膨れる

ほとほと【形】動作・足運びが鈍いこと

ほとめく【動】もてなす。施し恵むの略転か

ほによつて【副】ようやく。骨折つての音便化か

ほほしか【形】佐目がよく見えぬこと

ほほらめくか【形】佐ぬるい

ほめく【動】ほてる・熱するの意で古語。「ホメカツ

シャル」(暑いなあ)。シャルは敬語でこの場合、よ

う照りなざる意

ほやつと【副】ほんやりと

ほろほーす【名】まる坊主

ほんちよ【名】性交

ほんなごつ【名】本当介↓スラゴツ

ほんほん【名】調子。ホンボンナカ↓体調が悪い
ほんほん【名】おなか(幼児語)

【ま】

まーいっちよ【副】もうひとつ

まあだし【副】まだ

まいかけ【名】前掛け(佐)マイブイ

まーひ ちよと待って。(子ども言葉)

まい(り)かぶる【動】寝小便。シカブルとも。大便

はタレカブル

まい【名】繭

まいげ【名】眉

まいふい【名】前掛け

まが【名】つらら

まくてえ【名】佐]まぐれあたり

まくる【動】佐]池・堀を網ですくう

まげ(く)る【動】値段を安くする

まじにやーどん【名】占い師

ましよきあわん【成】佐]間に合わない

ます【動】ませる

ませめし【名】五目飯

またから【副】今度(次)から

またくり【名】股間

またぐる【名】またぐ

またちつ【副】もうすこし。マチヨットとも

まつか【名】枕(幼児語)

まつかくる【動】佐]一か所に集まる

まつ【名】新品

まつすんか【形】真直ぐ

まつつうかさかさ【名】松かさ(子ども言葉)

まご【副】まるで

まごぼし【名】凶星

まねかた【副】ほんの少し

まねかぶる【動】佐]まねそこなう

まねこす【名】人まね。コウズウ(ふくろう)

まばい【名】まばゆい

ままた【名】御飯(幼児語)

ままた(ち)やんご【名】ままたご(幼児語)

ままつぎ【名】お櫃

ままんゆ【名】重湯。釜のこげを湯でそぎ落とし

たもの意も

まめす【動】まぶす

まやんこえ【名】厩肥

まりかぶる【動】寝小便。シカブルとも

まる【動】放尿する。『万葉集卷16・3832』に

「尿遠くまれ」

まるかす【動】わらなどを束ねる。マルカスとも

まんぐる【動】練り合わせ。(佐)カンクル

まんどう【動】弁償する

まんなか【名】3人兄弟の中心。(佐)ナカツチヨ

【み】

み【名】箕。トーミとも

みしか【形】短い

みじやく【動】砕く

みしらんご【成】見違えるように。ミチデオーテ

モミシランゴタル↓道で会つても見られるよう

みずあぶり【名】水浴び

みせこぶい(り)【名】祭りのときに獅子が露店の

菓子を嚼る仕草をすること。コブル↓嚼る

みぞぎやー【名】溝貝。(バラタナゴが産卵する貝)

みそちよ【名】ミソサザイ(鳥)

みそちよのき【名】シヤシヤンポ。(佐)サセビチヨ

↓甘酸っぱい果実をミソサザイが好む

みたみ(ん)なか【形】みつもまない。

みちがかい【名】道路の通行状態

みちぎ【名】足場木

みちしば【名】チカラシバ(植物)。(葉茎同士を

くくつて輪をつくり、通行人を転ばす)

みつじゆき【名】水鉄砲。ミツチャコとも

みつぎやー【名】三差路

みてくれ【名】外見

みのづる【成】佐]冗談が本物になる。(実が出る)

みみご【名】耳垢

みみじゆる【名】耳から出る汁。ミミダレとも

みみとす【名】耳の遠い人

みみなば[名・佐]キクラゲ。ナバ↓きのこ
みみいる[動・佐]耳に入る・聞こえる
みみんす[名]耳の穴
みみんは[名]耳たぶ
みやー[名・佐]繭・眉
みやーすとる[成]へつらう・ごきげんをとる。古
語で「まいす」売僧(唐音)。商売をする僧の意
から、仏法を売りものにする悪徳の法師
みんながつしゃ[副]全て

【む】

むつらしか[形・佐]むしむしする
むかせ[名]むかで
むかわり[名]誕生1年目
むき[名]椋(種物)。(佐)モキ。ムクドリはモッキ
ードリ(むく食い鳥)
むげーもん[形]ひどい・かわいそう
むごー[副]ひどく
むごーいきんつよか[成]鼻っ柱が強い
むごどん[名]婿殿・主人・夫の敬称↓オゴサ
むじむじ[副]もじもじ
むじよがる[動]かわいがる
むすこじよ[名]息子の敬称。ムスメジョ↓娘
むすで[名]結び手。稲麦を束ねるよじったわら
むすめじよ[名]娘。(佐)ジョン
むする[動]むせる

みみなくもーし

むしのおごる[成]疳虫
むぞつか[形・佐]かわい。(基)コヤラシカ
むづいする[成・佐]むづとする
むつか[名]麦わら
むらたち[名・佐]村の気風

【め】

めいんかみ[名・佐]めす犬噛みで、弱い者いじめ
めえすがつとる[成]目の前に面影がちらつく
めかじゃあ[名]長巻き貝
めご[名]竹製の箱様のかご
めししゃくし[名]しゃもじ
めしつぎ[名]飯びつ
めずらしか[副・佐]珍しい・感心の意
めぜきい[副・佐]近間隔に
めちやさば[名]眼病の人
めつくつ[名・佐]盲人
めったかせぎ[名]異常な働き
めつちやあきい[成]無茶に食べる
めつちやくつちや[副・佐]滅多に
めつちやなが[成・佐]めつたにな
めのこさんによつ[副]概算。サンニョウ(算用)
は、古語で計算・勘定のこと
めのしんとがらせて[成]目に角たてて
めのめきじゃあ[副・佐]目の前に。(基)メノハナ
サキ

めはりごんじよ[名]せ
きしようのつぼみで、瞼
の上下をつつ張る遊び。
(佐)メハイゴシ(囃)

めほだれ[名]目やに
めませ[名]めくばせ
めめてくわす[成・佐]
口に箸を入れて食べさ
せる



めもりやー[名]ものも

らい(眼病)

めんこんたん[名]目玉。メンタマとも。メンタミヤ
ユビツコム↓目に指をつっこむように出し抜けに
めんたまといはじて[成]驚いたさま
めんたまいきずわつて[成]目玉がすわる
めんちよ[名]雌

めんどらしか[形]面倒な

めんめん[名]めいめい。(佐)メンメンキキチ

【も】

もつしうくる[成・佐]招待する
もえいし[名]石炭。生石とも。『肥前風土記』
『日本書記』で「燃える石」
もえん[成]食物が固く、また歯が不自由でよく
噛めない
もーし[感]ご免ください。「申す」↓言う・告げ

るの謙讓語。昭和初年まで呼びかけ、訪問に使った

もーにや【副】これ以上

もーも【名】牛(幼児語)

もくひつ【名】佐 鉛筆

もくべ【名】よもぎ

もくくる【動】金銭をこまかす

もぞもぞ【副】もぞもぞ

もす【動】蒸す

もそつもそつ【副】佐 ゆっくりゆっくり

もち【名】もちのき。クログネモチと混同

もちもちする【形】粘り気がある。(食感)

もつげき【名】むくげ

もつこへこ【名】布の四隅にひもをつけた、もつこ

に似たふんどし。布地節約のため

もつとらーつと【副】丁寧に。インガートとも。

(佐)モットイト

もつてえ【名】元結

もてる【動】もつ。ナゴモテル↓長持ちする。類

語にオーケノアル↓物の減り方が遅い

もつえ【名】本家

もとおける【名】成【ごそり・全部

もねえ【名】佐 素焼きの物いり

もほつき【名】佐 真正面(基)マツボシ

ももど【名】太もも

ももねのまるくる【名】成【佐】股のリンパ腺肥大

もや【名】共同・共有。モヤイとも。モヤーンウマン

ゴトヤセテ↓共有馬のようにやせて

もやぶる【名】共同風呂

もやもや【副】もたもた

もろぶた【名】浅い木箱

もんとぎどり【名】じょうびたき

もんびれ【名】このこじち

【や】

や【終助】か。(軽い疑問、単独でも使う)。ホンナ

コテヤ↓本当か

やあひ【名】灸きゅう。ヤイトとも

やーなか【名】佐 間

やーまち【名】けが。あやまちの音声変化。古語

で、失敗によるけが

やーらしか【形】愛らしい

やいしやこいしやなか【名】成【佐】せきたてる

やいそこなう【動】やり損なう

やうつり【名】引つ越し

やおなか【形】たいしたもの。(佐)オオイカン

やかしる【名】地主と小作農民の間を取り持つ

役。『基肄養父実記』の「水掛け心得の事」にも

やぎいたる【動】佐 せきたてる

やきこえ【名】焼き肥

やきこめ【名】種もみの残りや新稲をもみのまま

いって、もみを取り除いた米。保存食

やくいやー【名】厄祝い

やぐ(せ)らしか【形】佐 うるさい・面倒

やくちやーなか【名】成 役に立たない・もったいない。

古語で、やくたい(益体)なし。『葉隠』280、

「誠に益体やくたもなき事」役に立たずの意か

やくばりやー【名】厄払い

やくれとり【名】集金人。役料取りの転化か

やこ【名】キツネ(野狐)

やご【名】引き分け

やしが【形】卑しい

やしにやあ【名】佐 しも肥。古語で「養ひ」は養育

やしほ【名】いやしん坊。ヤシカとも

やしやあ【名】野菜

やせひぼかし【名】佐 やせた人。ヤセボコとも。ヒ

ボカシは、川魚を焼き干したのもの

やぢもり【名】屋敷の土盛り。浸水を防ぐ為に

石垣・土盛りなど屋敷全体をかき上げすること

やつきもつき【副】やきもき

やつくくる【動】焼く

やっこえ【名】焼き肥

やつさ【副】しきりに

やつとかつと【副】やつと。エンヤラヤットとも

やつばい【副】やはり

やなぎむし【名】柳の幹・枝の中枢部に巣くう虫

(鉄砲虫)。江戸・京大阪では、生きた柳虫を薬餌とした。『近世風俗史』。また市内では、夜尿症

の薬とした。(昭和初期)

やね【名】やぶ。(佐)ヤボ

やぶれまんじゅう【名】表皮からあんがのぞくまんじゅう

やまかんいん【名】国有林の監視員

やまだち【名・佐】おいはぎ

やまたろがい【名・佐】川ガニ。(基)ヤマタロガニ

やまなし【名】こばのがますみ

やや【名】乳児。ヤヤコとも

やらやら【形】舌を刺激する味

やり(い)ばなし【副】やり放題

やれくもいき【名・佐】がむしやら

やわらい【名・佐】抜け変つてすぐの蟹

やわらくか【形・佐】軟らかい

やんがて【副】やがて

やんぶし【名】山伏

やんめ【名】アブラメ(魚)

【ゆ】

ゆーじ【名】用事

ゆーじん【名】用心

ゆうちきかす【成】言つてきかす。(佐)ユッカスル

ゆーと【副】よく

ゆうなかつた【成】死んだ。(良くなかつた)

ゆーるし【名】夕方。ユーガチャとも

ゆーれび【名】幽霊

ゆきひら【名・佐】素焼きの鍋

ゆだれ【名】よだれ

ゆねり【名・佐】酒のかんをつける

ゆぶゆぶ【形・佐】軟らかで水気のある状態

ゆもじ【名】腰巻。キヤーフ(脚布)とも

ゆるーと【副】ゆつくりと。ユツラットとも

ゆるか【形】軟らかい

【ゆ】

よい(り)や【名】寄り合い。(友人で会食すること)また、集会

よいた【助】よりも

よいのく【動・佐】寄りつかぬ

ようがましか【名・佐】迷信かつぎ

ようじ【感】よし

ようなる【動】良くなる。テンキノユナル↓天気

が良くなる

よーと【副】よく

よーべ【名】夕べ。ヨンベとも

よーら【副】じつと・何もせずに。ヨーラシトル↓

何もしない

よーらしとく【成】そのままの状態にしておく

よか【形】よい

よかおとこ【名】美男子

よかおなご【名】美人

よかこつ【名】良いこと

よかし【副】いいだけ・入用分だけ。シコは量のこと、シコロとも

よかちゆうび【副・佐】よい加減

よかところ【名】良い所、または裕福な家のこと

よかとめかやて【副・佐】いい気になつて

よかなか【名】仲良し

よかはざ【副】かなりの時間。ハザは暇の意も。ハザンナカ↓暇が無い

よがむ【動】ゆがむ

よからか【名】利口

よかんした【名】床の下

よかんびやー【形動】具合良く。(良い接配)

よき【名・佐】小型の斧。(古語)

よくせき【副・佐】特別に大事な

よくつづ【形】欲張り

よくとふたりに【成】欲を人格化させた欲得の

弁解

よけ【名】休み

よこぎや【成】横に。ヨコセ・ヨコゾとも介↓タテセ

よこばんする【成・佐】道を横切る

よこれ【名】余分。ヨコレモン↓余り物

よごれもち【名・佐】牡丹もち

よさい(り)【名】夜。『源氏物語』に「よっさり」↓

夕暮れ

よぞろき【名】夜遊び

よじ[名]佐 夜の雨

よじみ[名] あせび

よじめつく[形動]佐 遠慮して見合わせる

よそわしか[形]佐 気味が悪い・不潔。ムシノヤ

ーテヨソワシカ↓虫が沸いて気味が悪い

よじちやい[動] よろり

よじひき[名] 寄り付き・入ってすぐの部屋

よじよこ[副] よたよた

よならし[名]佐 夜の祭りの練習介↓ヒンナラシ

よのこじ[名] ほかのこと

よのよー[名] 一晩中

よびやあ[名] 夜這い。古語で、①よばひ(婚ひ)求

婚のため相手に呼びかけること。②夜這ひ(夜

女性の寝床に忍び込むこと)

よぼい(り)[名] 夜、明かりをつけて川魚を捕る

こと

よまい[名] 小作米(余米)。ヨマイトリ↓地主

よみき[名] 読める

よめあざ[名] そばかす。転じて、梅雨ときに白い

衣類につくカビ状の斑点

よめさん[代] 嫁。ヨメゴとも。(佐)ヨメクサン

よもよらせん[名] 成:佐 無駄なこと

よりやー[名] 寄り合い

よめむつ[名] 集会(寄る事)

よろこひ[名] 形動 よろける

よろこび[名] 佐 お産

よろじゆつ[副] ようしく

よんちんわい[名] 佐 4等分

よんにゆつ[副] 佐 余分に

よん(ー)べ[名] 昨夜

よんよん[名] おんぶ(幼児語)

[り]

らいしん[名] 来春。リヤーシン・ジャーシントも

らみー[名] カラムシ(植物)。戦時中これから織

維をとった。またこの葉を親指と人指し指で作っ

た円に張り、反対の手のひらで叩いて破裂音を

楽しむ

らす[助動] られる。シヨラス(しておられる)。

『日本書紀』「作らす」

[り]

りはつか[形] 利発だ

りゆーぎ[名] すりこぎ

りよーけんそこにやー[成] 考え違い(了見損な

い)。リヨーケンニコン(合点がいかぬ)。(佐)ジョーケ

シノクニヤー

りんぎ[名] 嫉妬、(佐)ふーきやー

りんちよーじ[名] ジンチヨウゲ(植物)

[る]

るすつかう[動] 居留守をつかう

[れ]

れんがく[名] 田楽。おでんのことも

[ろ]

ろい[助] イキヨロイ↓行こう。イキヨロイカ↓行

こう、そのうち連れはくるだろう

ろーや[名] ハゼ蠟の加工業者

ろくなこたかやさん[成] ろくな事はしない

ろくなこたなか[成] ろくな事はな

ろくろく[副] 佐 入念に

[わ]

わーざつ[副] わざと

わーわ[名] 犬・ワンワンとも。(幼児語)

わが[代] お前、または自分のことも。ワガドン↓

お前達。ワガワガ↓めいめい。(佐)オトンまたはワ

サン。ワガナイシヨッキヤー↓お前は何をしている

か

わがえどん[名] 桶の輪がえ屋

わががた[名] 自分自身・自分の家

わがほうから[副] ひとりで

わがまえ[名] 自分分

わがみのざんみやー[成] 自分のことだけ。我が

身のさんまい(三昧)。ワガミノザンミヤーデセイイ

ツピヤー↓自分のことで精一杯

わきへら【名】近所

わきやーもん【代】若者

わくど【名】ガマ(ヒキガエル)

わざ【名】ひも輪

わさもん【名】初物。ワサモングイ↓新しがりや

わしわし【名】クマゼミ(虫)

わじざいと【副】佐：きつぱりと

わやく【名】いたずら

わらかす【動】卵をふ化させる

わらすぼ【名】実を採った稲わらの穂。素穂か

わる【動】お金をくすす

わるか【名】悪行

わるさぼーず【名】いたずらっ子

わるなか【名】悪友

われもん【名】割れやすい物。焼き物

われわれ【形】佐：意見がまちまち

わんざ【副】佐：わざと

【2】

ん【格助】の。カワナナガレ↓川の流れ

「被る」のいろごころ

・おろたえかぶる

おろたえる。

・しかぶる

寝小便。

・たれかぶる

下痢。

・ばちかぶる

罰当たり。

・ひつかぶる

顔を覆う。

分類別

数・量

- 1 イツチヨ
- 2 フターツ
- 3 ミツツ
- 4 ヨツツ
- 5 イツツツ
- 6 ムーツ
- 7 ナナーツ・ヒチ
- 8 ヤーツ
- 9 ココノツ
- 10 トーオ
- 20 ニンジュ
- 40 シンジュ
- 50 ゴンジュ
- 70 ヒツジュ
- 80 ハツジュ
- 90 クンジュ

- 滴・杯 ほんの一杯をヒトタマ
- 升 シュー
- 枚 ミヤー
- 俵 ビュー

強調の「ン」

- ・ニツハヤサ 壊す。
- ・ニツハリダサ 放り出す。
- ・ニツハヒンダサ 殴る。
- ・ニツハハガサ はがす。
- ・ニツハヒンダサ ぶちまける。

2・4・6・8・10 (偶数で数える) 場合

- ツウ・ツウ・タイ・カイ・シュー
- 升で穀物を続けて量る場合
- ヒトツ・ヒトツ・ヒトツ (3度ずつ繰り返しながら)。
- フタツ・ミス・ヨス・イス・ムス・ナス・ヤス・コス・トス

註：時間の呼び方で、1時・2時をイチシ・ニシと清音で呼ぶのは明治・大正生まれ。

ロ・ヌ

- 朝早く アサンヨルカラ。ヨルカラ
- 朝方 アサガチャ
- 午前中 ヒリマエ (昼前)
- 昼 ヒリ
- 午後 ヒリカラ
- 日中 ヒルンヒナキヤ
- 一日中 ヒーシテ。ヒノイツチンチ
- 一日おき ヒシテゴシ
- 夕方 ユールシ。ユーガチャ。「ユールシ」は「夕闇し」の転化
- 晩方 バンガチャ
- 夜 ヨサリ。古語で「ヨウサリ」は「夕方・夜」

明治・大正期の職名

- アブラヤ 菜種製油業
- アメガタヤ 短冊型の飴作り業
- イシヤ 石工
- イシヤドン 医者
- イツセンドン 床屋(明治初年ごろの理髪代金が1銭だった)
- オガドン 木挽ひき
- オコシゴメヤ おこししつくり。おこし(粒)は、蒸したもち米を乾燥させ、煎いつてゴマなどを加え、水飴や砂糖をまぶして固めた菓子
- オジュツツアン 僧侶。ポーツサ、ボンサンとも。僧侶の妻は「ポーモリ(坊守)」
- カナグツヤ 馬のひづめ打ち(金靴)
- ギンヤ 両替屋
- クーヤ 紺屋(染物)
- クルマヤ 水車粉ひき
- コウジヤ 糰もちつくり業
- シャカン 左官
- ジャーク 大工
- ジャークジ 神官
- シャリキカジ 車力(大八車)かじ
- シヨーケヤ そうつけ(ざる)つくり業
- シヨーノヤ 楠を砕しいて樟脳(防虫剤)をつくる業

- シンリキヒキドン 人力車引き
- スーポードン 鑄掛け屋(鍋・釜などの修理)
- ハガエ 下駄の齒替え(馬喰)
- ハクラクドン 伯樂(獣医)
- バクリュー・バクロウ 家畜商
- バシヤヒキドン 馬車引き(運送業)
- バージャドン 屋根のふき替え職人
- マジニヤードン 占い師
- ワガエドン 桶の輪(タガ)替え職人
- ヤクレトリ 集金人(役料取り)
- ヤマカンイン 国有林監視員
- ローヤ 蠟ロウの加工業

牛馬使役のかけ声	
馬	すすめ ハイ、ハイ
	とまれ ドー
牛	右へ へ <small>セ</small> 、へ <small>セ</small>
	左へ サシ、サシ
	後ろへ ゼレ、ゼレ

古語または古語の転化

かてる【動】おかずを食べる。加える。古語(糶つ・交つ・雑つ)混ぜ合わせる。

きやーなする【動】からかう。古語(掻き撫つ)撫でる。さする。

くける【動】間引く。古語(紘け込む)。糸目が見えないように布の端を中に
入れて縫う。

しやーはて【名:佐】最後。(さいはて)

すげる【動】下駄の緒をたてる。鍬の柄などを取り替える。古語(挿ぐ・差し
込む)

たつちやぎ【名】ナタマメ。古語で、帯刀の形に似た太刀佩たちばぎの転化か。

だるか【形】だるい。古語でた(疲)るの転化か。

つき【名】器。古語でつき(坏・杯)

はつち【代】乞食。ホイトとも。古語は陪堂はいと。

ひこぼえ【名】孫生え(脇芽)『万葉集』(卷五・八二〇)題詞に「孫枝」
ひだるか【形】ひもじい。ヒモシカとも。古語ひだるし。

ひとからげ【名】食分。古語片食かたけ。

ひのおらび【名:佐】急に叫ぶ。古語おらぶ(どなる)。

ふーがじん【代】変り者。古語で風雅(通俗でないこと)、イヒューモン(異風
者)に類似。

ふれる【動】広く知らせる。古語で触れ。

へつちーさん【名】かまど。古語でへッヒ、古くはかまどの後ろの通気穴のこ
と。

ほけ【名】湯気。古語の火気か。

ほめく【動】ほてる。熱する意で古語。

まる【動】放る(大・小便をする)『万葉集』(卷十六・三八三二)「尿遠くま
れ」

やくちやーなか【成】役に立たない。もつたない。古語で益体(やくたい)な
し。

やしにやあ【名:佐】しも肥。古語で「養ひ」は、「養う」こと。養育。

らす【助動】られる。シヨラス(佐)しておられる。『日本書紀』作らす歌三
首」

よぎ【名】小型の斧。古語

よびやあ【名】夜這い。古語で(一)よばひ(婚ひ)、求婚のため相手に呼びか
けること。(二)夜這ひ、夜、女性の寢床に忍び込むこと。

「痛み」のいろいろ	
・くしくりする	下腹部がじわじわと。
・しーんしーん	間隔的な痛み。
・ずつきんずつきん	ずきずき。
・せく	腹痛。
・せんしやくの悪か	下痢の一種のしぶり腹。
・つつく	しくしく痛む。

共通語	基肄養父弁	佐賀弁
父	おとっちゃん、つとしゃん つとさ	おとっちゃん、とおちゃん
母	おっかしゃん、かーちゃん かかさ	おっかしゃん、かーちゃん
夫婦	つれやー、みよーと	つれあい、みよーと
祖父	じじしゃん、じっちゃん じーさ	じいちゃん、じいしゃん じいやん
祖母	ばばしゃん、ばーさ	ばばしゃん、ばばあ
伯(叔)父	おっちゃん	おんじしゃん、おんじー
伯(叔)母	おばしゃん	おばっちゃん、ばっきー
夫・婿	むこどん	むこさん、うちんひと
妻(嫁・奥さん)	おごさ、よめご、かかさ	よめさん、よめご、かかあ
兄	あんちゃん、おやかっじゃ	あんちゃん、にーちゃん
弟	おとと、おとっじゃ	おとと、 ^{しゃてー} 舎弟
姉	あねしゃん、あねさ	あねしゃん あねご、ねーちゃん
妹	いもと、いもとじよ	いもうと
嫡子	あととり、かかりご	あととり
長男	そーりよー	かしらむすこ
二男	にばんめ	
三人の間	まんなか	なかつちよ
末子	すそご、すそ	すえこ、したんこ
きょうだい	きよーじゃ	
親類	おやこ	きょうじゃやど

一般的な呼び名で、細部は省略

主な【助詞】

どうだいのい || ナ、ドギャンナ。【終助】ナは基肄養父。ナンタは佐賀。
 だろつでしよう || ジヤロ、バイ。アシタアメバイ(明日は雨だろつ)。
 かい || カイ、ネ。チヨットキテクレンカイ(ちよと来てくれないか)。
 かしら || ジヤロカ。ナシジヤロカ(なぜかしら)。
 かも || カン。オマエノユーゴツカンシレン(お前の言う通りかもしれない)。
 ください || クレンナ。(佐)クンサイ。
 くらひ・ぐらひ || グリヤー。
 けれども || バッテン、バッテンガラ。
 ごらん || テンカ。(佐)テンヤイ。
 しか || シヤカ。ヤサイシヤカタベン(野菜しか食べない)。
 たい || タカ。コキヨウニカエリタカ(故郷に帰りたい)。
 だから || ケンデ。(佐)ジヤイケ。
 だのに・のこ || トコレ。ハラツタトコレ(払つたのに)。
 だろつ || クサイ。(佐)クサン。クルクサン(来るだろつ)。
 でしょうよ || クサイ。(佐)クサンタ。
 です || タイ。ソギヤンタイ(そうです)。
 ですか || ナ。(佐)カンタ。
 ですよ || ジャン。(佐)バン。ヨカジャン、(佐)ヨカバン(いいですよ)。
 ではありませんか || ジヤナカナ。(佐)ジヤツカント。
 ではないか || ジヤツカ。(佐)ジヤイ。
 ても・でもとも || テチャ。ソギヤンユータツチャ(そんなに言つても)。

てよ || ンナ。ハヨカエツテコシナ(早く帰つてきてよ)。
 とかや || テン。ソウジテンセントクテン(掃除や洗濯とか)。
 とて || チューテ。ジカンバカケタチューテ(時間をかけたからとて)。
 なあ || ニヤア。ミヨウナコツユーニヤア(妙なこと言うなあ)。
 なさい || セレ。(佐)ゴザイ。キゴザイ(来なさい)。
 ならない || テケン。シヨウメイノナカトデケン(証明がなければならぬ)。
 なりと || ドン。オチャドンノマンナ(お茶なりと飲んでください)。
 ねえ || ニヤ。(佐)ナンタ。
 ねば || ント。ベンキヨウセント(勉強せねば)。
 ねばならない || ニヤデケン。(佐)ジャコア。
 ば || ト。バルニナルトハナガサク(春になれば花が咲く)。
 ぶつ・よう || ゴタル。ドコカデキイタゴタル(どこかで聞いたようだ)。
 へ || シニヤ・カイシヤシニヤイク(会社行く)。
 まで || マジ。ナツマジニヤカンセイ(夏までには完成)。
 みたい || ゴタル。
 らしい || ラシカ。
 られる || (基)の「なざる」にあたる。(佐)のキヨラス(来ておられる)。シヨラス(しておられる)。「日本書紀」に(…作らす歌二首)ほか。
 る || ン。ワラワレンゴト(笑われないように)。
 ようだ・したい || ゴタル。ユコウゴタル(行きたい)。
 を || バ。サカナバタベル(魚を食べる)。
 か || ロイ・ロカ。イキヨロイ・イキヨロカ(行こうか)。

共通語	基肄養父弁／佐賀弁
だ・です・ですよ・ます	たい・たな・ばい・そぎゃん・すぎゃん
ない	なか・どーしょんなか
ではないか	じゃっか
するまい	するみゃー
しない	せん
できない	でけん・しきらん
できる	しきる
ありはしない	ありゃーせすと
たくない	たむなか ※ミタムナカ(醜い)
まい	みゃー
ては	こて
という	ちゅー
よう	ふー ※ソギャナフーナラ(そのようなら)
ようだ	ごたる
したく	ごっ
らしい	らしか・げな
だろう・でしょう・かしら・あろう	じゃろ・じゃろか
したろう	じゃっか・しつろ ※モーカツソ(儲けたろう)
でも	みゃー・ばし ※ユンベアメバシフツジャロカ(昨夜雨でも降ったか)
であった	じゃった
しよう	しゅー
だったのか	じゃったかの
ません	まっせん ※スンマッセン(すみません)
おっしゃる	(基)いーなさる、(佐)いんさる・いーなる
ください	(基)くれなさい・くれんな、(佐)くんさい・くいやい・てんか
ごらん	てんか※イッテンカ(行ってごらん)
ませんか	こらし※キテミラシ(来てみて)
ようだ	ごたる※アメンフローゴタル(雨が降りそうだ)
みたい	ごとある・ごつもある
そうだ	すぎゃん・そぎゃん・そーたな・そーばい・そぎゃんですたい
らしい	げな・ばいな・ばいの
られる	しゃる・ちやる・ござる ※サルカッシャル(歩かれる) ※キチャル(来ておられる)、(佐)キトンサル ※ゴザル(おられる)、(佐)オンサル

あいさつ言葉

基肆養父ことばを中心に

朝

・ハヤカナ

日中(終日良いお天気でしたね)

・キューハ ヨカヒヨリナ。

・ホンニ ヨカヒヨリ ナッタナ。

・キューハ ヨゴザイマシタ。

夜

・ハヨシマイ(仕舞う || 終わる)ナスツタナ。

曇・雨模様

・モヨーン オカシュー ナツチキマシタナ(空模様があやしくなってきましたね)。

・ヒトアメ フラツシリヤ ヨカバツテナイ(ひと雨降ってくれるといいが)。

・カラガミナリサー(音だけの雷様)ゼケ コラツシヤレンバナ(夕立は来ないだろっ)。

ゼケ || だから。(佐)ではジャイケ。

フラツシヤル(降られる)、コラツシヤル(来られる)など、天候は敬語。

雨

・ヨカアメ ジャツタナ(良い雨でしたね)。

春夏秋冬

・コリヤー ウーアメニナルバイ(これは大雨になるぞ)。

・ニクジュンゴタル アメジャツタナイ(意地悪のような雨でしたね)。

・ヨンバ ムゴー アリヤタナ(昨夜はひどく荒れた)。

・ヨカカゼン ヒーチ キマシタナ(涼風が吹いてきましたね)。

・テントーサン ナゴー ナラジャツタバナ(日が長くなったようだ)。

・オテラミヤーリニヤ イキナスツタナ(お寺参りには行かれましたか)。

・イキナスツタナ || (佐)イキンサツタカント(行かれたか)。

・ホンニ カンヤン ヨーナツタ(本当にしのぎやすくなった。カンヤ || 気候)。

・イチバンドリヤ シマイナスツタナ(田の草の一番取りは済みましたか)。

・ホンニ ヌツカナ(とても暑いですね)。

・(佐)ホンニ ヌツカナ(とても暑いですね)。

・ユウ ホメカツシヤルバイ(とても暑い)。ホメク || 火照る。

・ボンノ キヤクジンナ オーゴザイマツシロ(盆客は多かったでしょう)。

・コトシヤゴーホン デケマツシロ(今年は豊作だったろう)。

・クンチニヤ サイモンノアルケハヨ キチクレナサイ(祭りには浪曲があるから早くおいで下さい)。キチクレナサイ || (佐)キテクンサイ。

・ヨサリ イチミヤー ヒッカケニヤ デケンゴタル(夜は余分に着込まないといけない)。

・テノ コシケチ ニキラレントジャケ(手がかじかんで握られないのだから)。

・スピクゴツツタカバイ(うずくように冷たい)。

・ハゼチギリノハジマツタナー(ハゼの収穫が始まりましたね)。

・センバガラスノ サカオトシ シヨッタ(雪の前兆)。千羽鳥が急降下するさま。

・チヨーズバチノ コオートトリマシタケ アナタ(手洗い鉢が凍っていたよ)。マシタ・アナタは敬語。

お祝い

・ホンニキリヨンヨカ オゴサバ モライナ サツタナ(とても奇麗なお嫁さんをもたらされましたね)。キリヨー || 器量で美人。オゴサ || 嫁または妻。(佐)ヨメクサン。

・ザツシヨドン キバツテ モツテイカジャコテ(もちでもうんと持つて行かねば)。三ツ目歩き(嫁入り3日目の里帰り)で。

・マゴジョン デケナスッター ゲナナ(お孫さんができたぞうで)。

・サンマエジャツタカ カローシテ ヨゴザイマシタ(出産が軽くて良かったですね)。

お悔やみ

・コフタビハ ヒョーシミナカコツデ ゴザイマシタナー(この度はとんでもないことでございましたね)。(佐)キツカッタナンター

・コギヤン ハヨー ハツテイカツシャルテンナンテン(こんなに早く他界なされるとは)。

・オウチハホンニツマランコツデ ゴザイマシタナー(不幸・災害などの時に)。

幼児のあやし言葉

アワ アワ アワ

(口を手で閉じたり開けたりして)。

オラン オラン バア

(両目を押さえたあと、パッと開いて)。

ニンギ ニンギ

(お握りをにぎる仕草で)。

チュツ チュツ チュツ チュツ

ジーン ジーン ジーン ジーン バイ

タングリ タングリ バア (手の仕草を伴いながら)。

「ごほん」の幼児語

ママ 鳥栖

カマカマ 佐賀

マンゴ 唐津

マンゴ 福岡

共通語	基肄養父弁	佐賀弁
顔かたち	つらよ	
頭	ずくにゆう ※カシラ、カンブリとも	ずくにゆう
つむじ	ぎりぎりす	つむじ
ハゲ	きんばす	はげ
額	ひちやぐち	
出びたい	でぼちん	
眉	まいげ	まゆげ
耳たぶ	みみんは	みみたぶ
耳の穴	みみんす	みみのす
耳垢	みみご	
目	めんたま	
目やに	めほだれ	
そばかす	よめあぎ	そばかす
顔の斑点	ほやけ	
頬	べんふう ※フーベタとも	べんふう
頬ばれ	ふーばれ	
鼻孔	はなんす	はなのあな
舌	べろ、したんさき	べろ
歯ぐき	はぎし	
あご	あぎ、あぎと	あご、あぎと
五体	ごちやー	
背中	こーぶ	ごちやー
肩		こうぼ
指	いび	
内臓	じご	ぞーわた・じご
太もも	ももど	
股	またくら	
尻	しりかぶら	しっぺた
肛門	しんのす	
ふくらはぎ	つとこぶら	ふくらはぎ
かかと	きびしゃ	きびす

年中行事・民俗語彙

正月

のーりや(直会:なほひい)

元日の朝、家族で屠蘇とそを酌み交わし、雑煮を食べ、家族で氏神に参詣する。基肄養父の雑煮には小豆と砂糖を入れる風習がある。

てかけ

正月飾りのひとつで、屠蘇とそのつまみにもなる。三玉に白米を盛りその頂きにダイダイ、米の上に干し柿・昆布・スルメ・ミカンなどを散らす。『磯野寿延記』延宝8年(1680)の項「正月元日規式」の冒頭に、「朔日朝六ツ二起、家頼の男女次の間ニ置、先手掛を戴」。『佐藤恒右衛門毎日記』では「手懸」



くいり)や一箸

元日の食事に使う栗の小枝で作った箸くりにや。厨くりやが栄えるようにとの縁起かつぎ。

ふつかおひい

1月2日早朝から農家ではわら細工・機織り・薪取りに、商家では初売りのお年玉つくりなどに精を出す。

ほんげんぎよ(左義長)

1月7日早朝、道路に面した屋敷の入り口で火をたく行事。門松、しめ縄などを燃やし、青竹をくべて破裂音を悪魔払いとする。また鏡もちを7

もへいひいち

1月14日(ところにより2月14日)午後、子ども達が組内で前年新築・嫁取り・初産のあった家々を廻り、祝い唄を唱えながらモグラてっぽうで庭先を叩く。モグラてっぽうは笹竹やムクゲの先端を小縄で巻き固めたもの、すんだあとは果樹の小枝に掛けておくと、実付きがよいとされる。モグラ打ちのお札にもちや菓子を買う。田畑や屋敷を荒らすモグラ・ネズミを追い払う予祝行事。昭和31〜32年ごろ行われていたのは、神辺・酒井西・今泉・宿・蔵上・牛原・山浦・立石など。



冬から春へ

ふつかや一ひ(灸)

旧暦2月2日に灸きゅうを据えると中風が出ないという。

かゆだめし(粥占い)

1月15日に粥をつくり器に入れ、その上に箸を十文字にして神前に供えたものを3月15日に開き、東西南北地域のカビの色などで豊凶や流行病の発生を占う。今でも行う神社があり、千葉八幡神社(北茂安町)の「オカイサン」は有名。

この日、一般家庭では小豆御飯に正月もちを炊き込んだ「だんだらがゆ」を食べる。

夏から秋へ

ぎおんさん(祇園祭)

八坂神社の夏祭。古くは田代八坂神社から宿町を経て鳥栖本町の八坂神社へ御神幸があり、流鏝馬や能が行われる夏の祭事であった。昭和3年からは博多祇園山笠を模した山笠が町内ごとに登場したが、現在では「まつり鳥栖」としての全市のな7月の行事(7月20日前後の土・日中心)となった。

さなほり

「さのぼり」で、田植後の神への感謝祭。作り終わり・植え上がり・願成就とも。しおい取り・子供相撲をする所もある。古語で「早苗振り」。

なごし(夏越し)

旧暦の6月晦日の祭。氏神の境内に設けた「茅の輪(別名萱輪IIすがんわ)」をくぐり、一晚寝敷きした人形を神社に納めたあと川に流す(現在は焼却)。夏の疫病を逃れる風習。現在でも茅の輪は老人クラブなどを中心に行っている所がある。

たなばたさん

多くは月遅れの8月7日、数え年7歳の子どもに親族がスイカなどを贈る。その朝、蓮や里芋の葉の露で墨をすり、習字をしたり短冊に願い事を書いて笹竹に結わえる。

たほめ(田褒め)

旧暦の8月朔日。普通9月1日の夕方、農家が手料理を田の畦に運び、出穂に祝い酒を振りかけ、家族で小宴を開く。ところによつては、公民館などで共同で行う。田の



実(頼み)の故事にならった行事。

いのちづゐ

秋の収穫の亥の日、新米でついたもちを親類縁者に配る。

おくんち(供日)

収穫前の実りを感じする祭で、元来は9月9・19・29日と「9」の付く日であるが、近年では10月中下旬に行く所が多い。特定の神家と呼ぶ宮座が神事を仕切り、親戚同士のおくんち参りがある。家庭では赤飯・甘酒・芋の煮こりなどでもてなす。

めいげつあ

陰暦8月の15日夜を「諸名月」、9月の13日夜を「豆名月」、家庭では茹でた大豆や甘藷を月に供え、巡回する子ども達が探し当てる行事。

秋から冬へ

おんだまい(御田舞)

歳上町で行われる田づくりの所作を芸能化した舞。本来は4月1日四阿屋(あずまや)神社の神幸祭で、養父の行列浮立・牛原の獅子舞・宿の鉦浮立とともに奉納されていた。現在では10月15日に近い日曜、氏神の老松神社で行われる。

とすのいち(鳥栖の市)

福神市ともいい、12月1日から3日間、東町商店街を中心に市が立ち、近郊一円の客で賑わった。このあと田代恵比須市や轟木の市も行われた。

なたなげ

年季奉公で雇われた奉公人の1年の年限日。普通12月15日。奉公は、女は7〜8歳から、男は12〜13歳から地主や商家で働く。家計を助ける口べらしと行儀見習いのため、「鉦を投げ出す」の意か。

こもりだき・こもり

大晦日の神送り行事。男の子は予め薪を氏神の境内に集め、もちなどを持ち寄ってむしろ囲いの中で終夜薪を燃やす。

ふりゆう

風流とも表記し、ふうりう民俗芸能の群舞。市内では、行列浮立・獅子舞浮立・鉦浮立がある。村田浮立は村田鍋島領の惣社、村田八幡神社の神幸祭の中心行事のひとつ。毎年10月20日前後の日曜日の村田浮立は、村田の獅子舞と江島の行列浮立からなる。

獅子舞浮立

通称ドンカンカン・ドンキャンキャン。メス・オス2頭の獅子の衣装に各2人（前獅子・後獅子）が入り、鉦と太鼓の伴奏で悪魔払いと豊作を祈願する芸能。平成15年現在、曾根崎・藤木・牛原・神辺、そして基山・荒穂神社系の村田の5町で復活・演舞されているが、それぞれに氏神への奉納時期は違う。

鉦浮立

獅子舞の鉦に類似した鉦だけを打ち鳴らすものに、4月29日の宿の鉦浮立がある。重さ約10～11kgの鉦を片手だけで約20分操作する。

やくいや

厄祝い。厄年に近親・友人を招く。男は25・42・60歳で、女は19・33歳。普通は大厄といわれる男42歳と女33歳に行く。ヤクバリヤー（役払い）とも。

もやあ馬

農耕馬が稼働するのは年間30日前後で、厩肥生産が主であるが、零細農家では単独での飼育が大変なので、2～3戸が共同で飼育した。また馬喰（「家畜商」の貸し馬を借りるか知り合いから馬耕をもらって代わり「手間がえ」として自分の労働力を提供した）。

もやあ馬は、数日間こき使われては次の家に引き継がれる。共有意識が飼育管理を悪くして、「もやあ馬んごと痩せて…」と人にも形容された。いれぐすり

江戸時代後期、基山・田代・鳥栖で発生、発展した家庭配置売菜（一定期間、各家庭に菜を預けておき、その売り上げをまとめて回収する仕組みの通称）。

「来る」は「行く」

「行ってくる」は「イタチクル」。田代へイタチクル（田代へ行ってくる）。そちらへ行くことを、「ソッチニクル」。イタチクルを「イタチを食う」と笑われる。

佐賀弁域で、「放置する・行かない」ことを、「イッチョク」。キューハマチサイイカジャイッチョコー（今日は町に行かぬ）。唐津で、「サキイッチョク」は、「先に行く」。

単に「イッチョク・ウッチョク」は、「置き去り・連れて行かない」。ユーコトキカントウッチョクゾ（言うことを聞かないと置いていくぞ）。

久留米では、「いきましよう」を「イッテクウ」。八女でも「イタチクウ」。

幼児語

あつい・あつち 熱い。
 あかちよこべ あかんべえ。
 あつぶか 奇麗な。ベーンカとも。
 あとしやん 仏様。
 あば 汚い。アバチーとも。
 あほ 糞。
 あんぎあんぎ 噛むこと。
 あんゆ 歩く。
 いんごゆいんにゅ 咀嚼。
 うまうま 食べ物。
 えんえん 泣く。
 うしもー 牛。モーモとも。
 おつぱい たくさん。
 おんび 帯。
 おんなんご 鬼(こい)。
 がーが 魚の骨。カラス・鳥。
 かつし 頭。
 がつたん 下駄。カッポンとも。
 かわかわ 水遊び。
 がんがんしやん お宮・神様。
 がんによーによー お参り・葬式。
 ぐつく 靴。
 けーけ 帰る。

ごろごろさん 雷。
 こんこん たくあん・狐。
 ざんざん 雨。
 しいしい 排尿を促す言葉。
 しい 小便。
 じじ 魚。(佐)しいしい。
 しょんしょん 汁。
 じよろじよろ へび。
 じろじろ 字を書く。
 ぞろぞろ うどん・そば、へび。
 ぜんぜん お金。
 たいたい 火。
 たつち 立つこと。
 たんび 足袋。
 だんぶ 入浴。
 たんたん 水または酒。
 ちやんちやん お終い。
 ちゅーちゅ ネスミ。
 ちよーちよ 猫。ニャーニャとも。
 ちよーちよまんご 蝶。
 てて 手。
 てんでん 手ぬぐい。
 とーさんまんご 通せんぼ。

とつと ニワトリ。
 どーど 馬。
 どんがらがつちやん 肩車。
 にやんにやん 噛む。
 にんにんさん 人形。
 にんぎにんぎ おにぎり。
 ねんね 寝ること。
 ぱい 捨てる。
 ぱいぱい 傘・提灯。
 はつし 箸。
 ぱっぱ タバコ。
 びつちやんかつちやん 大人が仰向けに寝て幼児を足首と膝に乗せて、上下させる遊び。
 ぴんぴん 三味線。
 ぶつちー 虫。
 ぶぶ お茶・お湯。
 べべ 着物。
 べんか 奇麗な。
 べんべん 血。
 ぼつち もち。
 ほんぼん お腹。
 まーひ ちようと待って。(遊戯中)

まつか 枕。
 まま 御飯。(大人でも)
 ままた(ち)やんご ままごと。
 まんま 食べ物。
 もーも 牛。
 よんよん おんぶ。
 わんわん 犬。ワーワとも。

成句のいろいろ

あいそんこそんなが 無愛想でとりつくしまのないこと。

あがじらまつきや 恥ずかしきで顔を赤らめること。

あくしやうつ 持て余す。

あんひた(あ)の人は(き)や(ふ)か(ぶ)せ(ら)れ(ち)ぢ(ご)げ(る) 脚布は腹巻きの古語で腰巻き。かかあ天下の亭主。

いたちくる 行っていく。つまり行くこと。「そちらへ行く」は「ソツチニクル」。

いとんかゆんなが 痛くも痒くもない。動じない。

おりばなめとりはたす 俺をなめている。なめ(無礼)は古語。ハタスは、やがる。

おごさん(む)ごん(か)つち(や)る オゴサ(嫁または奥さん)。夫婦が一見不

釣り合に見えるとき陰口。

およびは(じ)る(佐) 泳いでいく。

かんめんさんな 「構わないで」の佐賀弁。

ぎすとんせん 微動だにせぬ。

ぎゃんかかりにやーて こんなにしてしまつて。物を壊したり仕事の結果が

悪いときの責め句。

ぎやーけんひーた 「風邪を引いた」の佐賀弁。咳気は古語。

びちやつくり 五体(体)を休ませる。転じて村の公役(共同作業)のこと

も。激しい農作業に比べれば楽なものという訳。

びざいまじしゆ さようなら。(佐)ソイギ。

ここのまむん ぎつくり腰。

ごーほなめあわすつ うんと懲らしめる。ゴーホンはたくさん。メは古語

で、奴。人をののしる意。

しかとんなか 粗末な・みつももない。シカトシナカモン バツテ(粗末な物ですが)。贈り物のあいさつにも。

じよーしきする 人見知り・遠慮する。情識(勝手な考え)。

すくにゅーんよごごつ 素直でないこと。ズクニユーは頭。ヨゴドツはゆがむの転化。

すごちやーきて 素五体(体だけ)で来て。つまり、手ぶらで訪ねたときの弁解。

せんしやくのわるか 下痢気味の状態。疝瘕は胸・腹部の差し込んで痛む病。

せんのごろごろいる 銭(お金)が次々と要る。出費がかさむ。

ぞんきりわく 腹が立つ。

ちやんぼんぶく おしやべり・吹聴する。

てしきおよばん 手に負えぬの佐賀弁。

どぎやんとすつと ドギヤント(どんな物を)。スツト(するの)。何をすののかの意。

とじよんなか 「徒然」は古語で退屈な様。手持ち無沙汰。寂しい・わびしい。トゼンナカとも。

とちめんぼふる 細棒でトチの実を手早く延ばすように慌てること。

ねこじんしやく いつまでもうち解けず遠慮すること。斟酌は古語で遠慮・辞退。

ねこよりやまし 猫よりは役に立つ。幼児が親の用事を不十分ながらはたすこと。マシは古語で増す・益(勝る・優れる)。

ねごんたぶるごつ 猫がエサをねだるように子どもが食べ物をねだること。また猫がピチャピチャ音を立てて食べるような食べ方を戒める言葉。

はらんせく 腹痛。転じてアトブランセク(うまい物を食べさせられたときの後難)。

ばしけすつ 雰囲気にのまれる。気後れする。

ひーのよわか 肝つ玉が小さい。ヒーは脾臓か？

ひめんぬるか 糶(もみ)の乾燥度が弱いこと。転じて動作が緩慢なこと。

ひげいちり 足な草履のヒゲ(ワラ屑)をむしらずにはけば、そのヒゲのため1里(約4km)は余分に歩けるとの儉約の例え。

びきのじょうりだい 蛙の淨瑠璃台。水田の土塊にカエルがもたれている比喩で、代掻きの悪い状態をやゆ。

びろつごんせん (佐)ちらつとも姿を見せない。(基)チーン ミラン。

ぶちよぼんきーとつ そそつかしい(不調法)。(佐)トトシカ。

みやーすとる おべつか。ミヤースは古語でマイルス(売僧・仏法を売り物にする悪徳の法師。僧を罵つて言う言葉)の意。

めんたみや ゆびつごむ 目の中に指を突っ込まれるような、だしぬけの用件。トチメンポフルに類似。

もやあ馬んごこやせて 管理の悪い共同飼育の馬のように痩せる。

やくちやーなが 役に立たない・もつたない。益体(やくたい)〔役に立つ〕の転化か。

よくとふたりで 自分1人ではできず、「欲」と2人で何かを得ようとす

る。「この手が言うことを聞かないもんで」の類。

りよーけん そごにやー 料簡を損なう。つまり思慮・分別を間違えた人。

(佐)ジョーケン ソクニヤー。

ろくなこた かやさん 碌なことをしない。

さまざまな人稱(代名詞)

あんぼんたん

気回りの悪い人(阿呆たらの音使)。

いひゅーもん

異表者、変人。

おっぺしやん

醜女。

おちやつびー

おてんば。

おーどもん

横道者、横着者。

おろたえもん

うろたえ者。

がまだしもん

よく働く人。

きんぱんじゃ

きれいい好き。キントジャとも

こんじよもん

根性の悪い人。

じゅーげもん

つむじまがり(いひゅーもん)に類似。

すたくもん

怠け者。

つらわれ

はにかみや

どまぐれもん

ほうとうもの
放蕩者。

はらかきべつとつ

怒りっぽい人。

ひげしほ

歯の欠けた人。

ひよんきんたん

臆病者。

ふーがじん

ひよつきん者。
変人(いひゅーもん・じゅーげもん)に類似)。

ふーけもん

馬鹿者(ふぬけの転化)。

ぶしよもん

無精者(ふゆぼーとも)。

やしほ

いやしん坊。

わさもんぐい

初物食い。転じて新しがり屋。

鳥栖のいっつわげ

当てと禪や回(ひん)つからはずれる

依頼心のいましめ。他力を「当て」にすること、禪を「当てる」の語呂合わせと、禪が向こう(大事な前のほう)からはずれる、にかかると。

うちん白飯より隣の麦飯

食べ慣れたものよりも珍しいものがおいしく感じられる。不意の来客にあり合わせの食べ物(アタタモン)で対応する際の弁解。

うまかもんくうて油断するな

うまい物を供应されたら裏があるぞ。類義語に「あと腹んせく(痛い)」。親に似たガメの子

ガメは亀。「蛙の子は蛙」と同義。

おろたえガンの穴入らず

「うろたえるカニ穴へ入らず」。「せいては事をし損じる」と同義。かつたときの仏づら、戻すときの鬼(い)

カッタは借りたの方言。「借金を断ることで友人は失いはしないだろうが、逆にお金を貸すと、とかくその友人をなくしやすい」(ショーペン・ハウエル)

木六、竹八、芋十

木の伐採は6月、竹は8月、芋の収穫は10月(いずれも陰歴)が適期。

きやぶつうはあばら骨ん一本定らん

キヤブツウは佐賀弁で基肄養父者(旧対馬藩田代領域に住む人)を言う。対馬の殿様が雛節句のとき、大御所に贈った人形の肋骨が1本折れて恥をかいたという俗説から、基肄養父者をからかうことば。ツウは者。

くいもの怨みはえすか

食べ物のことで、処置がまずいとしこりになる。エスカ・エスカは古語でこわいのなまり。

米つきとモチつきや荒神さんな加勢しなざらん

荒神はカマドの神。たいていのことは助けてくださる荒神さんもソッポ向くほど米つきともちつきはきつい。大正初期、精米機が普及するまでの精米は、白か水車しかなく、白での米つきは寒い日でも汗をかく重労働だった。また昔は1〜2俵のモチをつく農家も珍しくなかった。

「ロゴロサン鳴るときや蚊帳に入れ

昔の蚊帳は麻製で感電しにくいのと、柱からはなれた蚊帳のなかは雷を避ける安全地帯という意か。また、5月節句の折の固くなったちまきを焼いて食べると、雷除けになるとされた。

〇〇に嫁に行くならダラの木登り

ダラはたら(樅木)の方言で、ウコギ科の落葉亜喬木、莖葉共に大きなトゲが特徴。大農が多い地域に嫁に行くと、重労働を強いられるから、トゲのあるタラの木に登っているほうがまだ。きつい冗談のなかに、昔の農作業のすさまじさがかいま見える。

三月ごんぼに熟れごんぼ

ごぼうは陰暦2月のうちに播かないと、3月ではうれすぎてトウがたつ。

しいらぼーの先走り

しいらぼーは、枇(しいな)の九州・中国地方の方言、しいら穂のなまり。実のないモミ殻だけの穂で、唐箕で風を当てるとしいなは飛んで実だけ残る。かるがるしく行動する人の例え。

佐賀んもの通ったあとにや草も生えん

一般には佐賀人の意地悪さのように入れられるが、『佐賀豆百科』(福岡博

著)によれば、次の3説を挙げている。

・明治維新で佐賀藩が巧みに動いたという抜目のなさや、東京でもお国言葉を得意げにつかった佐賀者に対する批判。

・佐賀のガン漬けを評して、かにの爪まで食うほど、藩政策がもたらした質素儉約ぶり。

・佐賀人の他人の非を許せない偏狭、潔癖性。

たにしの願立て

5月中下旬の苗代のころ、たにしが苗代を荒らすので、農家ではたにしを拾って佃煮などにして食べた。たにしにとって受難の季節。そこでたにしは、人がなるべく苗代に來ないよう神に願うことをする。苗代のころ急に寒くなるのは「苗代がんや」といつて、その願立てのためだというもの。

とかき仏やごてやめ

斗掻きは、マスで穀物を量るときに縁に押し当てて、余分の量を平にする円筒状の棒。人の一生は結局は公平なものだという例え。辞書にある「分の斗掻きがおろす」の意も、この世には不公平があるが、天は枘を斗掻きでならすように、時おりこの世を分相応にならすものであると解説している。

仲立ちすんなら逆立ちせれ

仲立ちは仲人。苦勞が多い仲人をするくらいなら、逆立ちした方がましだの意。

ぬらい万作

のろまな手遅れ作業が、かえって台風や施肥、病虫害防除などが凶に当たって、豊作になることがある。

ばーじやどんの手褒め

ばーじやどんは屋根ふき職人のことで、茅^ほう舎(かやぶきの家)ぼうおくのなまりか。自画自賛の意。屋根をふく萱やわらを切る鎌のことを「ホメ

鎌」といい、上から順に切つて下がることを「ホメ下がり」というところから、屋根をふく状態、あるいは仕上りを見る様子との説もある。

八月おごころ、春おなご

農家の男は8月が、女は春が年中で一番楽な季節との意。

腹の中から百姓

生まれ落ちる以前から百姓であるべき宿命(農家の長男)である意と、頭のでぺんから足の爪先、内臓まで百姓で、他に能がない諦観の意と。

宝満山うしろ跳び

宝満山は太宰府市にある標高869mの信仰の山。山頂の一角は「稚児落とし」といわれる絶壁で、そこからうしろ向きに身を投げるほどの思いきりをいったものである。「清水の舞台から飛びおりる」と同義。

馬鹿の三杯汁

暴飲暴食を戒めたことわざ。

桃栗三年、柿八年、梅は酸い酸い十一年

結実するまでの年数をいったものだが、近年は改良され早くなった。似たことわざに「柚は九年。柚は遅くて十三年。梅は酸いとて十三年。梅は酸い酸い十八年。枇杷は九年でなりかねる。桃栗二年後家一年」。

麦は百日の蒔き潮で三日の採り潮

麦は蒔き時が長く多少のズレがあつても生えるが、収穫期が少しでもズレると雨に合つて芽が出るようなことがあるので、短期間に手早くやれの意。

焼き米ばいほすとむかせの出ちくる。

ムカゼは百足(むかで)のこと。籾をいり、ついて籾をはがして保存食にしたものを焼き米と言ったが、農家では苗代に蒔いた種籾の残りで焼き米をつくり、竹筒に入れて子どものおやつ代りにした。むかぜが出るといふのは、粗末にしないための注意か。

お天気ことわざ

天然現象をはじめ鳥や昆虫の動向などから農耕の目安とされてきたお天気ことわざは、古来から信頼度が高い。

晴れの予兆

- ・春南風はなに秋東風あきは天気。(晴れる)
- ・秋東風は池の底干す。(雨が降らない)
- ・秋の夕焼け鎌研いで待つとれ。(秋の夕焼け宵に鎌とげ、などと各地に多い。)
- ・宝満川たからみづのいで(井堰)音すれば天気。
- ・鍋ん尻なべしりの焼くるときゃ天気のよか。(鉄鍋のすすに赤く火がつくのは空気の乾燥を示すからか。)
- ・すけ石(礎石)の汗がのうなったら天気になる。
- ・鶏とこの早く鳥屋とやにつくと翌日は晴れ遅くまでエサをくうと雨。
- ・卯うの刻(午前6時)雨に傘持つな。巳みの刻(午前10時)晴れに笠ぬぐな。季節や地形により早朝の冷気で一時雨が降っても、晴れるのが常。また梅雨や春雨のころは一時晴れても本降りになることが多い。
- ・猫の顔洗ねこがほいは天気。
- ・夜コース(フクロウ)天気になる。
- ・モズの高所で啼なくときゃ天気。
- ・モグラが土を盛ると天気。



雨の予兆

- ・三日月の鎌かけ天気良し。
 - ・月の雨かき(月の周りにできる輪)の中に星多ければ天気。
 - ・霧に雨なし。
 - ・霧のひくとき上り霧は天気、下り霧は雨。
- ### 雨の予兆
- ・千栗ちりく(市街の南西方向)隅の曇たら雨。
 - ・藤木(飯田町から南西方向)隅の曇たら雨。
 - ・河内ん山(市街の北西部)ん曇つたけん雨ん降るばん。
 - ・高良山隅たかよしのきらーつと空いたら雨。(市街の南東方向で、雲の一部が朝焼け。)
 - ・朝焼けは雨ん近か(夏の朝焼けは、佐賀で71%が翌日雨だという。佐賀東部から三養基郡にかけてのことわざ)。
 - ・イタチ日いたちひが射すとその日は雨。
 - ・基山きざん山頂が黒くなると雨になる。
 - ・螢たむけの家ん中に入つてくると大雨。(古賀・酒井西町)
 - ・セセリせせりの出ちくると雨。
 - ・夜明けのコース(フクロウ)雨コース。
 - ・魚ん浮くときゃ雨。
 - ・モズがやぶの中で啼くは雨。
 - ・クチナワ(へび)の木登り雨。
 - ・ツバメつばめの高舞い雨近し。
 - ・アリの家移り雨になる。
 - ・蜘蛛くもが夕方糸張らぬは雨。
 - ・カエルが鳴けば雨。

- ・チーチセビ(ニイニイゼミ)の鳴くと梅雨が上がる。
- ・天道さん(太陽)の高入りせらっしやるときゃゆるなか。(落日の位置が高く雲が遮る状態。)
- ・レンズ雲が出ると雨。
- ・こけら雲(うろこ雲)三日たたず雨。
- ・雲仙腹帯、宝満頭巾、三日のうちに雨。(雲仙岳の中腹か宝満山の山頂の雲は雨が近い。)
- ・梅雨はカビが生えんと明けん。
- ・ハゲ雨ん降ると梅雨が明ける。(道の小石が露出するほどの雨。)
- ・夏の夕焼け川越すな。
- ・朝雷に川越すな。(轟木町)
- ・宵止みじゃけんまたあした降るばい。
- ・お月さんの笠かぶらっしやると三日もすれば雨。(笠は月の周りの輪暈。)
- ・秋西風は雨。
- ・東風吹くと雨ん近か。
- ・あかぎれがかゆいときは雨。
- ・家の中で煙が舞うときゃ雨。(昔のカマドは家の中にあった。)
- ・月に雨傘、日に日傘なし。(月の周りに笠(暈)が出ると雨。太陽の笠は晴れ。同じ意味のものに、「月がさ日がさ(広島県安芸)」。)
- ・三日月のすくうているとき、その月は雨が多い。(すくうは9月ごろの三日月がU字形になることで秋の長雨の予兆というもの。)

雷・夕立

- ・夕立三日。(三日夕立とも。)

霜

- ・辰巳(南東)バラバラ、午(南)ドードー、申酉(西南西)の雨、戌(西北西)のつらかかる。(古賀町)
- ・土用ん夕立は馬ん背ば降り分くつ。(夏の土用の夕立の局地性。)
- ・上妻夕立や音ばかり。(久留米市上妻地方は鳥栖南東方向で、雷が鳴っても雨が降ることはない。)
- ・上妻夕立と死んだもんは来たことはなか。(飯田町)
- ・初霜で霜あがりすればその年は霜あげが多い。(霜あげは強い霜のあと晴れから急に天気が悪くなることで、天候不順の年の兆候をいったもの。)
- ・冬の霜あげの数だけ夏に夕立がある。
- ・サルスベリの新芽が出ると霜は降らん。
- ・ザクロの芽が出ると霜は降らん。

風・雪

- ・かぜ草の節の多いときゃ風が多い。(別名ふうち草・みちしばは、あぜ道によく生える。)
- ・かぜ草のフシの数だけ大風(台風)が吹く。
- ・亥子(北北西)隅に雲いくときゃ大風。(轟木町で)
- ・蜂が上のほうに巣つくるときゃ大風んこん(佐賀地方で、「カササギの巣が高かかった年は台風が吹かぬ」。)
- ・トウキビの根が高く出れば大風の兆。(同類に「キビの根が低くおろす年は台風なし」(鹿島市)、「トウキビの根が伸びれば風年」(大和町)、「トウモロコシの根が深く入っている年は大風」(杵島・藤津・西松浦。)
- ・冬、トビの高こつ飛ぶと雪。

- ・千羽鳥が渡ると雪が降る。
- ・鳥のさかさ落ち雪になる。

豊凶の予兆

大雪や豊年

- ・二月の木又裂け、三月の塊くわかくし(2月に木又が裂け、3月に田の土くれも隠れるほどの大雪は豊年の兆)。
- ・萬歳寺に三日蚊帳かやひきや満作(例年なら蚊帳のいらぬ河内の萬歳寺で、3日も蚊帳がいるのはそれだけ暑いからで、稲の生育によい)。
- ・とり豆(そら豆)の花咲くとときゴロゴロサー(雷)が鳴ると豆ん少なか(久留米市)
- ・春先の雷が早ければ豆不作。(佐賀市)
- ・柿の多い年は満作(柿はとくに手を加えない限り表年と裏年があり、表年でも秋口に台風が多いと収穫が少ない。従って柿が豊作の年は稲の風害や病害虫も少なく、満作の条件もとのうとの意)。

縁起・忌みことば

- ・へびの抜け殻を財布に入れておくと銭がたまる。
- ・えーぐちなわ(青大将)は家の守り神。
- ・へびの夢は良か夢。
- ・鳥居の上に小石を上げると良か嫁さんもらう(願いごとがかなうとも)。
- ・朝蜘蛛あそむは符の良か、夜の蜘蛛は親ん日(命日)でも殺せ。

しつけと戒め

- ・御飯粒ごほすとイボができる。

- ・夜爪を切ると親ん死に目に合わん。(夜遊びに行かぬよう。)
- ・ギンナンは歳の数しかたべるな。(栄養価が高い。)
- ・ミミズに小便かけるとチンボがはれる。(湿気のあるところで遊ばない警句か。)
- ・子どもが火遊びすると寝小便する。
- ・へソのゴマを取ると腹がせく。
- ・箸で茶碗叩くと貧乏神が来る。
- ・食後すぐ横になると牛になる。
- ・柿の木から落ちたらクソ三杯。
- ・新しい下駄は朝おろせ。
- ・写真に三人で写ると中の者は死ぬ。
- ・北枕で寝るな。
- ・シカチを贈ると縁が切れる。
- ・さんりんぼうに家建てると倒れる。
- ・二九(にく)暮29日)のもちはつくな。(九の日にもちはつくな)ともいう。九(く)苦に通じるから)。
- ・「友引」の日は葬式はできん。(前の日が酉、未などよい日ならかまわないうともいふ。)
- ・八十八夜のお茶を飲むと中風にかからん。
- ・一番風呂に入ると中風にかからん。
- ・三日目に悔やみ(弔問)いくもんじゃなか。(死亡3日目は葬式の翌日で、遺族は疲れてゆつくりしたいところ。)
- ・風邪は人に移すと治る。(風邪が流行するころは、当人の病状も峠を越している。)
- ・お茶の木に影法師を埋めちゃでけん。(乾燥を嫌う茶の木を植えるには

晴天を避けよ。

・猫はお釈迦さんの日(旧暦4月8日)前生まれんとふとらん。

・荒神さんにネズミモチをあぐると小遣いに不自由せん。

・蘇鉄は屋敷に植ゆるもんじゃなか。(鉄分を好むので「金をくう」と嫌がられる。)

軽口(口遊び)

・あかぎれごんげん、ひびごんげん、洗わんげんで、きーるったい。

・初めて聞いた、きょう聞いた、あしたの目覚まし、とつとこばい。(ほんと?と耳を疑うようなことを言われたときはやし言葉。)

(遊び疲れて、さようならと別れて道すがら独り口ずさむしりとり)。

・さよなら三角、四角は豆腐、豆腐は白い、白は兎、兎ははねる、はねるは蛙、蛙は青い、青いはバナナ、バナナは長い、長いは煙突、煙突は黒い、黒いは印度人、印度人は強い、強いは金太郎、金太郎は赤い、赤いは…)

口げんか

・今町や犬(いん)から吠えられた。(永吉町の者が言う)

・今町や今来て銭ひるた。(今町の者が言う)

・永吉やなかなかよかおなご。それに外町惚れこーだ。(永吉町が田代外町に対し)

・城戸根性に小倉愚痴、宮浦正直、園部さま。さまことさまばつて、破れさま

註：4つの集落の対比。園部さまの「ザマ」は「さまなか(みっともない)」の意か。「破れさま」のさまは台所の明かり窓で「さまんこ」のことか。

うっすりこっすり

うっすりこっすり

うすすどんのかたにゃ

芋煮て食ーござる

あたいたいちよくわせんかい

やさかこた いわさんな

冬んうちからすりよるばつて

まーだいつびゅう(一俵)すっ出さん

ゴロンゴロン

火鉢の端での遊び唄。お互いに両手を組み合わせ、白に見立てて押ししたり引いたりしながら唄った。

(口げんか、うっすりこっすりは、永吉町佐藤作一さんによる)

「おてんば」の全国的表現

きんぴら 千葉・愛媛・福岡・島根

きんきん 千葉

おこおんな 群馬

とびはぜ 和歌山

さんばち 秋田

がんだくれ 福井

おちやつびー 鳥栖

地名・町名の呼び名

近世地方文書によく使われる「三郷 両町」は、基肄郡上郷と同郡下郷、養父郡で三郷、田代町と瓜生野町の二町を言うが、上郷は今の基山町と鳥栖市永吉町・柚比町、下郷は、大部分の旧田代と旧基里、養父郡は旧麓村、旧鳥栖町・旭村を含むが、轟木以西の旧佐賀領を除く地域を養父半郡と表記した。

現存する古い町名は、『肥前風土記』（8世紀）や慶長絵図の村名を大部分残しているが、昭和34年、鳥栖市が行った大字廃止・町名改正の際、その地区の住民の希望によって旧名を失くしたところもある。

『肥前風土記』（8世紀）に登場する地名

基肄郡 基山町中心で基肄は霧の転化とも。
 長岡の社 永世神社。
 酒殿泉 （酒井泉）酒井東・酒井西の起源か。
 姫社郷 姫方町一帯。
 養父郡 養父町が中心か。
 鳥榎郷 本鳥栖町一帯か。
 巨理郷 場所不明。
 狭山郷 場所不明。

「両町」の田代町は、町名改正の折、次の下段のように改名。「田代五町」と総称することもある。

昌元寺町 田代昌町

新町 田代新町

上町 田代上町

下町 田代下町

外町 田代外町

田代大官町は田代代官所が置かれていた一帯だが、「代」が重なるからと住民の意向で、田代大官町と改名。

「両町」のもう一方の瓜生野町は、町名改正のとき、元町・本町・秋葉町に改名・分割されて消滅した。

現在の町名の中から読みにくいものを挙げれば次の通り。

神辺町

萱方町 「キヤーカタ」となまることも。河内町の小字貝方と発音が似ている所から、貝方を「やまんきヤーカタ」と言うことも。

原町 小字に本原、下原など。

蔵ノ上町 普通「クラノエ」と発音。

牛原町 小字に井河口。

藤木町 小字に寺の下、横小路など。

原古賀町 はらんこがとも。小字に大楠。

三島町 小字に於保里。

幸津町 シャーツとなまる。

（全市的な小字名は省きました）

食べ物

あいもん 和え物。いろいろな和え物の総称。

あおしがき さわしがき(渋を除いた柿)。

あめがた 短冊形の飴。

あんちよ (佐)飴。

いげんはまんじゅう サルトリイバラの葉で挟んだ饅頭。皮の部分はうるち

にもち米3〜4割を混ぜる。ガメンハンジュウ・サルカケマンジュウとも。

いでもち (佐)小麦粉をこね湯がいたもの。砂糖・醤油などで味付け。

いもんじゅり 里芋・大根などを味噌で炊き、ヒボカシで味付けしたもの。

ユグりはこり 供日のご馳走のひとつ。

うちがき 牡蛎。(佐)セツカ。

うちこみ (佐)小麦粉をこね平たくのばし、ちぎって味噌で煮たもの。

(基)ダゴジルか。

あおさぎ (佐)雑煮(お浅黄)。古語に浅黄(葱)椀。

おかちん もち。「かちんと云ふはかちひなり。かちは搦の字なり。白杵にて

つくことをかつとふといへり」『貞丈雑記』

おかい 粥。

おくもじ 菜漬け。女房言葉。

おさい おかず。シャ(菜)とも。

おしたし おひたし。ふだんそうなどをゆで酢・醤油で調理したもの。

おにもの 魚の切り身をわらで巻いて蒸したもの。宮座の膳に添える。

おつけ 味噌汁・おみつけ。女房言葉でおつゆ。

おつけだご だご汁。平たいだご入り味噌汁。ツンキリダゴとも。(佐)ツン

キーダゴ(摘み切るのなまり)。

おつたてじる (佐)味噌の濃い生汁。

おてつきもち 花嫁が結婚式で食べる雑煮。「おてつき」は「落ちつき」。

おばやき 塩漬けの鰯皮を熱湯に通し、酢味噌和えにしたもの。

およごし 和え物。古語でよごし。

かきもち 黒砂糖・ゴマ・ソーダを入れたもちを短冊形に切って乾燥させた

もの。(佐)クワイモチ。

かきやあえなます (佐)魚肉入りのなます。

かたこわい (佐)もち米を蒸しもちにつく前の飯。

がつしよく 食べ合わせ。

かまもち 蒸したもち米を釜の中で半餅状につぶし、黒砂糖とすりゴマを

まぶしたおはぎ。ゴマカマモチとも。小豆あんをまぶす所も。

がめに 里芋・人参・ゴボウ・レンコン・コンニャクなどをこた煮して、鶏肉な

どで味付けしたもの。盆正月などの特別な献立。鶏肉は自家飼育の鶏をつぶ

すのが通例。

かんころ 切り干し大根。

きご きな粉。

きごもち きな粉もち。

ぎなん ギンナン。

きやーもち そばがき。そば粉を熱湯で手早く練り塩味で食べる即席料

理。

きらず おから。トーフノハナとも。きらずは古語で雪花菜・切らず。料理

をするのに切る必要がないの意。

くんちのごつちお 供日(9のつく祭日)のご馳走で、「豆腐・コンニャク・たら

煮しめ・芋んこぐりにドジョウ汁」に、オコワイ(赤飯)、甘酒。芋んこぐり・た

らにしめの項参。

こうぼうじ 裸麦をいって粉にして、砂糖を混ぜた食べ物。ハツタイコとも。

(佐)コーセン。

こうちーめし 炊き損ないの硬い飯。

こまごこじ 小麦粉、ハンゴロシ(半分ついた粉)。

こまあえ 茹でたほうれん草・フダンソウなどをゴマ・砂糖・醤油で和えたもの。オヨゴンとも。

こわい 赤飯、強飯。おこわは女房言葉。(佐)セツカン。

さねめし 裸麦粉を米に混ぜた飯。

しーもん 吸い物。

しやー おかず(菜)。

しゆる 汁。

すめ 醤油仕立ての汁。

じゅちやじゅちやめし 水気の多い飯。

しゅーれんがき(佐) 干し柿。

しゅんかん ちくわ・かまぼこにコンニャク・蓮根・昆布の煮付け。

しろあえ 豆腐と味噌で和えたもの。(佐)シロヌタアエ。

たうえまんじゅう 田植え上がりに作る饅頭(米の粉製)。

だご だんご。

たま あめ玉。

ちまき 5月の節句に米粉をこね細長の三角状に丸めたものを笹の葉などで巻き、蒸したものを。蚊帳の中でこれを食べると雷除けになると言われた。

つげあげ 天ぷら。

つげおだて (佐)屑米で作っただんご。

どーがやし 麦飯。

にゅーめん 小麦粉を練り広めに切つて醤油で煮たもの。ウチコミとも。

ぬた 大根・人参・鮮魚などを味噌・酢・砂糖で和えたもの。

はなご 上等の小麦粉。

ひとしおもん 甘塩の魚。

ひぼかし 川魚を焼いて乾燥させたもの。味だし。

ひやうほんづけ 沢庵漬(1樽凡そ100本の意か)。

ひらかしむぎ 大麦を押し開いて湯がいたものを米の上のせて炊いたもの。米に対し麦1〜2割。

ひらかし (佐)炊いた裸麦に味噌汁をかけたもの。

ふつもち よもぎもち。

ふなやき だろだろに溶いた小麦粉を素焼きの平鍋で焼き、黒砂糖をはさんで食べるオヤツ。(佐)フツツーヤキ(フツツー泡)。

ふなんこくい (佐)鮎を昆布巻きにして長時間煮詰めたもの。くんち料理。

ほんだら 干し鱈(たら)をたたいて水につけて柔らかくのばし、ゴボウなどで甘辛く煮た田盆料理。タラニシメとも。

へそくりがし 麦粉を焼いた「へそ」に似た菓子。「モグラウチ」で貰う。

ませめし 五目飯。

ままんゆ 釜に焦げついた飯を湯で削ぎ落とししたもの。食用。

やきごめ 種籾の残りや新稲を、もみのままいつてもみを取り除いたもの。保存食やおやつ代わり。

やぶれまんじゅう 表皮からあんが覗く饅頭。

よごれもち (佐)ぼたもち。

地区別・土地柄の主食を軽口風に

きやあかた(萱方)きやーもち(そばがき)

古賀ずーしい(雑炊)

うしわら(牛原)うどんに

やぶ(養父)ごろし(小麦粉)

しゆく(宿)の白飯や、きー(食い)倒れ

ぜんざい風のキヤブの雑煮

基肄養父(旧田代領)の雑煮には、普通の雑煮に、さらにゆで小豆と砂糖を加える習慣が、今も一部で行われている。発生は不明だが、砂糖が貴重品であった時代、せめてもの元旦だけのぜいたくであったろう。

モチのいろいろ

あわもち もち米に粟を混ぜてついたもち。

いでもち (佐)小麦粉をのばし、ちぎってゆで、砂糖と醤油をつけて食べる。

(基)ゴロン。

おてつきもち 花嫁が嫁入りした婚家の膳で食べる雑煮。おてつきは落ち着き。

おはぎ 一般的なおはぎ・牡丹もち。

かきもち つきたてのもちを木箱に移し、やや固まったものを5〜6ミリ

の厚さに切り、小縄で吊るし乾燥させたもの。冬の間焼いて食べる。

かまもち 釜で炊いたもち米をそのまますりこぎで半もち状につき、ほどよい大きさに丸めてあんをまぶす。あんの代わりに黒ゴマと黒砂糖をすりつぶしてまぶす家もある。

きごもち 水中で保存した水もちを湯で柔らかくし、白砂糖をまぶしたキナコ(大豆粉)をつける。きな粉もち。

きやーもち そば粉を熱湯で手早くかき混ぜ、醤油などで味付けしたもの、そばがき。キヤーモチは、搔きもちのなまり。

ふつもち あく汁を加えてゆでたよもぎを、もちに混ぜてさらについたもの。

味のいろいろ

えがか えぐい。えがらっぽい。エーンカとも。

かばしか 香ばしい。

こしよがらか コシヨウ辛い。

ごぶてらしか しつこい味。シチコイカとも。

しおはいか しょうばい。はいかは古語で「映ゆ・栄ゆ」(いつそう盛んになる)。

しこんしこん しこしこ。

しちこいか 濃い味。

すーいか 酸っぱい。

どちどち あぶらっこい。ギトギトとも。

どーんなか どうもない(味がない)。

にんごにん 歯にまつわるような味。

やらやら 舌を刺激する味(魚肉の腐りかけなど)。

方言対話

1 きやぶこつばの用例

場面設定による対話。昭和53・54年、永吉町における方言収録の抜粋

老人が雑貨屋へ孫の靴買いに

老人 ごめんなさい。

店主 はい、いらっしやい。

老人 うちん孫ん靴ばきやーぎや(買いに)きたが、よかつのあるかい。

店主 へい。お孫さんな、いくつになんなさんな。息子さんな嬢ちゃんな。

(男児か女兒か)

老人 両方たい。上んとか男で1年生、下んとかおなごで幼稚園ばつて、凶体(すーちや)はふとか。

店主 へー。もうすぎやんふとかお孫さんのおんなさんな。(おられますか) こぎやな絵のスツクはどぎやんな。ドラエモンどまいまはやりばな。お嬢ちゃんなこん赤かとかよかろー。ふとささもこんくりやーじやろ。

老人 うん、そいでよか。孫ん気に入らんときやまた返しぎやくるけん。いくらかい。

店主 2足で1800円ばな。

老人 そぎやーんすつと。高かのー。ちつたまけんかい。

店主 うーん、近頃はなんでん高うなつて、元値ん上がつてですなー。

老人 そーかい。ばつて、損せんぶんぐりやーまけじやこて。

店主 へー。そぎやんいわつしやるなら、知らんもんじやなかし、1500円にしとこーたな。

老人 そーかい、すまんない。そんならこいでない。

店主 へ、どうもあいがとつございました。また、頼みますけー。

釣り帰りの亭主を迎える妻

亭主 おーい、今帰つちきたばい。

妻 へー。おかえり。

亭主 仕舞いがちや(終わる頃)降つちきてくさい、ずぶ濡れなつた。

妻 ありやりやー。きゆう(今日)はちつた釣れたな。だあ、見せてんなあ。

亭主 きゆうは、ごーほなしこ(たくさん)釣れたじや。

妻 ほんなこつ。ふあー。

亭主 河内ん橋ん下が一番釣れた。はじめやー(始めは)あぶらめんごたつと、あとからはふとーか色々やてろん(とか)鰻てろん釣れた。

妻 へー。ああーた(あなた)風呂んやーとるけん(沸いているから)、はよひやーらんな。

亭主 うん。ひやーるけん、おまい、こいばじゅーつ(料理)とかんない。

妻を急死させた隣家の男を弔問

作次 今晚は、ごめんなさい。

磯吉 お、作次しゃん。

作次 ほんなこて、奥さんな突然のこつで、きつかった(残念)な。おとちー(一昨日)まじ(まで)達者で畑どん打ちござったけ、トマトん話どんしたとこれ。ぎやんひよこつとはつて(果てて)いきなすつて、きちー(きつ)こつでしたなー。

磯吉

へー。どうぞ…(仏間へ案内)。あーたどんにやお世話ばかりなつてな。あんまい急なこつで、どきあんもどきあんも(どうもこうも)なかつたな。ちーつた血圧んたこつして頭んふらふらすつちゅーて、わが(自分)も気づかいよつたばつてんな。そいが、おとちーの晩、かどん口(庭先)で急に倒れちな。すぐ医者どんに診てもらたばつてん、とうとうはつていっちしもうた…。

作次

ほんになあ…。つまらんこつでございましたな。きつう、あんなさろうばつてん(つらいだろうが)気落とさんこつな。そいから、あんまり加勢にやなるみやーばつてん、何なつと言いつけちくれんな。

磯吉

へー。ほんにいろいろお世話かけます。親戚うちのとより(訃報は、うちの方で…。いろいろんゆーじ(用事)のときや、いっちょ宜しゅう頼みますけ。

作次

へーへー。よかばな。うちんと(家内)も、すぐくつ(来るから)、何でん言いつけちくれんな。

註

たより。便り・連絡でこの場合は死亡通知。昭和前半ぐらいまでは、たよりは2人連れで行くものとされた。

本家の長男の結婚を分家が祝う

分家の男

おんなさんなー(居られるか)。

本家の主人

おーりや。だあー上がらん。

分家

へー。そんならちよつとお邪魔しまつしよ。(応接間で)こんたびやーー郎さんのおめでたん決まつたげなげ、ほんにおめでとうございしましたな。

本家

わざわざお祝いきちもろて、おたいきなこつで…。

分家

こりやほんな、ちかーつと(少し)ばつてん、お祝いは持つちきたけ、どーぞ納めちくださらんな。

本家

こりや、銭使わせてすまんない。

分家

いんにや、ほんなおしるし(少しだけ)じゃけ。

本家

そんなら遠慮のう頂いときます。さあ、座敷(客間)に真似かた(形だけ)用意しとるけ、ゆつくり祝うていっちくれんな。

分家

そんならせつかくじゃけ。祝わせち貰いまつしよ。

本家

さーさ。何もななばつてん、取っちくれんな。さ、杯ば起こさんな。

分家

へ。そんなら頂きまつしよ。

病気の老人を友人健作が見舞う

健作

こんにちわ。寺ん下の健作たな。

老人の妻

あーら、こんにちわ。

健作

安しやんがうつ倒れたち聞いちな。びつくりして出てきたたな。

老人の妻

そりやーわざわざすんまつせん。忙しかとけ。おとついの昼前、田

ん中から上つちきてな、飯くわしゅーでし(食べさせよう)しよたら、あなた。具合の悪かちゅーて寝るもんじゃけ。熱の出ちくるし、手のしびるるちゅーて言いまつしよが。うろたえて医者どん呼ぶやら

うー騒動。軽か脳溢血ち言わつしやつたばつてん、絶対安静ばい…。

うんうん。心配じゃつたなあ。

健作

うんうん。心配じゃつたなあ。

老人の妻

座敷寝せとるけ、元気づけちくれなさい。さーどーぞ、こつち…。

健作

きつかつたない。軽かつげなけ心配せんでよか。ゆーこつきいて、ゆつくり養生せにやでけん。

老人 (何か言おうとするが…)

健作 よか、もの言わんでよか。おとなしゅう寝とることばい。ゆうなったら

(治ったら)ゲートボールで、まいっちゃ(もう一度)がまだそい(精出そう)。そんならゆうじん(用心)してない。また出ちくるけ。

老人の妻 ほんにきゅう(今日)は忙しかとけ、わざわざありがとうござい
ました。あんひと(あの人・夫)も寂しがりやじゃけ、また、出ちきて
くれなさい。

親せきの老婆が健造の孫の出産を祝う

老婆 ごめんなさい。こんだ(今度)おめでたでございしましたなあ。

健造 こりや、おばしやんな。わざわざありがとうございます。さあ、上
がちくれんな。

老婆 そんならちよと上がらせちもらいまっしょ。こんたびや初孫さんでお
めでとうさんじやったな。おとし(男児)ばさずかんすすて、うー
(大)喜びでっしょ。こりや、ほんの真似かた(少し)ばってん…。

健造 そりやあ、ご丁寧になあ。そぎやんしなさらんでよかつたとけ。そんな
らなんど(寢床)で孫んつら(顔)ば見ていたち(行つて)くれんな。

老婆 おりよ。こりや、こやらしか(可愛い)。おっかしやんにそつくりたい。
どんくりや(どの位)あつたな。

健造 3800グラムあつたばい。
老婆 ふんになあ。まるまる太うして、手足どまぎやん(こう)動かし
て。

老人が近所の友人に旅行の勧誘

老人 今晩は。じじしやんなござるな。

友人 おりよ。まあ上がらんな。
老人 うんにや。ここでもか。あのかさな、こんだ老人クラブで筑後川温泉
しにや1泊でいくこつなつてな、一緒にどぎやんな。

友人 おりよ。そりや、よかおめーたち(思い立ち)ばい。いつあつとな。

老人 来月5日の8時、公民館にバスのくつげな。
友人 ぜん(銭)ないくらな。

老人 バス代から泊り賃一切で5000円でよかち。老人クラブからも
ちつた補助すつげな。

友人 そりや、よかばつて、おりや、歳も歳じゃし、腰もよー立たんけ、足手
まといになりやせんじゃろか。遠慮しとこか。

老人 バスで行くとやけ、いっちゃん(ちっとも)あゆばん(歩かない)でよかば
い。湯も多かげなし、宿も美しかげなけ、よかじやい。めつたによそさい
出もせんけ、一緒におめーたとい(思い立とつ)。

友人 うーん。そーね、そんなら息子どめ(共)相談してみゅう。

老人 うんうん。そぎやんたい。また、あしなき(明朝)聞きくるけんな。で
くっだけくるこつせんな。

友人 ほんにわざわざすまじやつたな。
老人 そんなら、また。

使用人が急用で実家に帰りたい

使用人 あのー、だんなさん(旦那様)。ちょっとお願いのあつんですが。

旦那 うん、なんかい。

使用人 実はいま、あんちゃん(兄)が急病ちゆうてたより(知らせ)があつたです。たな。そるけ、うちさんちよといたてみゆーち(行つてみよう)と思つとりますが、忙しかとけほんにいーにつかばつて、よくわせち(休ませて)もらえんでつしよか。

旦那 あーりや。そりやうーごつ(大事)ない。しごつ(仕事)はよかけん、早ういたちやらんかい(行つてやれ)。2、3日泊つてよかばい。そぎやんこた遠慮せんでよか。ゆーじん(用心)していたちこんない。

男が飼いだのことで近所の飼い主に談判

男 誰かおんなー。ちよつと話のあつばい。

飼い主 なんじやろか。

男 何もかんもなか。こないだもゆーとつたばつてん、犬はちやーんとつないどかにやでけんじやい。

飼い主 なーんち。うちんたこまーかつ(小さい)じゃけ、そぎやーん、つにやーどくこた、いるみやーもん(繋がなくていいじゃないか)。

男 ぞーたんのごつ。人様に迷惑かけよるこたいつちよん(ちつとも)わからんで。うちん庭はお前ぎやん(方)いん(犬)の糞だらけばい。花は踏み荒らすし、穴掘つたくるし。今日どま、孫は追いかけられち、ひつころー(転ぶ)で、ひちやぐち(額)や怪我までさせられたばい。

飼い主 うちんたおとなしかけ、そぎやんこたするみやー。お前ぎやん(方)

孫が石どん投げつたけじやろ。

男 なーんちや。まーいつちよ(もう一度)ゆーてんか。よそん庭先い吠えさするけ、孫が逃げよつてころだとたい。こんだ、ひやーつてきたら(入つてきたら)叩き出すじや。

お姑さんが近所の家で嫁の悪口

どぎやんどんしよーるもんじやれ(どうしているものか)、2階から降りちもござらん(嫁)が。こそーつと(そつと)上がつちみるげにや、こー散らきやーちやる。何どんしよーるもんじやれな。そりや、やや(赤ちゃん)さんござるけんで、ややさんみ(赤子の面倒)ばしござつとじやろだな。ややは、子どもんいくらでんおるけんで、あつどめ(あれたちに)みらせて、仕事はされんこたなかばつて。

ちよつと草んこう生えとるけんで、取っちくれんなーちゅーげんにや。おとさん(夫)に言うてくださいちゅーち。全然百姓したこたなかつじやろたいな。もうぎやんなつたげにや(もうこうなつたからには)、いらんこつ言つとがらる(叱られる)け、もーなーんも言わんこて決めた。

年配の女同士が近所の嫁入りの話

ヤスエ おんしゃんのつと(父)しゃんな、寝ちやつたげなが、もうよかつじやろか。

良子 ああ、もう退院して、田ん中さい出ござるげなよ。そーして初孫が5月に嫁入りせらつしやるげな。

ヤスエ へー、もうそきやんなんなさつとね。初孫やいくつじやろか。

良子 22か3げな。あんした器量よしで気だても良かけな。農協に勤めちやるげなばつて、とても評判の良かち。

ヤスエ そーじやろ、ちんか(小さい)ときから、やーらしゆーて(可愛くて)、気のきいとつたもんね。むこどん(婿殿)な、どぎやな人ちね。

良子 うん。基山人で会社勤めげな。よーは知らんばつて、ぶげんしゃどん(金持ち)で親思いの働きもんち。あんなん(あの人つまり孫娘)とは似合いじやろ。親と住んだつちや姑さんにも気に入られち、よかんびやー(良い按配)いくじやろ。

ヤスエ へー。そりやあ良かったなー。

「べだやう」のCMCM

- ・くれんな 鳥栖(基肆養父)
- ・くいやい 佐賀
- ・くれんの 久留米
- ・やんない 福岡

基肆養父弁による「1月7日の

「ほんげんぎよう(どんど焼き)」

こらい、起きらんかい、よそ(他の家)はもー焚き(たき)ござるばい。

ばばしやん(お婆さん)の起こしござる声に、しもたと思うて、寢床から抜けでやーた。ほんにさぶか(寒い)、おぞぶるう(ふるえる)こたる。かどんくち(庭先)やまだ暗か。

遠かここで、竹んはじく音んする。

きんどぐち(屋敷の入り口)に出たりや、向かえ(前の家)ん爺しやんの、たきつけとんなさつた(火をつけておられた)。

おどん(私)も火種ばもろて、わらにたき付け、そんな、生竹ばくべた。熱うなつて、じゅーじゅー汁の出よる音んしてはじいた。びくつとして、いっぺんたくり(一度に)目の覚めた。

もーどこんきんどぐちでん、たき比べんごつ、燃やしござる。ふとかもんも、ちんか(小さい)もんも、皆んなあたって(暖まって)、鏡もちば焼きよんなさる。

おどんもうち(家)から、ひびん入ったふとか鏡もちば持ちきて、わらびやー(わら灰)んなきや乗せた。そるから(それから)よそんとけ(よその所)7とこ半(7箇所半)で焼かにならんばな。そるば食べとくげにや、病気せんげな。

こらい。そつちんもちあ、かやさん(返えす)かい、すばりよたい(焦げよる)。



(文・古賀町、原 忠雄)

2 佐賀弁の用例

昭和46〜49年『じょうりゆうじじほう』連載の佐賀市周辺の方言だが、鳥栖市内の佐賀弁とさほどの差違がないので、採用させてもらった。

住：住職、檀：檀家

「お参り」

- 住 早うお参りしんさった。
- 檀 お昼過ぎに、お花の立てかえに來とらんじやつたもんじや。
- 住 あがらんかんた。どうぞ。
- 檀 色々のセミの声は、ひさしぶりに聞いた。しーんとした、境内のほんによか。やっぱい、朝、早う、みゃーらんば。
- 住 今日は天気も、ゆうして、風もなかけん。ひっそうと、しとっけん。
- 檀 セミの、どっさいおるなんだあ。
- 住 夏から秋にかけては、朝からゆうるし(夕方)までたんた。
- 檀 納骨堂の屋根に、正面から、朝日の、しゃーて(射して)、きれいかつた。
- 住 ありや、ステンレスじゃっけん、キラキラ光るほんた。まあだ、左官さんの仕事か、さばけじい。
- 檀 左官さんな、ひまのいる(日数)がかかる。
- 住 もう一か月も來よんさるよ。みゃーにち、五人じやい、六人が、ねんいれて、しよんさる。
- 檀 手のこんどっけん。見事なもん。
- 住 どうぞ、そのアドウたべてみんかんた。きんぺんからの、もらいもんばつて

ん。

檀 この辺な、ブドウどころじゃろつ。ほんに、うまか。

住 ブドウは土地におうとららしか。市場でも、評判のよかてっばんた。みゃーにち、トラックで、何台でん、共同出荷しよんさる。

檀 甘味のほんにある。その、ふとかとは、巨峰じゃろつ。

住 巨峰ばんた。巨峰は、よんにゆう(余計)、手のいっけんどこでんな、つくいよんざらんと。

檀 えんりよ、せいじい、いちくうて。

「受験勉強」

- 住 あんたんところの、かしらのむすめは、中学の何年じやつたきやん。
- 檀 もう三年ばんた。
- 住 はやーもんねー。いよいよ高校たい。
- 檀 その入学試験が、世話で世話で(心配)。
- 住 たいてい、できゆうもん。
- 檀 そいが、でけんたんた。でけじい、県立の商業は受くつちゆうて、きかん。
- 住 そりゃー、思うところば受けさせんば。ガンバイよんない、あがつくさい。もしもの時は、私立でん、よかもんじや。
- 檀 私立は、月謝も、たこうしてみなりも、ぜいたくてつちやろつ。
- 住 学費は、ちーつと、よんにゆう、いっばつてん、私立は私立でまた、よかところある。両方受けさせんさい。
- 檀 みゃー晩、おすうまで、勉強ば、しよっけんかわいそつか。
- 住 高校の試験が、一番世話すんもんねー。
- 檀 二階に、電気コタツば、やつとつばつてん、ねむうなつちゆうて、つけんばん

た。

住 風邪引かせんごと、せんば、でけんたい。

檀 ねむげざましに、お菓子ば、みゃーばん、やいよつたい。もう、きーやーた
(食へ飽きた)、ちゅうた。

住 お菓子ばつかい、あんまい、食わすつきー、でけん。ぬうつか、飲みもんじや
い、果物がよかろう。

檀 ミカンな、うちい、あんもんじや、どつさい、きいよる。

住 勉強で頭を使うときやないでん、よんにゆう、食わせすぎんごとせん
ば。

檀 めしの、しゃー(おかず)も、気ば遣いよつばんた。

「おぼん」

住 毎日、ぬつか、なんたあ。

檀 こぎゃーん、ほめかす(暑い)ことも珍しか。

住 この茶の間でん、三十五度を超すもん。

檀 ひるからは、とても畑にや出られん。

住 そうじゃろう。もう、つくいもんも、きつしゃ、しょうつ。

檀 ウイ(瓜)も、ひあがいよる。

住 ほんに、七月になつて、雨らしか雨は、降らんもんじや。

檀 やしゃーもんも、困るばつてん、山つきのミカンが、こうくつきー、弱かた
んた。もう十日も降らんきい、葉のよじれてくる。

住 ミカン畑の草の茂つとつとは、よかろうもん。

檀 茂つとるのは、でけん。

住 なしかんた(なぜか)。

檀 草が、水分は吸い上げて、発散すつけん、草は、短こう、刈つとかんば。

住 田ん中の稲は、どぎゃんかんた。

檀 まあだ、までは、よか。そいばつてん。溝は、もう流れよらん。

住 ことしゃー、休耕田な、なかるうもん。

檀 いくらか、あつぱんた。ざつと、ほんな田の中にや、なんみゃー。(ならない
だろつ)

住 そぎゃーん、荒れたなんたあー。

檀 田ん中は、二年も、つくらんぎー、ヤボ(藪)になる。

住 田ん中は、ヤボに、いちにやーて。ほんに。

「豪雨のあじ」

住 ひどか雨じゃつた、なんたあ。

檀 ゆう降つた。今年のナガセ(梅雨)は、一日降つぎい、じき、あかつて、田植
までは、ほんに、よかつたばつてん。こんだあ、ないもかいも、ながすぎて。

住 一週間も、やいばなしい(無茶苦茶)、降つたもんじや。

檀 もうにや、あかいそうなもんじやつかんた。

住 被害は、どぎゃんじやつたろうか。

檀 うちの田ん中は、手植えじやつたけん、よかつたばつてん。機械植えで、つ
かつた(浸水した)ところは、もう役たつみや。

住 苗の、こまかけんなたあ。田植えのすんでから、よか天気は、なかつたも
ん。

檀 城山のミカン畑の土砂崩れは、ひどかつた、てつぱんた(らしい)。

住 こつちから見ても、真ん中の道が、のうなつとる。

檀 なが雨で畑のヤシャー(野菜)が。カンランと瓜は、しまえたばんた。その

かわり畑は草だらけ。

住 また、草むしいで、いそがしかろう。

檀 機械で刈りたい。薬ば、ふつたいすつばつてん、やつぱい、手でむしらんばでけんところのあつたんた。

住 畑の、つくいもん、しんじやうで、じやろう(始末におえないだろう)。

檀 佐賀ん町の東の方は、まあだつかつとろう。

住 巨勢川の西側のドテが、くずれたけんたんた。その水が、なかなか引かんたんた。

檀 なし、引かんじやろうか。

住 あの川の先にや、水門があつて、満ち潮の時にや閉じつことになつとろう。

「医院の待合室で」

男 早かつたなんたあ。

女 おりよう、あんたもかんた。若こつ、しとんさるばつてん。

男 あたしも、もう老人会員ばんた。役場から、折角、老人検診証ば、くんさつたもんじや、ゆうつと、診てもらおうで。

女 そいが、よかばんた。どぎやんでんないでん(何ともなくても)。

男 あなたは、強かろうごたる。いくちいなんさる。

女 もう、79ばんた。

男 ほんに、若う見ゆる。まあだたいいかせぎよんさろう。

女 店は、くたびるつぱんた。

男 そうじやろう。あんたところは、品物の、ううかもん。酒でん、タバコでん。

女 もう店よいた、うちの仕事がよく。

男 お爺さんな、もう、来んさつたかんた。

女 男は、めしば、くうぎー、じき、よかけん、早かつたばんた。今でん、飲めよう。

女 うう過ぎつたんた。みやーばん二合に、きめとるばつてん、よんべも、もう五勺ちゆうて、きかんじやつかんた。

男 せわしてじやろう。そいでん酒は目の前、あんもんじや。

女 いっちょ、いいだすぎー、きかんばんたあ。

男 お爺さんも、強かばつてん、あんたは、九十までは、大丈夫じやろう。耳も、ちかか。

女 年寄りも、あんまい、長すぎて、なんたあ。

男 そんないば、いくつまでが、よかろう、ごたるかんた。

女 いくつまででん、強かない、よかばつてん。長う、寝つきどん、するないば。

男 ほうら、あんたの診察の番よ。

女 おさきー、ごめんさい。

「農作ばなし」

住 柿の落ちとるなんたあ。

檀 みやーにち、こぎやーん、おちるばんた。

住 こりや、うまかとじやろ。

檀 ほんに、うまかたんた。もう、食わるるばつてん、落ちてしもうて、のこらん。

住 もつちやーなか。

檀 ヤシャーの播きつけは、しまえたかんた。

住 たいてい、みやーた。ばつてん、ゆうべの雨で、たたきつけどまあ、せんじやつたこちやい。(したかも)

檀 ひとせん(一時)な、ひどかった。カイナイサンまで、なつて。もう雨も、いらんじやろつ。

住 田ん中の水も、こいで、世話なし。こいからは、台風どん、こんぎー、よかばつてん。

檀 もう、うじき、二百十日たい。まあだ、ブドウは、あげよんさろつ。

住 おすかとの、このつとる。ミカンが、ようよう、ふといよつところ。

檀 お茶の苗木は、どぎやん、じやつたきやん。じやーしん(来春)の、申し込みば、今頃せんばつてつ。

住 何人でん、いいよんさつたじやつかんだ。

檀 そいば、ちー忘れて、おーまんに、三百本、ゆうておいた。

住 ことしや、だいが、何本か、はつきり、しときんさらんば。

檀 ちゃーんと、申し込みば、ききなやーて(聞き直して)、帳面に、きやーとこつだんだ。

檀 「世間はなし」

檀 寒うなつたなんなあ。

住 ひやかた(寒かった)ろつ。さあ、コタツに、ひやーんさい。

檀 米の出荷が、一応しまえたもんじや、みやーつて(参拝して)来た。

住 だけ具合は、どぎやん、じやつたかんだ。

檀 まあまあ、じやろつ。農協は予約したころしきや、受付けんてつたんた。

住 出荷奨励じや、なし、制限たい。

檀 ギナンの葉も、みんな散つたなんなあ。

住 ことしや、台風も来んじやつたけん、銀杏もモミジも、立派な色で、ひとせん(一気に)に散つたばんだ。二、三日掃かじい、おつたいば、モウセンば敷いたことしとつた。

檀 このミカンな、うまかなんなあ。早ミカンじやなろつうか。

住 普通のとじやろつ。いただきもんなた。秋の天気のよかつたけん、どいでん、早うつれて、うまかばんだ。

檀 立派な、じやーこん(大根)ば、どつさい、掛けとんさるじやつかんだ。

住 佐熊の世話人さんの奉加してきて、くんさつたばんだ。

檀 もう、じき、漬けんさろつ。

住 御正忌に間に合うこと、漬くつたんだ。

檀 高速道路は、どの辺ば、通るじやろつうか。

住 この北の野口部落の真ん中ば、横切つたんだ。

檀 そんないば、ミカン畑に、かかろつばい。

住 畑じやなし、家てん、田ん中でん、かかんもんじや、色々反対が出とる。

檀 おどんが、びつくいするこたる、道てつちやろ。

住 世の中の進むぎい、門司と下関い、吊り橋の、かかつたい、自動車ばつかい通る道の、でくるたんだ。

「きませんか」のいごころ
・ こんな 鳥栖(基肄養父)
・ きんさい 佐賀
・ こんの 久留米
・ きなはれ 福岡県南
・ きない 福岡

とすのわらべうた

「とすのわらべうた」は、一部は昭和36年10月から37年7月までの『鳥栖市報』に掲載したもので、採譜は久留米市の望月克巳さん(故人)である。

望月さんは、当時メカネの行商の傍ら取材と採譜に協力して頂いた。ここに、未発表のものも加えて復刻・掲載することにした。

(音譜はあとにまとめた)

「くりやあ箸」

栗やあ箸あ取ったよつて

まあだ歳やあ取らんたん

待ちに待ったお正月がやつてくる。子ども達の小さな胸は正月への思いでいっぱい。こんなときおじいさんは土間やいろり端で、正月に使う栗箸を削りながら、こんなうたをうたってくれた。

子ども達もいつとはなしに、その喜びをうたいたす。くりやあ箸は、栗の枝の両端を削ぐ。その真っ白の木肌が正月料理の箸にピッタリ。

註：「取らんたん」は「取ってないよ」。



「押しくわまてじゆり」

押しくわまてじゆり

痛かもんな 出てくいやい

お正月にはいろんな遊びが子ども達を待っている。女の子ならまりつき、お手玉、羽根つき。男の子にはコマ廻し、たこ揚げ等。だがこれらとは別の何にもいらない遊びが「押しくわまてじゆり」。

納屋の日だまりなどで、4、5人がかたまつて、わっしょい、わっしょいと体をもみあいへしあい、この遊びに興じる。寒さがひどければひどいほど…。何度かもみ合っつうちに今までの寒さはどこへやら、ほっぺも真っ赤に。

註：「出てくいやい」は「出てくれ」(佐)。

指遊びうた

「くわびんぼ」

幼かったころ、よく友達2、3人が集まって、何か面白い遊びを始めようとする。まず第一にカクレンボであれば、鬼を決めなければならぬ。ひとりリーダー格の子が、右手の人差し指で右廻りにひとつずつ、みんながつきだした拳の輪の中をついていく。

うたがおわった時についた手の持主がだんだん引っ込み、拳の数が少なくなると、残るのだからうかた、かたずをのんで見守っている。

最後に2つだけになると、うたう子どもの声がりタルタント(だんだん遅く)なり、クレッシエンド(だんだん強く)なって、みんなひやひやしながら最終の審判を待っている。

わらべうたは、うたの言葉の意味も全くわからぬままに先代から次の世

代の子ども達へと受け継がれていくが、地方によってその歌詞も旋律も少なからず変化があつて面白い。

【Songbook】

音譜には旧田代・旧旭と、北茂安町江口で採譜のものを掲げた。歌詞も次のように微妙な違いがある。(図1)

いほづま じよりくじよ

またくにくだらず

ののべぢやのつさんしよ

(田代昌町・白水 千香子 唄)

いほづま じよちくじよ

またくにくだら

ののべぢのさんしよ

(儀徳町・広重 泰 唄)

いほづま じよちくじよ

またおにやくだらん

ののくだしよ

(北茂安町江口)

いほづま じよちくじよは

またきてくだらん

のうのづかん のつかんしよは

(田代)

いほづま じよちくじよは
またくにくだらず
のうのづちやんのさんしよ
したかずらのは

(田代)

「手合わせ唄」(指、手を使つての遊び)

手さら ころら さら見て ちよと引け

うつすり ころすり

うつすり どんのかたにや

いも煮てふぎる

あたしいちよ くれんかい

卑(や)しかしたいわさんな

ころつ ころつ ころつ ころつ

去年からすりよるばつてん

まだ一俵(いびゆう)すつ出さん

ころつ ころつ ころつ ころつ

(幸津町・豊増 絹代 採詞)

だるまさん だるまさん

ねらみぐちよ(睨み合い)しましよ

わろたらだめよ

うんと(い)い(い)しよ

「じゃんけんあむび」

はさまやかーてん(石(グー)と鉄(チョキ)で石が勝ち)

いーしゃかーてん (風呂敷(パー)と石で風呂敷が勝ち)

ふろしきやかーてん(鉄と風呂敷で鉄が勝ち)

註：「かてん」は、「加えない」の意。普通のじゃんけんで勝負がつかないとき、多勢のとき用いる。考える余裕を与えるため、口調はゆっくり。

「手遊びつた」

一が刺した 二が刺した 三が刺した 四が刺した、と順次七まで行き、

八(蜂)が刺した ぶんぶるぶん

註：何人が手の甲をつまんで上に交互に重ね上げ、ぶんぶるぶん、で、急に手を解いて蜂が飛ぶしぐさ。

「口遊びつた」

ことうつ ことうつ ことうつ ことうつ

一けんじよ 二けんじよ 三けんじよ 四けんじよ

四けんまおごとの めくらにのせて

あね牛 子牛

けんぐらひいて 子ひけ

註：江島町・斉藤キヨノさん唄。幸津町では2行目が「おととがめくらに

なつて」、3行目が「あめ牛、子牛」になる。

「手合わせ唄」

青山(こ)所から

にーし(西)のそーらを みーればね みーればね

みればみるほど なーみだがほうろほろ ほうろほろ

流した涙は たもどでうきましょ ふーきましょ

ふいたたもとは 洗いましょ 洗いましょ

洗ったもとは しぼりましょ しぼりましょ

しぼったもとは ほーしましょ ほーしましょ

なおしたもとは ねずみががりがり がりがり

かじったねずみを つぎやうぼうでずどん

註：なおす、しまつこと

青山(こ)所から 東のほうを見ればね 見ればね

もんのそーらに おきよさんと書いたかね 書いたかね

おきよさせせ すいぎよのくしをね くしおね

誰にもろたか 源二郎さんにもろたかね もろたかね

げんじろ男は だてしやで困るね 困るね

困るだてしやは 身持ちとなりました なりました

身持ちやいくつき なみつきやつきね

やつきね そでおきよさんも 涙をほうろほろ ほうろほろ

ほうろほろ落ちる涙を なの葉にもんだかね もんだかね

こしよしよいけんきなぎい ちようきつあん

(蔵上町)

この唄は歌詞よりもリズムを楽しむ唄で、同類のものが県下にも数種類あるようだ。この唄の遊びの中で、子ども達は手合わせをやめて歌詞に応じたくさをする。「東の空で」で手をかざしたり、「くしをね」で髪をくしけずる手まね、「涙をほうろほう」で涙の落ちるしぐさ、終わりの「どん」でひじ鉄砲をする。

「手たたき唄」

エフサツザ

かぼちやで のっさいすりや

おくるさんの ままぞ

かぼちやも いやいや

おたぼちもいやよ

もろたもろたよ 三味線箱もろた

あけてみたれば やつおのせきだ

せきだごにある 天神さんのまえに

おろしやぶなる なやとぎや美つさ

美つさの花は つまぐれのはなよ

ひとえだおしよつて 三枝あげて

そぞいでいこ あがった

註：つまぐれハホウセンカ。

「石なご唄」(お手玉)

鳥栖ではお手玉のことを「石なご」と呼ぶ。小さい布袋の中に小砂利などを入れるのでこの名がある。「なご」は「何々ごご」のなまりであろう。

お手玉は初めの2個遊びから次第に3個、4個と数を増し、数個を高く投げ上げて、その間に畳の上でいろいろなしぐさを挿入するなどの高度なものへと発展する。

唄の文句は、さりげないものと、しりとり形式のものが多く、お手玉遊びだけでなく、手まり唄としても転用できる速度の唄が多い。

小屋のうしろで ぎいす(キリギリス)が啼いた

なんとゆーて 啼いた

げんじろさまか じろさまか

たばこ一斤 買いなされ

たばこ買おより 寺まじろ

寺はどこ寺 ほんご寺

ほんごのしのぶは よいところ

あさましどころに 子がでけた

その子が 七つになるときは

ぎんどうぎんちやく さげさせて

ぎんどうぎんちやく いやならば

京が上がつて オブ(帯か)こうて

おまんがおこしに まきつけて

そぞて転だる 誰か起こそ

狐や狸が出て起こそ

あんまりはたりやて 木いふんだ
その木はなんぼん 十三本
うまやでほれば 馬が見る
座敷のお縁で 掘ったれば
姉さんの着もん^に 血がち^ーた
血じやなかつた 紅^{べん}じやつた
そで一卷 つきました つきました

(蔵上町 篠原 みね唄)

「しなまうた」

きよんきよん きよろはし はしらめの
べんやのおつかさんの そめものは
どーしてもどーしても ようそまん
なんどぐるまに みずぐるま
水のないのに およろして
およろのながしに 腰掛けて
もーしもーし 子どもしきん
ここはな^ーんと ゆ^ーどころ
ここは信濃の善光寺
善光寺さまに がんたてて
梅と桜をあげました
梅はすいかと辰されました
さくらはよーいとほめられました
そでいつ^ー おうわせた

(真木町)

註：6行目の「およろのながし」を、「およろの長崎」。終りから3行目の「梅はすいか」を「梅はすいかときらわれました」とする所も。

「ふうせん」

ひとりろ ふたろろ みんなが よこまで
いつあが むごん ななせか やせか
このせ とーお

鬼あそびうた

「めくら鬼」

子どもの世界から遊びを除いたら何も残らないといっても、言い過ぎではない。遊びがあれば必ず唄が付随するのが子どもの生活の特色といえよう。村の鎮守の森や家の庭の片隅などで、秋の太陽をいっぱい浴びながら、子ども4、5人が集まり、丸く輪になって、この「めくら鬼」にうち興じている姿は、しばしば私たちの郷愁を呼び起こしてくれる。

この円陣のなかに鬼に選ばれたひとり、手で目隠しをして周囲の子ども達と問答形式の唄がやりとりされる。唄が終わると同時に鬼は、うしろの子の名を言い当てる。当たらなければ何度でも遊びを繰り返す。あるいは「生きつとる」の言葉と同時に鬼は目隠しをやめて、子どもを追っかけてひとりをつかまえると次の鬼となる。

鬼の手を逃れて「わー」と歓声をあげながら逃げまどく様は、大人達にとって天使の再来とも見まごう光景であるが、時の移り変わりと共に、こん

な遊びが消え去つてゆくのは寂しい。

(幸津町)

「ほんさん ほんさん」

ほんさん ほんさん

お茶をいばい あげましょか

(まだ、まだ)

まだどうなら

あなたのうしろは だーれ

註：唄が終わると同時に鬼の真後ろの子の名を言い当てる。

(藤木町)

「あずき あずき」

あずき あずき

もひとつたへたら にえごらん

おばさん時計は なんじ

(五時)

生きてるの 死んでるの

(死んでる)または(生きてる)

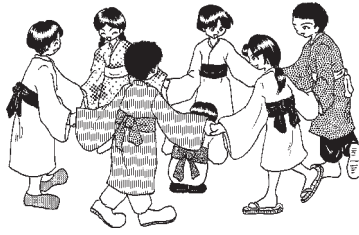
(河内町)

「鬼決めうた」(じゃんけんあそび)

手とら 手とら 手とら 手とら 手とら

手のはら勝負 誰(だ)が勝った

うんこ(こ) ぱちりんしょ



註：それぞれが片方の手を出し、リーダーが唄に合わせて手の上を軽く叩きながら「ぱちりんしょ」の「しょ」に行き当たった者を、ひとりずつ引きはずし、最後に残ったひとりか鬼になる。悠長なじゃんけん遊び。

座頭さんへ 座頭さんへ

お茶をいばい飲ましょんせ

(また、また)

まだどうなら

お前のうしろは誰じやいな

(江島町・寺崎ヒナ子 唄)

「鬼あそび」

ほんさん ほんさん どこ行くの

わたしゃ酒屋へ 酒買いに

お茶をいばい のましょんせ

まだまだ

まだどうなら お前のうしろにや誰がおる

(名前を当てる)

今日は日が良し 鬼の子とり

親がおつとぎや 何の子ばとろか

(山浦町)

まりつき唄(風船つき・羽根つき)

古い唄を求めて訪ねた私たち採集班が、この唄にぶつかったのは大きな驚きであった。明治37・8年の日本海海戦に加わった戦艦「富士」が、英国アームストロング社でつくられ、日本へ回航されるまでを面白く唄いこんでいる。

数あるわらべうたのなかで、明治以降の世の中できこを教訓として取り入れたものは、2、3あるが、この唄のように具体的な史実を扱ったものは極めて珍しい。

あるいは当時の流行歌か学校の教科書あたりにその元唄があるとも推測されるが、児童の耳に聞き覚えられ、わらべうたとなって遊びに取り入れられたものであろう。

あれみやれ あのふねみやれ

あれは名高き 富士艦よき

富士艦は どのこしらえ

ヨーロッパの イギリスチームスで

ぞうせん そうしや(造船所じや?)

よくできた 品よくできた

品がよいほど 値が高し

お値段は いくらでござるか

およそ いせんまんえんよ

さいせんまんえん(三千万円?) たかくはあるまい

世界一のふねじやものさ

そくりよきは 十八ノット

鉄の厚さは 一尺五寸

艦長は 三浦大佐

イギリス発して 大西洋さ

地中海や スエズの運河

印度洋も 無事に通して

十月三十一日 めでたく

横須賀に 着きました 着きました

「手まりつき唄」

わしが姉さんな 三人ござる

中の姉さんな 糸屋でござる

糸屋一番 伊達者でござる

五両で帯買うて 三両でくけて

くけ目くけ目に 七ふさぎけて

帯に短し 襷にやながし

山田薬師さんの 鐘緒にやよから

鐘をたたいて 拝むとすれば

四十五願の 数珠の緒が切れた

切れた数珠の緒を お寺に上げて

お寺子供衆たちや 手習いさせて

お寺の縁から つき落とされて

てんや手のこい 落としたとおつしやる

はんや鼻紙 落としたとおつしやる

それは向家(むかえ)の お種が拾った

お種(こい)い さかすきさしよか

お種はいやとて 逃げてかくれて

(蔵上町 井上とよ 唄)

「まひつきつた」の代用

一もんめのいーすけさんは いーの字がきらいで
 一万一千一百五合一斗一升一合まに
 お倉に納めて二もんめにわたした
 (以下九もんめまで同じ繰り返し)
 十もんめのいーすけさんは 十の字がきらいで
 十万十千十百五合十斗十升十合まに
 お倉に納めて

しょうしょう庄屋のあねどん
 あわめしくわんとはねやつた

註:「あねどん」は子守と家政婦をかねた奉公人

(幸津町・豊増 絹代 採詞)

「まひつきつた」

ひいぶうみいの うぐいすは
 梅の小枝に 巣をかけて
 十二の卵を 生みそろえ
 生んでそろえて たつときは
 ひどつはひよどり
 二つはぶくろどり
 三つみさちよ(ミンササイ)
 四つ夜がらす
 五つ石たたき(せききれい)

六つむきどり(棕鳥)

七つ難儀の花ざかり

八つ山鳥

九つこんどり(コウノトリか)

十とおばたまきあげて

そーらいっこん おーわせた

「てまりつた」

一かけ二かけ三かけて

四かけて五かけて六をかけ

七の欄干 腰かけて

はるか向こうをながむれば

十七、八の小娘が

片手に花もち線香もち

お前は誰かときいたらば

わたしは九州鹿児島

西郷の娘でございませう

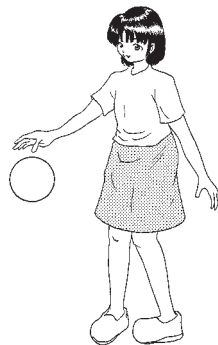
明治十年戦役に

討ち死になされたお父さま

お墓まいりをいたします

「まひつきつた」

うちの姉しゃんな木のぼり上手
 二段三段つづけてのぼる



(河内町・天本 國子 唄)

下を通るはお医者じゃないか

お医者「たお医者はずてん

薬箱もたぬ

薬のもより死んだほうがましよ

死ねばお墓の土となる

そんで「こ終わった

(江島町・寺崎 ヒテ子 唄)

「風船つきつた」

そばそば一杯 そばおあがんなきい

スルーツ(すする真似)

そばそば二杯 そばおあがんなきい

スルーツ…(以下風船が続くまで、三杯四杯と繰り返す)

(江島町・斉藤 キヨノ 唄)

ひいづくれた おんめーさんな

よーるもひーるも ずつきんかぶつて

おむすびやい(

(河内町)

「羽根つきつた」

ひどろろ

ふたろろ

みーみが

よよこまで

いっさが

む(ごん(婿殿)

ななせか

やーせか

こーいな

いっ)

(河内町・天本 國子 唄)

註…真木町、旧基里でも同じ。幸津

町・江崎涉さんによれば、「みん

み」「いっさか」最後が「としお」となる。」

おいはね こはね

ひとより たかく

ひらひら まえは

そこらで いっかんしょ

(幸津町・豊増 絹代 採詞)

「子守唄」

よいよいの 亀しゃんな

あつぶか ちやわんで

ぶぶ のんで

お医者さんに 見せたりや 水ぶくれ

よいよい よいよい よいよいよい

註…あつぶか(きれいな)、ぶぶ(湯茶)の幼児語



いとけないころの乳の匂いのする母親のふところや背中できかさされた子守唄。今では乳飲み子がおんぶされている光景はあまり見られなくなったが、かつては普通に見かけられたものだ。

鳥栖地方ではネンネコバンテンのことをトンジン・トージンと呼び、袖のない四角い布団にひもをつけたものをガメン・トンジン・ガメン・コ・ガメン・ゴットン・ガメシヤンなどといいならわしている。

この防寒着を着た子守の格好が亀の甲に似ているところから、おんぶされた子どもにカメシヤンと呼びかけたのであろう。たわいない歌詞であるが、子守の背中で丸くなった格好を「水ぶくれ」に例えたものであろう。

いつとはなしにまじろむ子どもが無邪気な寝顔が、この唄をきく人の目に映るような美しい曲である。

(幸津町・陶山 唄)

「子守唄」

市内農村部では、むかし近郊の村々から1年年季で12、3歳から嫁入りくらいまでの子守ねえやが雇われていた。彼女らは子守をしながらいろいろな唄を口ずさんでいた。ふるさとへのなつかしき、子守のつらさ、または芽生える異性への恋心などを、物悲しいメロデーでうたいあげている。

子守のほかにも家事や農作業の手伝いをやらされることもあり、1年の年期がすめばまた、次の子守奉公にやらされる。さすらいのせつなさがこの唄にこめられている。

おごま(私は)ごまごま ごまやんが(ごだ)(病氣した)

いごだ介抱も せにやならん

いやさのどんどん

今年(ご)れきり また来年は

ごこのカマの前 這うだろか

いやさのどんどん

はなちゃん はなちゃんちゅうて

泣かせちゃ ならぬ

わしが大事な 飯まの種

いやさのどんどん

(真木町・大石 ヤス 唄)

子どもにとつて母親を失うことはどんなに悲しいことだろう。その後嫁いできた2番目の継母とはしくりいかない。いたわり、いつくしみさえ仕打ちと受けとつてしまふ。そんな子どものひがみで、小さな義理の弟妹を子守している気持ち、この唄にひしひしと感じられる。

唄の文句の一部は熊本の嫁取り唄(フンシヨヨ)とよく似ていて、継母への恨みつらみが述べられていく。

一方旋律の方が博多の子守唄とそっくりで、どちらが元唄と決めるのは難しいが、単純で寂しい中にも少しおどけたところのあるこの唄は、他にあまり例がない。

わしがかかしやんな ままかかしやんで

石ではかまは 縫えとゆーた ヨイヨイ

石ではかまは 縫わるるならば

山の松葉が 針となる ヨイヨイ

山の松葉が 針になるならば

山のかずらが 糸となる ヨイヨイ
山のかずらが 糸となるならば
山の木の葉が ふせとなる ヨイヨイ
山の木の葉が ふせとなるならば
天の白雲 綿となる ヨイヨイ

(蔵上町・篠原 みね、井上 とよ、松隈 きく 唄)

お千代がとぎんな (ぎんぎんに)
三千み山に 金掘りぎゃ
金は掘れたか 掘られんか
一年待つても まだぎれん(来られない)
二年待つても まだぎれん
三年三月(みつき)に 状がきた
状のうわかえ よんでみりゃ
お千代にこいと ゆーてきた
お千代やると やすけれど
下になんがる 着せてやろ
下は白もく 白小袖
中は丹波の 江戸小袖
上は唐茶の 一重物
帯はどんすの 三重まわり
足は唐たび 唐雪駄
これほどつけて やるからにや
あのことども 思わすな
あどはしぐれの 雨が降る

さきはれんげの花が咲く
おねんねおしゃんせ おとろとろ

(蔵上町・篠原 みね 唄)

たにしどの たにしどの
きようは天気も さまそーろ
伊勢参宮は 召されんか
いやでそーろ いやそーろ
去年の春に 参りしが
サギとカラスと フクロめが
あつちかいころはかしゃ かいづき
こつちかいころはかしゃ かいづき
そのきすが そのきすが
土用四節と八遷と
霜されふれば ずくずくと
ずくずくずくと うずきます
なわる葉は ぎざらんかん
薬もだんだん ぎざります
山にたつたる 海茸と
海にたつたる 松茸と
夏ふる雪に 寒なすび
ねりませこきませ ねりませで
それなる傷に つけたなら
必ず平癒 いたします
おかたしけな ぎざんした

註：幸津町では、終わりから5行目に次の2行が入る

「木を伐るおじじのゆる糞と」
「ぬたするおばの固糞と」

「子守唄」(代用)

ちりりりんんと 音するは

鳥栖の停車場の発車ベル

そへいなかの ハイカラが

駅長さん長崎線な どちらです

長崎線は こちです

熊本線は こちです

あちこち行つてる間に 汽車は出た

註：鹿児島までが未開通の明治中期の唄。

(真木町・手島りん 唄)

子守唄(代用)

雲仙山の雀たちや からすから追わるるけ

ほんな雀が仏たい

ほんな雀が仏なら 鉄砲から射らるるわけなけれど

鉄砲から射らるるけんて

鉄砲がほんな仏たい

ほんな鉄砲が火吹いて 燃ゆるわけなけれど

火におうて燃ゆるけんて ほんな火が仏

ほんな火が仏なら 人間から飲まるるわけなけれど

人間から飲まるるけんて

人間がほんな仏たい

ほんな人間が仏なら

仏の前へ尻こたてて 拜むわけはなけれど

尻こたてて拜むけ

ほんな仏が仏たい

「つなとびうた」

一の谷 ふんまえて

二で 二度もろて

三に さーきわろて

四つ 世の中よいわいな

五つ いつものほごきなし

六つ むりこの通りぞめ

七つ なーにもなーしなし

八つ 屋敷をひーろめて

九つ こーにくらをたて

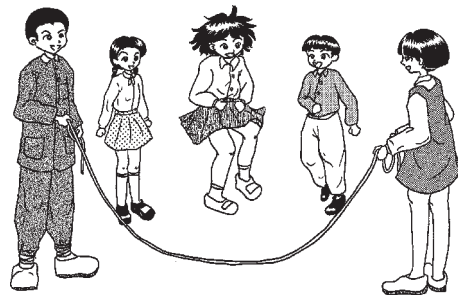
十で どうとうおーさめた

「つなび」

つぎのかた おーはいり

はいよろし

おいでのおかたと ジャンケンボー



(河内町・村山キヨ 唄)

(河内町・村山キヨ 唄)

まーけたおかたは 出てちょうだい

大波小波 高山こえて ひく山こえて
谷川わたり ワンツースリー

おいばね こぼね ひとよりたかく
ひらひら まえは そこらでいつかんしょ

「いしなこ」

ななやはくくな いっぴち
ななやはくくな いっぴちに
ななやはくくなく いちにさん

仕事の唄

「米つき唄」

あなたゴットンゴットン
なんごめつきよる
わたしや十三日の列れ米

ヨイヨイ

十三日や近まる

腹の子はどる

もうにや おろきにや 人が知る

ヨイヨイ

「木びき歌」

こびき女房にや なるなよ妹
木がどんとくりや 生き別れ

あーっすんっすん

引いても一寸 押しても一寸

あしが唄どりや 大工さんが笑ろた
うたにかんなが かけらりよか

(繰り返し)

雨の降る日にや こぎらにやよかど
こぎりや二の字の型がつく

(河内町・天本リツ唄)

「ぶらこ打ち唄」

思うちや ゆーちや泣き

ゆーちや 思うちや泣き

門じやもろ泣きもろ涙

バッタン バッタン

こころ根性者な

なおせばなわる

わたしおたふくなわりやせぬ

バッタン バッタン

註：根性者(私の強い人)、ぶるこ(ぶりこ)とも言い、麦や豆類などの脱穀に用いる農具

「麦打ち唄」

私やあなたに 七ほれ八ほれ
九(こ)なほれして とほけ顔
バツン バツン バツン バツン
あなたばかりが いつきてみても
たすきこる暇がなし
想うちやいうちや泣き
いうちや想ちや泣き
門(かど)じゃもろ泣き もろ涙
こころ根性もんな なおせばなわる
私がお多福 なおりやせぬ

(田代町で採詞、機織り唄にも兼用)

明治40年ころの鳥栖・三養基地方の織物は、県内で最も盛んであった。これは、隣接する久留米が綿織物の先進地であったからであろう。織物の大部分は吉野織と凱旋織で、吉野織は日清戦役の記念として始まり中国に輸出、凱旋織は日露戦役後創始、国内で販売されたという。当時、佐賀市部では力織機が採用されていたが、鳥栖・三養基ではまだ手織機であった。朝早くから晩遅くまでトンカラン、トンカランとにぎやかな音が村々に響いていたであらう。

「かすり織り唄」

八つおきの
上緒下緒にすみ分けて
主と二人は紺がすり 紺がすり



会うてうれしや このかすり
切れてくれるな 縦の糸
チヨイトネ

(蔵上町・篠原みね唄)

註…音譜には「おーてうれしや」とあるが、「織つてうれしや」とも考えられる。

「機織り唄」

わたしや あなたに 七ほれ八ほれ
こなほれして とほけ顔
ナンノ トンカラン トンカラン
思ちやおれども まだ親がかり
親が許さにな 籠の鳥
ナンノ トンカラン トンカラン
想ちやおれども 想われちやおらぬ
磯のあわびの片思い
ナンノ トンカラン トンカラン
思い出しては 写真を眺め
眺め写真が物いわぬ
ナンノ トンカラン トンカラン
きょうの日もまた 七つ(午後四時)にさがる
心ある人 うれしかろ
ナンノ トンカラン トンカラン
かねちや(日唄は)サラサラ出る声なれど

お客さんに恐れて声たため

ナンノ トンカラン トンカラン

(田代本町太田)

「田の草とり唄」

田の草取り唄は県下各地で唄われた。田植えが終わって「さなぼり」で一息ついたものの、一番取り、二番取りと追われ、四つん這いの背中を炎暑に焦がされながら、湯のような田水に手足もふやけるほど。農作業の中でも一番イヤな仕事である。昔は地区共同で行われる所もあり、男女一緒になれば辛い仕事も張り合いが出ようと言うもの。

四月五月は寝てさえねむか

妻が寝せぬ目に なおねむか

ゆんべした夜の なおねむか

二度とせまいぞ箱枕(大和町)

などというきわどい唄もある。「腰の痛さよ…」の一節は鹿島市や浜玉町の唄の中にも見られる。市内儀徳町の採譜がないので、浜玉町の譜をあとに掲げる。

腰の痛さよ この田の長さ

四月五月の 日の長さ

何の因果で 百姓ならた

夏の田の草 秋や夜白よ

すいてはまれば 田の水も

のめば甘露の 味がする

(儀徳町・牛島 良子 唄)

「石つき唄」

地つき唄ともいい、家を建てるときの基礎固めの石つき(鳥栖ではドーキ、土突きのなまりか)は、昭和30年代までみられた。市内宿町の轟木長次郎さん(故人)が唄う「石つき唄」は、

ランエー

きょうは日もよし 日がらよし

エイトーナ エイトーナ

日がらは見立てて エイヤトーナ

に始まる神おろし唄、普通唄、祝い唄、綱子さんへ唄を頼むときの唄、本節、だんもん(段物)、神上げ、と多岐にわたり、最後は「三唱三唱 三唱三唱三唱 ヨーイヨイ」で終る長いもので、唄の文句もこの地方のものと思われないので、ここでは省く。

昭和初年、鳥栖地方で唄われていたものは、その中の本節と、これをもとに即興的に唄われたものもあつたようだ。

「本節」

ハラサー きょうは日もよし

日がらも良けりや ヨーイヨイ

末の繁昌と コリヤ ついて回る ソラ

ヨーイヨサ ヨーイヨサ

アリアサツコラサーノ ヤーットセ

ハラサー きょうは日もよし

日からも良けりや ヨイヨイ

末は繁昌と なるばかり ソラ

(以下繰り返し)

ハーエー お茶を飲んだなら ア 元氣は出せよ ヨイヨイ

みな綱子さんにゃ 受け声は頼む ソラ

(以下繰り返し)

隣町北茂安町では「筑後川舟唄」を地突き唄でうたつたというが、なるほど、はやしなどは鳥栖の地突き唄とそっくりである。ここには、北茂安町で採譜された「石つき唄」と筑後川舟唄ともいわれる「櫓こぎ唄」をあとに掲げた。

「ずまごころ唄」

一で宝をうしのうて

二で日本騒がせて

三で侍廃せられ

四で四国の禄をとる

五つ以前を大切に

六つむやみに髪を切る

七つ難儀に金を借る

八つ座敷を売りはらうて

九つこうしておらりようか

十東京さに逃げていく

トコドスコイ ドスコイ

「ずまごころ唄」2

えー梅にやほれても 桜にやほれぬよ

トコドスコイ ドスコイ

梅のこころを きいてみりや

十七、八の そのどきにゃ

うぐいす泣かせた ふしもある

今じゃ大梅に なつたとて

近所の人から 竿さされ

おてころんで ひろわれて

近所の町に 持ち出され

何升何合の はかり売り

塩に仲立ち してもろて

しそになじんで 色づいて

朝茶の茶おげで のほほい

ええしぼられるよ

トコドスコイ ドスコイ

(真木町で採詞)

「もくしんち唄」(きやぶ)

こどしや じにようじによう

来春な 万作万作

ねぎだれきやーだれ

十四日ん もぐらうち

(河内町・村山キヨ唄)

もぐらんせー祝わんせー

祝わん嫁ごは こーき出せ

酒んさかなは かーずの子

もち出せ もち出せ

註：ねぎだれ(家のまわり)

「もぐらんせー唄」(立石町)

ここしやじーねんじーねん

来春(りやーしん)な 万作万作

ねぎだれきやーだれ

十四日ん もぐらんせー

もぐらんせー祝わんか

祝わん嫁ごは たたき出せ

酒んさかなは かーずの子

もち出せ菓子出せ さかな出せ

オカチンなまごでも ふどかつから

註：オカチン(もち)、じーねん(自然||平年作)。

「たんす長持ち唄」

花嫁が婚家に嫁入りする「嫁入り道中」は、たんす・長持ちなどの嫁入り道具を、ハッピに向う鉢巻きの若衆たちが、真ッ青の竹を杖に練り歩く。その道中でうたわれるのが「たんす長持ち唄」。昭和30年代までは市内農村部でみられた。

蝶よ花よと 育てた娘

一度は他人の 手にわたる

唄の構成は、花嫁が家をたつときの「出唄」、道中での「道中唄」、婚家の門口でうたう「渡し唄」「受とり唄」の4部。道中では村の辻々などで休憩をかねてうたわれるが、迎えにきた婿方の唄い手と掛け合いになることもある。

相手方の唄が遅れると「シヨモ、シヨモ」(所望)と促し、どちらかが詰まるまで即興のノド自慢はつづく。

時代の流れとともに、こんな悠長な嫁入り道中はみられなくなったが、一部では結婚式の祝い唄としてうたわれることもあるらしい。昨今の一時期、民謡愛好家のたんす長持ち唄の大会が開かれ、「のど自慢」にもしばしば登場したが、その歌詞と曲は大同小異である。ここでは、鳥栖市一円でうたわれたものを掲げるが、採譜は佐賀郡富士町のもを掲げた。

「出唄」

ハア キようはナア日もよしア日柄も良けりや 末は(繁昌とア)なる荷

物ナヨ

(以下略)

たんす長持 見事なものよ

中のご衣装 なおよから

蝶よ花よと 育てた娘

一度は他人の 手にわたる

近所近辺 ご親戚のお方

あとはよろしく 頼みます

祝い重ねて 祝いはすれば

今度来るときや 孫つれて

ふるさと恋しと 思うな娘

里は一時の 仮の宿

さらば行きましょ ご同行のお方

花婿さんの宅まで 届けます

「道中唄」

しよもといわれりや 唄わにやならぬ
荷物重けりや 声が出ぬ

ここは一番目の関所でござる
祝いますぞ 元氣付けに

重ね祝いで 唄うてみれば
鶴と亀とが 舞い遊ぶ

あなた百まで 私や九十九まで
ともに白髪の 生えるまで

祝いめでたの 若松さまよ
枝も栄える 葉もしげる

見事見事の 道具がそろた



嫁はやさしく きりよう良し

この番所で ご苦労でござる
またの縁と 急ぎますぞえ

「渡し唄」

あなた宅を 眺めてみれば
平が八間 入りが五間

たんす長持 粗末なものよ
中のご衣装は ポロばかり

あなた座敷を 眺めてみれば
鶴と亀とが 舞い上がる

鶴と亀とは 何というて遊ぶ
ご家ご繁盛と いうて遊ぶ

たんす長持 荷物も嫁も
みんな花婿さんに 渡します

「受取り唄」

見れば見事な お荷物ばかり
中のご衣装は なおよかろ

たんす長持 見事にそろた
秋の出穂より なおそろた

そろた荷物は 見事でござる
あとの花嫁さんは まだよから

たんす長持 荷物も嫁も
受けてご繁昌と 祝います

遠い道中も ご苦労さんでござる
どうぞお上がり お座敷に

口遊びうた

うたというほどに曲はないが、その場で思わず口ずさむことば。「夕焼けこやけ あーした天気になーれ」というようなもの。また、語呂合わせや言葉のリズムを楽しむもの、しりとり、あるいは悪口を歌話化したもの、願望から占いといった意味をこめたもの(動作を伴うもの)などがある。

誰がいつごろからつくったかもわからない。おそらく即興的なものが、いつの間にか口うつしに伝わったものではあるまいか。

「くろくろ遊び」1 (昭和初年ごろ藤木町で)

さよなら さんかく

しかくは とーふ

とーふは 白い

白いは うさぎ

うさぎは はねる

はねるは かえる

かえるは 青い

青いは バナナ

バナナは ながい

ながいは 煙突

煙突は 黒い

黒いは インド人

インド人は 強い

強いは 金太郎

金太郎は 赤い

赤いは じゃくろ(ザクロ)

じゃくろは 割れる

割れるは…(女性器)

「くろくろ遊び」2

日本の 乃木さんが

凱旋す すずめ

めじろ ロンヤ

野蛮国 クロバトキン

きんちやがま 負けて逃げるはチャンチャンボ

棒で叩くは 犬(いん)ころし

尻の割れ目は十文字 地獄の沙汰も金次第

石の上にも 三年

年がきたなら帰りよーか かじ屋の丁稚(でっち)は熱かる…

(地獄の沙汰も…のあと、次のようにいうところもあった)

いーさんの頭はハゲ頭

まんじゆのなかには あんいっちょ

朝鮮征伐清正が

学校生徒を引きつれて

帝国万歳万万歳

「ソーダ屋のソー助さん」3

ソーダ屋のソー助さんな

ソーダまんじゅうくーして

死んだぞうだ

ソーダ屋のソー助さんな

ソーダまんじゅう

すーかんぞうだ

「口遊び」

石がきどんぼ つら出すな

つら出しゃ 釣らるる あんぼんたん

からす からす かん三郎

お前ん山は まっかつか

はよー 帰つて 水かけろ

火事とおもたら 夕焼けたい

(市内旧肥前城)

きやーつぐろ(カイツブリ)ん頭にや

火がちいどる

くるつどぬけたら 紅^{べん}じちた

いんどじんのくろんぼ

いんどじんのくろんぼ

はげっぱ山ん運動会

すべつてくろんで一等賞

一年生はいももしけ(芋持つてこい)

二年生は煮てくれ

三年生は皿もしけ

四年生は寄つてくえ

註：小学4年までが義務制だった明治39年以前のものか。

ぼうずぼうず ねぎぼうず

焼いてん煮てん くわれんばい

月曜の晩に

火事できて

水もつてこいと

木ちゃんか

金玉落として

どろだらけ

あかがりごんげん ひびごんげん 洗わんげんで きーろつたい

註：あかがり(あかぎれ)

「だるまやど」

だるまごん だるまごん

ねーらみぐつちよ　しましよ
わるたらだめよ
うんとごごつこいしよ

いちかちかーしの実
煮てん焼いてん　くわれんたい

(旧旭地区)

【P51】

どちらがよいか(または、ほんとか)

やまの　だいくさんに

きけは　すぐわかる

註：右か左か、白か黒か二者択一を迫られたときに、その物を交互に指差しながら、さいこの「…る」に当たった方に決める。



河内町での録音風景

くりやあばし

鳥栖市村田町

くいやばしゃとつたばってまだとしゃとらんたん

おしべっとう

同上

おしべっとうこべっとういたかもんなでてくいやい

いっぽでっぼ

鳥栖市田代昌町
白水千香子唄

いっぽでっぼじょりくじよまたくにくくだらず
ののべちゃんのおさんしよ

いっぽでっぼ

鳥栖市儀徳町
広重 泰唄

いっぽでっぼじょろくじよまたくにくくだら
ののべさいのおさんしよ

いっぽたっぼ

佐賀県三養基郡
北茂安町江口

いっぽたっぼじょろくじよまたおにゃくだらん
ののくだっしよ

(以上 望月克己 採譜)

手合せ唄

蔵上町



あ お や ま ご し ょ か ら ひ が し の ほし を み れ ば ね み れ ば ね
 モ ン ノ ソ テ ラ ニ オ サ ヨ サ ン ト カ イ タ カ ネ カ イ タ カ ネ
 お さ よ さ せ さ せ す い い ぎ の く し を ね く し を ね
 ダ レ ニ モ ロ タ カ ゲ ン ジ ロ サ ン ニ モ ロ タ カ ネ モ ロ タ カ ネ
 げ ん じ ろ お と こ は だ て し ゃ で こ ま る ね こ ま る ね
 コ マ ル ダ テ シ ャ ハ ミ ー モ ー チ ト ナ リ マ シ タ ナ リ マ シ タ
 み も ち ゃ い く つ き な な つ き や つ き ね や つ き ね
 ソ コ デ オ サ ヨ サ ン モ ナ ー ミ ー ダ ラ ホ ロ ホ ロ ホ ロ ホ ロ
 お ち る な み だ を な の は に も ん だ か ね も ん だ か ね



ご し ょ ご し ょ い っ け ん き な さ い ち ゃ っ き つ かん じ ゃ の め の か ら か さ き だ い め



し し き で っ ぽ で ご は い め の ち ゃ の で っ ぽ で どん

石なごうた (お手玉)

歳上町 篠原みね唄

こやのうしろでぎいすがないたーなんとゆて

ないたー

げんじろ　さまかじろ　さまか
 タバコ　イッキン　カイナサレ
 たばこ　かおうより　てらまいろ
 テラ　ハドコ　テラホンゴ　テラ
 ほんごの　しのぶ　はよいとこ　ろ
 アサマシド　コロニ　コガ　テケ　タ
 そのこが　ななつ　になる　とき　は
 ギンドウ　ギンチャク　サゲ　サセ　テ
 ぎんどう　ぎんちゃく　いや　なら　ば
 キョウ　ニノ　ボーッ　テ　オブ　コウ　テ
 おまんが　おこし　に　まき　つけ　て
 ソコ　デ　コロ　ダ　ル　ダ　ガ　オ　コ　ソウ
 きつ　ね　や　た　ぬ　き　や　で　て　お　こ　そ
 アン　マリ　ハ　タ　リ　ヤ　テ　キ　イ　フ　ン　ダ
 その　きは　なん　ぼん　十　三　本
 ウ　マ　ヤ　デ　ホ　レ　バ　ウ　マ　ガ　ミ　ル
 ざ　し　きの　お　え　ん　で　ほ　っ　た　れ　ば
 ア　ネ　サン　ノ　キ　モ　ン　ニ　チ　ガ　チ　イ　タ

ちーじゃな　かーった　べんじゃ　った　そ　こ　で

い　っ　か　ん　つ　き　ま　し　た　ー　つ　き　ま　し　た

まりつきうた

鳥栖市蔵上町
井上とよ 唄
望月克己採譜

はずませて

あれ みやれあのふねみやれ あれはなだかきふじかん
よさ ふじかんは どのこのしらえヨーロッパの
イギリステムでぞうせん そうしゃ よくできたしなよく
できたしなのよいほどあたいがたかい おねだんは
いくらでござるか およそいっせんまんえんよさ
いっせんまんえんたかくはあるまい せかいいちのふねじゃ
ものさ そくりよくはじゅはちノット てつのあつさは
いっしゃくごつすんかんちょうは みうらたいさ イギリス
はっしてたいせいよさ ちちゅうかいやースエズのうんが
インドようも ぶじにとうしてじゅがつのさんじゅういち
にちめでたくよこすがつきました 一つきました

子守りうた

蔵上町
篠原みね唄

わ し が か か し や ん な
ま ま か か し や ん ー で ー
い ー し で は か ま ば ん え
と ゆ ー た ー ヨ イ ヨ イ

子守唄

幸津町
陶山聰唄

いたわるように ♩=68
よ い よ い の か め し や ん ー な あ っ ぶ か ち や わ ん で ぶ ぶ の ー ん で
お い し ゃ ん に み せ た り ゃ ー み ず ぶ く ー れ よ い よ い よ い よ い よ い よ ー い よ い

子守り唄

真木町
大石ヤス唄

(イ) 
おどまどまどまどまやんが
いとだ いとだ か いほうも
せにゃな --- らぬ --- いやさのどんどん

(ロ) 
ことしゃこれきりまたらいねん
は --- どこのかまのまえ
--- はうだ --- ろか --- いやさのどんどん

(ハ) 
はなちゃんはなちゃんちてなかせちゃんら
ぬ --- わしがだいじな
--- ままの --- たね --- いやさのどんどん

かすりおり唄

蔵上町
篠原みね唄

やつおさの
 うわおした
 おにふみわけ
 てぬしとふたりわ
 こんがすりこんがす
 りおてうれし
 きのかすりきれてくれ
 るな たてのいとちよイト
 ネ

機織唄

鳥栖市田代町太田
NHK編「日本民謡大観」(九州北部篇)所蔵

♩ = 126
 わたしあなたに ななほれ やほれ ここな
 ほれして とほけが お (ナンノトンカラリン トンカラリン)

田の草とり唄

儀 徳 町
牛島良子 唄

Musical score for 'Ina no Kusakuri Uta' in 2/4 time, key of B-flat major. The score consists of five staves of music with lyrics in Japanese. The lyrics are: こしのいたさよせ / まちのな / が / がつひの / な が さ

石つき唄(3)

三養基郡北茂安町
博 (譜) 筒石賢昭
(唄) 宮原栄八 (録) 福岡

Musical score for 'Ishitsuki Uta (3)' in 2/4 time, key of B-flat major. It includes a '太鼓' (Taiko) part with 'x' marks above the notes. The tempo is marked as ♩ = 42. The lyrics are: アーエきたやま / コリヤ しぐれ / ヤもりくもり / なけれぼやほり / てよこアラソレカラヨイヨイヨイ / ヨイヤサツサツサなけれぼエ / やくもりくもり / もつてこいふてみしあめはふるとも / あなおそろしやこちのかぜくもりサツサツ / てで / ゆくソイカラヨイヨイヨ オイヨイヤサツサツ

櫓こぎ唄 (筑後川舟唄)

三養基郡北茂安町
NHK編「日本民謡大観」(九州北部篇)所載

$J=60$

[ア]ひぜんとの一さまー [ヤー エー] [アー]とどろきどまり [ヤー エー] [ア]

あすのやまいでー [ヤー エー] [エ] ななつだち [ヨイヨイヨ]

【実際の音高】

[ハレオシノ ハレオシノ ゴトン ゴトン] [ア]ひぜんとの一さ

参考文献 (順不同)

- 佐賀県方言辞典 上中下 志津田藤四郎
佐賀の植物方言と民俗 佐賀植物友の会
佐賀弁一万語 福山裕
佐賀の民謡 福岡博
佐賀県の天気とことわざ 早水 逸雲・吉村 寿一
消えていく百姓言葉 原田 角郎
福岡県内方言集 福岡教育会本部(久留米郷土研究会)
博多人情ことわざ百科 江頭 光
古語辞典 久松潜一・佐藤謙三編
方言風土記 すずもと つとむ
自然暦 川口孫次郎
諫早地方方言集 諫早方言の会
鳥栖の民俗 佐々木 哲也
鳥栖史談 鳥栖史談会
鳥栖の方言『栖』 篠原 眞
校註葉隠 栗原 荒野編著
基肄養父方言(私家版) 倉成 平八
佐賀東部方言(私家版) 宇野 得三
筑後方言辞典(第二版) 松田 康夫
対馬南部方言集 柳田 國男編・瀧山 政太郎著
なぞとことわざ 柳田 國男
佐賀豆百科 福岡 博
じょうりゅうじほう 常立寺

万葉歌の世界 荒木 靖生 海鳥社

取材協力者(順不同・敬称略)

大島 俊文

江崎 渉

陶山 聡

福岡 博

藤田 帰一

田中 勝

望月 克己

藤木老人倶楽部

古賀町

原 忠雄

永吉町

久保 励

梶田 武士

佐藤 作一

山本 マチ

緒方 リヨ

緒方 文七

毛利 ヒロノ

前川 亀太

「とすのわらべうた」

田代昌町

白水 千香子

歳上町

井上 とよ(明治25年生)

松隈 きく(明治24年生)

歳上町

篠原 みね(明治27年生)

真木町

大石 ヤス

手島 りん(明治24年生)

儀徳町

広重 泰

儀徳町

牛島 良子

幸津町

豊増 絹代

河内町

天本 リツ

河内町

天本 國子

河内町

村山 キヨ

河内町

村山 ワカ

江島町

寺崎 ヒデ子

江島町

斎藤 キヨノ

幸津町

陶山 聡

東 町

久光 茂代

本文写真・イラスト

篠原 眞

本文イラスト

権藤 由美子

監修者 ^{ふじた}藤田 ^{かつよし}勝良 略歴

昭和33年（1958）9月26日、山口県長門市生まれ。昭和56年（1981）山口大学卒業。昭和60年（1985）東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。同年、東京都立大学人文学部国文科助手。昭和62年（1987）佐賀大学教育学部講師、平成4年（1992）佐賀大学教育学部助教授、平成8年（1996）佐賀大学文化教育学部助教授。

特に、言語と社会文化のつながりに関心があり、呼称や敬語その他の文表現法を中心に研究を進めてきている。佐賀県では、音韻や語彙の研究も行い、最近では談話の分析研究にも意欲を持っている。

著作物に、「呼称と述部待遇表現」（『国語学』、国語学会）、「方向意識の表現に関する基礎的観察」（『日本語論考』、桜楓社）、「<小事典>ふるさとのことば 佐賀県」（『言語』Vol. 32 No. 1、大修館書店）、『東京都言語地図』（分担執筆、東京都教育委員会）、『現代日本語方言大辞典』（分担執筆、明治書院）、『日本のことばシリーズ41 佐賀県のことば』（佐賀県著者、明治書院）などがある。

鳥栖市誌編纂委員会、編集・執筆委員。

編著者 ^{しのはら}篠原 ^{まこと}真 略歴

大正14年（1925）5月18日、旧対馬藩田代領域である鳥栖市藤木町生まれ。母校鳥栖尋常小学校には、旧佐賀藩域から通う級友も多く、佐賀弁にも耳慣れ親しんだ。

父は鳥栖市藤木町、母は基山町出身で、共に基肆養父（きやぶ）者。母校は佐賀弁域の轟木に隣接し、日常用語は、使えないまでも共に理解できる言語域にあった。

私は農家の長男に出生、周辺に純農村が多く、収集の語いは私が育った昭和初年の農業中心となっている。

昭和28年（1953）から約25年間、鳥栖市役所に勤め、その間、主として広報と市史編纂（第1次）を担当。傍ら、昭和40年（1965）代から方言・わらべうたなどを採集。

昭和54年（1979）退職後、『写真集鳥栖』（国書刊行会）、写真集『鳥栖・三養基・神埼の百年』（郷土研究社）、『佐賀の文学』（分担執筆、新郷土刊行協会）を編著。昭和54年から同人雑誌『^{もち}柎の木』編集、同57年から郷土雑誌『^{すみか}栖』の編集にたずさわり、現在、鳥栖郷土研究会主宰。

鳥栖市誌編纂委員会、編集・執筆委員。

逆引き索引

凡例

- ・標準語→方言[掲載頁]の順
- ・(佐)は佐賀弁
- ・表記のない物はキヤブ弁か、佐賀弁の共通語

【あ】

- ああだこうだ→そのこのの 35
相討ち→どうち 40、(佐)ぎょん 25
あいさつまわり→かどざるき 23
愛人→しゃんす 31
間→あいなか 15、(佐)やーなか 52
相手になる→うてあう 19
曖昧→しれんごれん 32
愛らしい→こやらしか 28、(佐)やーらしか 52
和え物→あいもん 15、およごし 15
青々→(佐)あおたれ 15
青い蟹→(佐)あおつうがい 15
青黒い→あおじゅむ 15、すぐろじむ 15
青ざめる→いろまっさお 18
アオダイショウ→えーぐちなわ 19
あおっぱな→ごんぞばな 29
あおむく→おーなく 20
青藻→うみどろ 19
あかがり→あかぎれ 15
赤子→やや 53
上がり口→あかいくち 15
明るい→あかい 15
あかんべー→あかちよこべ 15
秋口の冷え→すたくもんおとし 33
飽き性→しりやけどー 32
あきない→あきにやー 15
アキノウナギツカミ→びきのつらかき 46
悪行→わるかこつ 55
あくしば→ひさかき 46
悪友→(佐)わるなか 55
悪友に染まる→(佐)どしぐされ 41
挙げ句の果て→あげきのさんばち 15
あご→あぎ 15
朝方→あさがちや 15
朝早く→あさんよる 15
鮮やかに→すつきらつと 33
アジサイ→てまりこ 39
明日→あしちや 15
明日あたり→(佐)あしちやさみやー 15
脚高桶→(佐)こがえ 27
足場木→みちぎ 50
脚半→(佐)こうがけ 27
あしらう→あしりやー 15
味わいよく→あんじらつと 16
畦いじり→畦せせり 15
汗っかき→あせごいか 15
あせび→よしみ 54
あせも→あせこ 15
あそこ→あっこ 16
あそこあたり→あっこんたい 16
あそこへ→あすけ 15
遊び道具→あすんもん 15
遊ぶ→あすぶ 15
頭→ずくにゅー 33、(佐)かんびゅう 23
頭が重い病気→(佐)ちけ 37
頭が鈍る→(佐)とちるる 41
頭のおでき→(佐)とっこす 41
頭のとっぺん→あたまんこつっん 15
頭の鈍い人→(佐)どんつう 41
新しがり屋→わさもんぐい 55
暑い→ぬっか 43
圧巻→かんがんと 23
暑苦しい→ぬくだやしか 43
あっさりした人→(佐)さばさばとある 29
厚ぼったい→ごぶてらしか 28
集まる→(佐)まっかくる 50
誂え向き→がっふい 23
当てが外れる→(佐)てれいする 39
あてずっぽう→おーまん 20
後追い→あとえー 16
穴→あなんぼん 16
侮る→(佐)あなずる 16
穴を開ける→ほがす 49
兄→あんちゃん 16、(佐)あんじゃいもん 16
姉→あねさ 16、(佐)あねご 16
あの手この手→(佐)しっくいもつくい 30
あのね→あんくさい 16、こらい 28
あの人→(佐)あのわいさん 16
あの人達→(佐)あのしっさん 16
あばた→せんきゅ 34
暴れる→ぶぐるる 48、(佐)たぐらう 36
油粕→すて 33
アブラセミ→くまんちよ 26
油っぽい→ぎとぎと 24
アブラナ→からしな 23
アブラメ→やんめ 53
溢れる→あばれこぼれ 16、すするる 33、(佐)いっぴやーさっぴやー 18
あべこべ→あっちゃこし 16、しっちゃこし 30
あほ→あんぼんたん 16
あまいこと→ぬっかこつ 43
網で捕る→(佐)まくる 50
飴→じゅるあめ 32、(佐)あんちよ 16
アメ玉→たま 36
あやふや→あやわしか 16
過ち→やーまち 52
鮎→あい 15
歩む→あゆぶ 16
あらかたの計算→めのこさんによー 51
荒っぽい→あらましか 16
蟻→すがい 33
ありがとう→おおきに 20
歩く→さるく 30
あるだけ→(佐)あいぎい 15
あれ(彼・彼女)→あい 15
荒れた→ありやた 16
あれだから→あいじゃけ 15

あれ達→あつどん 16
あわせ→どんぎん 41
哀れ→(佐)あわれしおれ 16
安産→(佐)いたぐらみ 17
暗中模索→(佐)さぐいほぐい 29
あんなに→あぎゃん 15
あんな人→あぎゃなひと 15
【い】
いいえ→いんにゃ 18
いい気になって→(佐)よかとめかやって 53
言いたくない→いいたむなな 16
良いだけ→よかしこ 53
言いつける→とつくる 41
言いつけを守らぬ→(佐)いいでのきけん 16
家→(佐)えのち 19
家の中捜し→こさがし 27
鑄掛屋→すーぼーどん 33、(佐)ぶーすーたんご 47
行かせる→いかする 17
厳めしく→こわるしか 29、(佐)いんがいと 18
行きたくない→いこうごつなな 17
息も絶えだえ→へっぺさっぺ 48
行く→いたちくう 17
意見がまとまらぬ→(佐)われわれ 55
いざる→えざい 19
石工→いしや 17
いじめる→こなす 28、(佐)つくむる 38
医者→いしゃどん 17
異常な動き→めったかせぎ 51
いじる→くじる 25
意地悪→いとしか 18、(佐)にくじゅ 42
以前→しよて 32
急いで→ごーごつ 27
居候→(佐)いりゅーと 18
忙しい→ひまなし 47、(佐)ことうーか 28
痛がる→(佐)いたがんさる 17
痛くも痒くもない→いとんかゆんなか 18

いたすら→わやく 55
いたすらっ子→わるさぼーず 55
いたたまれない→しりこそばいか 32
板の間→いたんま 17
イチイガシ→いっち 17
イチジク→いっづき 18
一代病→(佐)いちじゃーあんみゃー 17
一度に→いっぺんたくり 18
一日おき→ひーしてごし 46
一日中→ひーして 46
いちやいちや→にच्याにच्या 42
一気に→(佐)ひとせんに 46
一昨日→おとて 21
一昨晚→きのんばん 24
一食分→ひとかたげ 46
一層→いっだん 17
行ったかな→いったじゃれ 17
一反田→いったんでゃー 17
一張羅→いっちょべら 17
言って聞かせる→ゆーちきかす 53
いつでも→いつでん 18、(佐)ねんちゅうさんぼう 44
いっばい→だんわい 36
一服→ひときせる 46
いつも→いつもかつも 17、(佐)ごっとい 28、とーし 40
いなう→(佐)のす 44
田舎→じゃーご 31
イナゴ→ぎっちゃんちよん 24
稲妻→ひかりもん 46
犬→いん 18
犬ツゲ→いんつげ 18
稲こぎ→いねこぎ 18
稲麦を結ぶ→てゆう 39
稲むら→いねこづみ 18
稲わらの根元→(佐)しびわら 31
いのごづち→もんびれ 52
位はい→(佐)おひやさん 21
威張る→はばやる 45
異表者→いひゅーもん 18
今時分→いまの 18
今に→いんま 18

妹→いもと 18
芋の煮こごり→いもんこぐり 18
イモリ→いもりゃ 18
卑しい→やしか 52
嫌と言うほど→きやすちゅーごつ 24、(佐)おもうさんばち 21
嫌なこと→いやらしか 18
いらっしやる→ござる 27、(佐)おいなる 20
慰労会→しみゃーいゃー 31
囲炉裏→いるい 18
いん石→てんぴ 40
【う】
飢える→かつれる 23
上を向く→おーなく 20
ウオノメ→いおんめ 16
穿つ→ほがす 49
浮く→うかる 19
受け持ち番→てーすまゑ 39
受け物→すけもん 33
受ける→すける 33
動かぬ→ぎすとんせん 24、(佐)いきずわる 17
動く→いごく 17
薄味→しおあまか 30
うすくまる→つくばむ 38
薄暗い→うどぐらか 19
薄める→うむる・ぬべる 19
薄ら寒い→(佐)すうすうとある 33
嘘→すらごつ 34
内皮→あだがわ 15
うち捨てる→ほーかる 49
うっかり→(佐)うっかいひょん 19
美しい→(佐)つくしか 38
俯く→くるぶく 26
うつらうつら→あつくいこつくい 16
器→つき 38
器を倒す→ばちがやす 45
うど→しか 30
鵜呑み→ぐのみ 26、(佐)かってんぐるみ 22
奪い合う→ばかう 44、てんどりぼーどり 40
馬の蹄打ち→かなぐつや 23

埋まる→いかる 17
うめく→おめく 21
埋め火→いけび 17、(佐)ひげぎ
46
うやむや→しれんごれん 32
うようよ→かんもかんも 24
裏ごし→しいの 30
占い師→まじにゃーどん 50
うらなり→かがりあげ 22
うるさい→せからしか 34、(佐)
やぐらしか 52
うるち米→うるし 19
うろたえる→おろたゆる 21
うろつく→(佐)そ一つく 35
うんともすんとも→すつとんこつ
とん 33
運搬具の一種→ぶり 48

【え】

液状の飴→じゆるあめ 32
えぐい→えんか 20
えぐる→いぐる 17
エノキダケ→(佐)えんのみ 20
エノコログサ→いんころころ 18
エビ→えびんちよ 19
恵比寿→えべす 19
えらく→いさぎゅう 17
襟際→おくび 20
縁台→ばんこ 45
エンドウ→えんずう 20
煙突→けふいだし 26
鉛筆→(佐)もくひつ 52
遠慮→ねこじんしゃく 43

【お】

甥→(佐)うええじょう 19
追いかける→えーたくる 19
追銭→(佐)うえーうつ 19
おいそれと→さつとゆーて 29
追い散らす→えーちらかす 19
追いはぎ→(佐)やまだち 53
雄牛→こつてうし 28
横着→おーどか 20
嘔吐→あぐる 15、(佐)たばき 36
往復→いきもどり 17、のんぼりくん
だり 44
大汗→(佐)あせしらかわ 15

大桶→だうす 35
大かまど→(佐)うーかまさん 18
大きすぎ→あばあば 16
大きな→ごーほな 27
おおごと→うーごつ 18
大雑把→うーまんか 19
大勢→(佐)どやおし 41
オオバコ→おばこ 21
大晦日→つごんばん 38
オオヨシキリ→ぎょうぎょうし 25
お母さん→おっかしゃん 21、(佐)
かかさ 22
おが脣→のこくず 44
おかず→しゃー 31
お金をくすす→わる 55
雪花菜(おから)→とーふのはな
40
置き去り→うっちよく 19
屋外→のぼつきゃあ 44
奥さん→おごさ 20
憶測→かまげる 23
臆病→ひけしか 46
オクラ→はたけれんこん 45
桶職人→(佐)おけたん 20
怒りっばい→(佐)いとしか 18
怒りっばい人→はらかきべつとう
45
怒る→はらかく 45
おこわ→こわい 29
お産→(佐)よろこび 54
伯(叔)父→おっちゃん 21、(佐)
おんじさん 21
押し合う→(佐)づきあう 38
押入→おしこみ 20
押し込む→おしこくる 20、(佐)こ
つこむ 28
押し倒す→おしころばかす 20
おしめ→しめし 31
お喋り→ちゃんぽんふく 37
雄→おんちよ 22
おすおす→えずえず 19
お節介→(佐)しゃいびゃーずく
31
恐ろしい→えずい 19
お大師様→おたいっさー 20

おたふく風邪→ふーばれ 48
オタマジャクシ→びっころ 46
落ちかかる→(佐)すだれかかる
33
落ちぶれた人→(佐)なぐれもん
42
落ち穂→(佐)けた 26
落ちる→あゆる 16、(佐)ちよーち
る 37
おっくう→ふゆうか 48
おっしゃる→いいなざる 16
おでき→でけもん 39
お手玉→いしなご 17、(佐)ひーり
んちよ 46
お転婆→おちゃっぴー 21
お父さん→おとっちゃん 21、(佐)
ちゃん 37
弟→おとと 21、(佐)しゃてー 31
おどける→とごえる 40
男→おとこし 21
男結び→からむすび 23
音沙汰なし→おとんことんなか
21
音だけの雷→からがみなり 23
大人→おせ 20
おとなしい顔→(佐)ぼじゃつとし
て 49
音無しの屁→すかしべ 33
驚く→(佐)めんたまといはじいて
51
おなか→ぼんぼん 50
同じ事→おにやしこつ 21
同じ歳→おにやどし 21
鬼ごっこ→おんなご 22
斧→(佐)よき 53
伯(叔)母→おばしゃん 21、(佐)
ばつきーさん 45
おばあちゃん→ばーちゃん 44、
(佐)ばーさい 44
お歯黒→かねつけ 23
おひつ→ままつぎ 50
お仏飯→(佐)おぶくさん 21
おべっか→みゃーす 51
お前→わが 54、おまい 21
重い→おぶか 21

思いがけず→ひょっこい 47
思い切つて→(佐)ほきほきと 49
思い切り→ほくそん 49、(佐)てし
でしと 39
思い切る→(佐)きもききる 24
思い込む→(佐)おめーいる 21
思いもよらぬ→おめーんなか 21
重り→おもし 21
重みがない→(佐)すとんぴん 33
重湯→ままんゆ 50
おや?→おりよ 21
おやつ→ちゃのこ 37
泳ぐ→(佐)おようではしる 21
居られる→おんなさる 22、(佐)お
いなる 20
折り返し→(佐)ずんぐいかえし 34
お利口さん→よからか 53
俺→おり 20
俺達→おいどん 20
温石→ぬくめいし 43
女の初交合→(佐)さらわい 30
女の人達→おなごし 21
女の二人行動→どしなげき 41
女奉行人→あねどん 16
女結び→ひきほつき 46
【か】
蛾→(佐)ひいろろうろ 46
階段→はしごんだん 45
カイツブリ→きゃーつぐろ 24
開放→かいかいと 22
懐炳→(佐)つくらひばこ 38
返す→かやす 23
カエル→びき 46
顔かたち→つらよー 39
顔の腫れ→すかばれ 33
踵→きびしゃ 24
踵の泥→あとびき 16
屈む→かごむ 22
牡蛎→うちがき 19、(佐)せっか
34
搔き傷→(佐)かきさく 22
搔き出す→かすくいだす 22
書き殴る→かきちらかす 22
かき混ぜる→きゃーまぜる 25、
(佐)ごんだんまぜ 29

嗅ぐ→きく 24
角打ち→(佐)かくち 22
蚊くすべ→かふすべ 23
駆けっこ→はしりぐっちょ 45
かけや→しゃーづち 31
かご→てぼ 39
カササギ→かちがらす 22
かさのできた人→(佐)かさほけ
22
かさ張る→(佐)ばばしか 45
かさぶた→つー 38
かじかむ→こしける 27
賢い→さかしか 29
果実が自然に割れる→(佐)ほしく
る 49
果実もぎ→はさみぐち 45
かじる→こぶる 28
風邪→(佐)ぎゃーけ 24
数える→かずねる 22
片足跳び→すつけんぎょ 33
堅い小豆→(佐)いしあずき 17
堅いもち→こわもち 29
堅苦しい→こわるしか 29
肩車→どんがらがっちゃん 41
形の良い→(佐)すじょうのよか 33
片づける→(佐)そうだくる 35
片方→かたつぽ 22
花壇→はなつぽ 45
がっかり→ぐらい 26
担ぐ→かたげる 22
がっくり→(佐)がっぱい 23
買った→(佐)ちーこーた 37
がちりした→(佐)でくっとして
39
勝手に→(佐)てぐるみ 39
勝てぬ→かちやきらん 22
合点がいかぬ→ぶきゅーする 48
かなりの間→よかはぎ 53
敵わぬ→のさん 44
蟹→がい 22
加入拒否→かてん 23、(佐)かっ
ちえん 23
金に困る→さしつかえ 29
カボチャ→ぼーぶら 49
釜→はがま 44

構うな→(佐)かんめんさんな 24
構うものか→どーわるきや 40、
(佐)かんまん 24
ガマガエル→わくど 55
カマキリ→おがみだぶつ 20
カマス(魚)→かまぎ 23
カマツカ→こもつか 28
カマド→へっちさん 48
髪→かんげ 23
髪飾り→(佐)ちんころ 37
神に供える新米飯→(佐)ごっくう
さん 28
がむしゃら→(佐)やれくもいき 53
糞→うんすけ 19
粥→かい 22
から(空)→からつぽ 23
からかう→たてがう 36
カラスウリ→くそごーり 25
ガラス瓶→びーどろ 46
体→ごちゃー 28
カラタチ→げずのき 26
からむし→らみー 54
かりかり→こりこり 28
借りる→かる 23
刈る→かがる 22
軽い→かるか 23
かれこれ→(佐)とそこそ 41
枯れる→つつかれる 38
可愛い→こやらしか 28、(佐)む
ぞうか 28
可愛がる→むじよがる 51
カワウソ→かわそう 23
川蟹→やまたろがん(佐)やまたら
がい 53
乾く→(佐)こうくる 27
皮ごと→かわぐるみ 23
川底に足がつく→(佐)たけとぶ
36
カワニナ→ごうひな 27
考え違い→りよーけんそこにやー
54
関係する→(佐)けつらう 26
がんじょう→(佐)がんちゃーか
23
間食→ちゃのこ 37、(佐)はぎぎい

45
乾燥不足→ひめんぬるか 47
簡単→ちょうい 37
神主→じゃーくじ 31
肝斑→こっけ 28
看病→(佐)きゃーびょー 25
眼病の人→めちやさば 51
疳虫→むしのおこる 51
【き】
黄色→きーなか 24
消える→つつきえる 38
消えろ→(佐)うせろ 19
記憶力→(佐)おぼえしよーこん 21
気後れ→ばしけ 45
ギギ(魚)→ぎぎゅーた 24
効く→きける 24
キクラゲ→(佐)みみなば 51
木こり→おがどん 20
ギザギザ→がんぎ 23
きさこ→ねこぎゃー 43
岸→(佐)がんば 23
生繻子→きじよす 24
傷だらけ→きずばたくい 24
傷の悪化→あばける 16
傷物→(佐)にわいもん 43
煙管(キセル)→とんこつ 41
汚い→うらめしか 19、(佐)きたん
ぶらしか 24
きちがい→(佐)かんしょう 23
気遣い→(佐)おめーおんまく 21
ぎっくり腰→そろける 35
きっちり→ぎちぎち 24、(佐)つい
いっぴゃー 38
狐→やこ 52
きっぱりと→(佐)わっさいと 55
木戸→きんど 25
気取る→けんしきとる 27
きな粉→きご 24
来なさい→こらし 28、(佐)きんさ
い 25
絹→きん 25
キノコ→(佐)かんすけ 23
木箱(食べ物の容器)→もろふた
52
気前→(佐)きさきさ 24

気味が悪い→(佐)よそわしか 54
肝試し→(佐)ひーだますえ 46
気持ち→きしよく 24
着物→べべ 49
客間→ごんぜん 29
気安くない→(佐)しちむつかしか
30
脚半→(佐)こうがけ 27
キヤブ者→きやぶつう 25
きやら柿→(佐)ちやうがき 37
灸→やいと 52
急ごしらえ→あただもん 15
給仕人→(佐)おかえにん 20
急須→(佐)きびしよ 24
急に→あただ 15
急には→(佐)ちよつこいにか 37
急に止む→すたつとする 33
牛馬の飼料→はみ 45
牛馬の飲み水→だのみず 36
きゅう肥→まやんこえ 50
今日→きゅー 25
仰々しい→ぎゅーらしか 25
狂犬病の犬→はしかいん 45
凶作→(佐)そうもう 35
兄弟→きよーじゃー 25
共同→もや 52
共同作業→くやく 26
共同風呂→もやぶろ 52
器用な人→(佐)てしやーにん 39
許可→(佐)てんなう 40
曲芸→どーぐら 40
漁具の一種→はぜ 45
キョロキョロ→きよろんきよろん 25
気弱→ひーのよわか 46
ギリギリ→はつはつ 45
キリキリと→しよじよと 32
きりきり舞い→ぎんだらみゃー
25
霧雨→(佐)ねこんけあめ 43
義理知らず→(佐)ねこばかぼう
ず 43
切りつめた→(佐)かっちりかん 22
きりのない飲酒→ねばさけ 44
切り干し→かんころ 23
気力の衰え→(佐)ずったいする

33
切れ味が鈍る→ねぶれる 44
きれい好き→きんぱんじゃ 25
際→(佐)きんば 25
気を取られる→おべつかん 21
気をもむ→(佐)あがきたがき 15
近間隔→(佐)めぜきい 51
近所→うちんにき 19、(佐)わきへ
ら 55
銀杏→ぎなん 24

【く】

具合が悪い→あんびゃーのわるか
16
具合良く→よかんびゃー 16
杭→だんぎ 36
食いしん坊→やしぼ 52
食い散らす→きーちらかす 24
食いつく→きーつく 24
クイナ→(佐)たにわとり 36
食食物→きーもん 24
括る→きびる 24
楔(くさび)→せーべ 34
腐る→いたむ 17、ねまる 44
くしゃみ→はくせん 45
くすぐる→こちよぐる 28
くず米→くだけ 26
崩す→こっくやす 28
くすぶる→すぼる 34、(佐)ふせ
ぶる 48
くずる→(佐)げせる 26
崩れる→くゆる 26
糞→あぼ 16、(佐)によつきん 43
砕く→みじやく 50、なでる 42
ください→くれんな 26、(佐)くい
てくんさい 25
くだを巻く→くだまく 26
口答え→くちへんじ 26
口に箸を入れて食べさせる→
(佐)めめてくわす 51
唇の変色→つばいろうしなう 38
口笛→うそ 19
ぐったり→(佐)ぐっちゃい 26
くつつく→ひつつく 46、こーぱりつ
く 27
ぐっと→ぐーすと 25

くどい→くどらしか 26、そくしゃか
35
供日→くんち 26
ぐにやぐにやと→くにゃつと 26
クヌギ→(佐)くのき 26
工夫→(佐)してんにてん 31
くべる→くふる 26
窪地→ひくたん 46
クマゼミ→わしわし 55
汲み出す→(佐)くいだす 25
蜘蛛→こぶ 28
蜘蛛の巣→(佐)こぶのえ 28
暗い所→くらすみ 26
栗→くい 25
繰り合わせ→まんぐり 50
栗の箸→くいやーばし 25
ぐるぐる巻き→ぎんだらまき 25
ぐるっと→ぐるりぐつと 26
呉れる→くるる 26
黒すむ→(佐)つくろじむ 38
クワイ→ヒーばち 31
加える→かてる 23

【け】

計算→さんによ 30
計量→かくる 22
痙攣→きよーほ 25
怪我→やーまち 52
消す→きやす 24
削る→へずる 48
下駄の緒をたてる→すげる 33
けち→こすか 28
結婚式→しゅうぎ 31
外道者→げどされ 26
下品な→げさっか 26
毛虫→いらせ 18
煙たい→けふか 26
下痢→たれかふる 36、(佐)じょう
じょうくだす 32
蹴り倒す→(佐)けーばちがやす
26
元気がない→(佐)しゅーんとなる
32
ゲンゴロウの幼虫→(佐)たびらく
ち 36
げんなり→どっへり 41

原木→(佐)にぶ 42
玄米→くろごめ 26
儉約→かんじょう 23
【こ】
来い→けー 26
鯉の子→なめり 42
合格→うかる 19
格子風の窓→さまんこ 29
高熱→(佐)かつかつ 22
香ばしい→かばしか 23
交尾→つがる 38
こうもり傘→(佐)こうふいがさ 27
肛門→しんのす 32
声→のうず 44
肥桶→たごけ 36
小枝→びやーら 47
声つくり→こわづくれ 29
小桶→つがえ 38
小型の斧→(佐)よき 53
小形の栗→ささぐり 29
コガネムシ→(佐)かねふうふう
23
ご機嫌取り→えしゃく 19
ゴギブリ→ごつかぶり 28
呼吸困難→(佐)いきばかう 17
国有林の監視員→やまかんいん
53
焦げ(飯)→(佐)とじ 40
焦げつく→こがるる 27
午後→ひりから 47
小言→こうじょ 27
心づもり→(佐)おめえがた 21
御座います→(佐)ござんする 27
小作米→よまい 54
こじき→はっち 45、(佐)ぜんもん
45
腰巻き→きやふ 25
こじらす→こじらかす 28
腰を据える→(佐)どっこいごし 41
こじんまり→(佐)ちっくらつと 37
擦りつける→にしくる 42
午前→ひりまえ 47
午前中→(佐)あさおろし 15
こそぐ→こさぐ 27
五体→ごちゃー 28

ご馳走→ごつおー 28
ごっそり→もとおけぐるみ 52
ごっそりと→こそつと 28
ごった煮→がめに 23
こっちに来い→こっちけー 28
骨軟症→(佐)なえぼう 42
子ども→ちんかもん 37
こともあろうに→(佐)いくらんこと
もあるばって 17
小鳥→(佐)しとと 31
粉みじん→(佐)こくしょうこうばし
27
粉をふるう→はたす 45
この限り→(佐)こんどのきり 29
この人達→こいどん 27
小バエ→(佐)しょうじょうびやー 32
小鼻→(佐)はななぶら 45
コバノガバズミ→やまなし 53
こびり付く→こうばりつく 27
瘤→たんこぶ 36
小袋→こんつみ 29
古物店→(佐)ふるかんだな 48
ゴボウ→ごんぼ 29
こぼす→ひっこぼす 46
誤魔化す→ちよろまかす 37、いれ
くる 18、こすくる 28
こまごま→こごこご 27
ゴミ→ごもくぞ 28
混み合う→(佐)せきせばい 34
小麦粉→ごろしご 28
米搗き用のきね→なでぎね 42
米ぬか→さくず 29、てのこ 39
ごめん→かんにん 23
ごめんください→もーし 51
五目飯→まぜめし 50
子守女→こもりじょ 28
子守着→がめんこ 23、ねんねこ
44
コラ!→こりゃ 28
堪える→こらゆる 28
懲りる→(佐)こいはつる 27
凝る→こわる 29
これ→こい 27
これ以上→もーにや 52
これだけ→こぎゃしこ 27

コレラ→とんころりん 41
転ぶ→さでくいころぶ 29、こっけ
んころい 28
壊れる→そずる 35
混雑→(佐)どいやがっしゃ 40
根性がない→しょうねのなか 32
今度から→またから 50
こんなざま→こぎゃんかかり 27
こんなに→ぎゃん 25
こんなにたくさん→(佐)こいしこ
んしころ 27
今夜→こんにゃ 29
紺屋→くうや 25
婚約→かため 22
婚礼菓子→(佐)すかじゃー 33
【さ】
最後→(佐)しゃーはて 31
在郷→(佐)じゅーご 31
咲いている→しゃーとる 31
財布→(佐)さんとく 30
さえ→しゃか 31
竿→(佐)ならし 42
逆さま→さかせ 29
探す→あだくる 15、(佐)たんぞく
36
魚→いお 16、(佐)さんじ 30
下がり眉→しょんだれみゃー 32
下がる→ひざる 46
左官→しゃかん 31
一昨日→さきおとて 29
詐欺師→(佐)おげ 20
先程→さいぜん 29
ザクロ→じゃくろ 31
酒のかんつけ→(佐)ゆねり 53
叫ぶ→おらぶ 21、おめく 21、(佐)
ひのおらび 46
ささげ→ささぎ 29
ささら→そうら 35
刺さる→ぬかる 43
散使(さじ)→しゃーじどん 31
さしこむ→せんしゃくのわるか 34
差し出す→さいだす 29
挫折→(佐)こしおる 27
さぞ→いくらか 17
さっきから→ぜんから 34

さっさと→さつさつ 29
サツマイモ→といも 40
里帰り→あるき 16
さばける→さばくる 29
寂しい→とじよんなか 41
サボテン→(佐)つついも 38
ザボン→(佐)しゃぼわん 31
様→しゃん 31
寒い→さぶか 29
寒がりや→ふゆぼー 48、(佐)ひ
やひやこーず 47
さようなら→(佐)すんときゃー 34
さらりと→さらめく 29
去る→はってく 45
サルスベリ→こちょこちょのき 28
サルトリイバラの葉→いげんは
17
されこうべ→(佐)しゃいこーべ
31
騒ぎ出す→(佐)ごうぞうずく 27
さわしがき→あおしがき 15
三差路→みつつぎゃー 50
三等分→(佐)さんちんわい 30
三人兄弟の真ん中→まんなか
50、(佐)なかつちよ 42
残念→きちーこっ 24
【し】
明々後日→しりあさって 32
シーソー→ぎっこんばったん 24
粧(しいな)→しいら 30
塩辛声→しわがれごえ 32
塩物→ひとしおもん 46
仕方なしに→(佐)ふゆうぶゆうと
48
地下足袋→はだしたび 45、じきた
び 30
しがみつく→しがまいつく 30
叱られる→がらるる 23
叱る→おごる 20
時間・暇→はざ 45
シキミ→はなしば 45
しきりに→やっさ 52
敷く→ひく 46
じくじく→じゅくじゅく 32
しくしく痛い→くじくじする 25

刺激する味→やらやら 53
茂る→しこる 30
試験に落ちる→はねられる 45
地声→(佐)けしにゃーごえ 26
しごく→すごく 33
しこしこ→しこんしこん 30
仕事→(佐)ほどき 49
シジミ→すずめぎゃー 33
沈む→ひずむ 46
自然→じねんと 31
死蔵→(佐)ねせもん 43
舌→べろ 49
シダ→(佐)すだもうもう 33
次第に→ただむね 36
舌打ち→ぎいすなき 24
支度→はまる 45
親しい→ちこちこ 37
下火→(佐)さずむ 29
したろう→しつろ 31
下を向く→うつぶく 19
じっくり→しみじみ 32
しつこい→しちこい 30
知っているよ→しとるくさい 30
湿田→じゆるけだ 32
嫉妬→りんき 54、(佐)ふーきゃー
47
じっと→よーら 53、(佐)じーしとる
30
しておいて→(佐)してえて 31
しておられる→(佐)しないおる 31
してください→(佐)しっくんさい
30
してごらん→してんな 31、(佐)て
んやい 31
しとしと→しとんしとん 31
し直す→しなかつ 31
しなくても良いこと→(佐)せです
むこっ 34
しなびる→(佐)じんない 32
しなる→ひおひお 46
死ぬ→しまえる 31
地主と、小作農民の仲介役→や
かしろ 52
しばしば→ちよちよつ 37
しばらく→いっとき 18

痺れ→しぎん 30
ジフテリア→(佐)はしふ 45
自分→(佐)わがまた 54
自分の分→わがまえ 54
しまう→なわす 42
しまった!→あいた 15、(佐)といく
いしもうた 40
仕舞っておく→(佐)たぼーとく 36
始末の悪い→さーだらばーだら
29
シマヘビ→(佐)こうらはち 27
自慢話→たいへいらく 35
しみる→しゅむ 32
し向ける→しかくる 30
湿って歯切れが悪い→(佐)しわ
つく 32
湿る→しとる 31
地面→じだ 30
地面に座る→どんずわる 41
下肥→やしにゃー 52
地元→ちげ 37
しゃがむ→しゃごむ 31、(佐)ちよっ
かごーで 37
シャクナゲ→しゃくなんぞ 31
謝罪→(佐)ことわい 28
シャシャンボ→みそつちよのき 50
遮二無二→しゃりむり 31
喋る→しゃべくる 31
邪魔する→じゃまくる 31
しゃもじ→しゃくし 31
手淫→せんずい 34
獣医→はくらくどん 44
集会→よるごつ 54
集金人→やくれとり 52
終始→いちからじゅうまで 17
終日→いっちんち 18、いつもかつ
も 18
住職の妻→ぼーもり 49
執念深い→しょうねぐるしか 32、
(佐)しゅーねつか 32
十分な湿り→(佐)じゅつくらつと 32
収容できる→あばく 16
熟柿→じくし 30
じゅくじゅく→じくじく 30
出発→(佐)うったち 19

出費→ぜんほとき 34
出費多端→ぜんのごろごろいる
34
襦袢→じばん 31
棕櫚(しゅろ)→しよろ 32
春菊→しんぎく 32
しゅんとなる→じゅつとなる 32
上気→のぼせる 44、きあがり 24
蒸気→ほけ 49
上級→うわんたん 19
正気を失う→どまぐれる 41
焼香→(佐)しゅうこう 31
招待→(佐)もうしうくる 51
冗談→ぞうたん 35
冗談が本気→(佐)みのづる 50
しようと思って→(佐)でつのこつ
39
使用人部屋→ぜんぞー 34
じょうびたき→もんつきどり 52
娼婦→(佐)のすかい 44
情婦→しゃんす 31
小便所→しよーべんたこ 32
静脈→すじ 33
小面積の田→せまち 34
醤油→(佐)しゅうい 32
浄瑠璃→(佐)じょうろい 32
ショウロウトンボ→しよーろへんぶ
32
食事時→じぶんどき 31、ごぜんど
き 28
食用になる雑草→(佐)のめいひよ
う 44
食欲旺盛→(佐)ごいごい 27
しよげる→しける 30
助産婦→そぜんぼ 35
女性器→ちんちん 38
暑中→(佐)なつごんき 42
食器を投げる→(佐)なげごき 42
知らせる→ふれる 48
シラミ→(佐)ごつて 28
尻→しりかぶら 32
尻込み→しりくらべ 32
汁→しゅる 32
シワが寄る→たたくれる 36
シワだらけ→(佐)しわじゅーじゅ

ー 32
ジンチョウゲ→(佐)りんちよーじ
54
新品→まっさら 50、さらもん 29
辛抱→しんぼう 32
親類→おやこ 21
【す】
酸い→(佐)しいか 30
水泳→みずあぶり 50
水車業→くるまや 26
吸い出す→しーだす 30
水田の小鮒→たふな 36
スイバ→げしげし 26
吸い物→しいもん 30
吸う→すわぶる 34
図体→ずーちやー 33
末っ子→すそご 33、(佐)すえこ
33
すかされる→すかたんくらう 33
姿を見せない→ちーんみらん
37、(佐)びろつとでんせん 47
ズキズキ→ずつきんずつきん 33
隙間風→(佐)すめく 34
ズキン→ずつきん 33
すぐ→ごそつと 28、いつき 17
すけすけ→ずけんずけん 33
少し→ちかつと 37、(佐)ちよびつ
と 37
少しの時間→いっときにとき 18、
(佐)ちよいころい 37
少し前→いまさき 18
素五体→すごちやー 33
筋を痛める→(佐)すろうで 34
スズメノテッポウ→こうび 27
すっからかん→(佐)すてんぼん
34
酸っぱい→すーいか 33
スッポンポン→うっぽんぽん 19、
(佐)すっべらぼん 34
捨てる→ほーかる 49、(佐)うしつ
る 19
砂→ずな 34
素直でない→ずくにゆんよごどつ
33
拗ねる→ずくねる 33

すばしこい→(佐)いさっか 17
すぶ濡れ→ぬれしよばたれて 43、
(佐)じっくい 30
滑って転ぶ→(佐)ぬめくいたわす
43
全て→みんながっしや 51、(佐)す
っぱい 33
滑る→すべくる 34
澄まし汁→すめ 34
相撲→(佐)どっちよい 41
スモモ→はらんきゅう 45
素焼き→こーさい 27
素焼きの器→ちゃいろかし 37
素焼きの鍋→(佐)ゆきひら 53
素焼きの物炒り→(佐)もねえ 52
ずり上がる→(佐)ずすくいあがる
33
すりこぎ→りゅーぎ 54
ずり下がる→ずんだれる 34
擦りつける→すいこすい 33
ずるい人→こすつぽ 28
ズルズル延ばす→ずるずるべった
い 34
すれ違つて→(佐)いきすいごーて
17
座り込む→(佐)ときずわる 40
ずんぐりと→ずくつと 33
済んだ後→すんだあがり 34
【せ】
正確→かったり 22
請求書→かきぬき 22
性交→ぼんちよ 49、(佐)ちよんち
よん 37
精出す→がまだす 23、(佐)はい
こむ 44
成長期→(佐)ふといだち 48
せいにする→せえかくる 34
性の快感→きのいく 24
精米→しらげる 32、(佐)はがす
32
背負う→からう 23
せがむ→あせがる 15
堰落とし→いでおとし 18
急き立てる→(佐)やぎいたつる
52

石炭→なまいし 42
赤飯→こわい 29、(佐)せっかん
34
赤面→あかづらまっきや 15
石油缶→せきたんがん 34
セキレイ→いしたたき 17
せせり→せせい 34
世帯→せじよー 34
背丈→ほど 49
背中→こーぶ 27、(佐)こうぼう 27
背中合わせに背負う→(佐)かん
のんさんがりやー 23
銭→ぜん 34
是非→どーでん 40
狭い→せばか 34
狭い所→せどや 34
セミ→せび 34
芹→せい 34
前菜物→せんじゃーばたけ 34
全世界→(佐)てんじくいっぴやー
40
先端→とっぺんさき 41
旋風→(佐)つづまきかぜ 38
饞別→たねがし 36
ゼンマイ→ぜんみやー 34
線路工夫→せんどこうふ 34
【そ】
雑巾かけ→のげそうじ 44
そうけ→しょーけ 32
相殺→うつがっ 19
雑作もない→しゃいもなか 31、
(佐)ぞうさこうさなか 35
雑炊→ずーしー 33
騒々しい→そうがましか 35
そうだ→そうくしゃ 35、すぎやん 33
そうですか→そーな 35
そうとかこうとか→そーてろんこ
ーてろん 35、(佐)すってんこつて
ん 33
雑煮→(佐)あいさぎ 15
草履→じよこ 32、(佐)ぞうい 35
削ぎ木→(佐)そんきい 35
続飯(そくい)べら→そけべら 35
即席料理→あただもん 15
ソクソク→ぞこぞこ 35

そこそこ→あつっこ 16
そこらじゅう→(佐)いっちやあらし
17
素知らぬふり→すっぱらまっきや
33、(佐)つらぬすくつて 38
礎石→すけいし 33
粗相→ぶちよほ 48
そそのかす→(佐)ほしめかす 49
ソツとする→ずーんとする 33
外側・周囲→がわた 23
供え物→あげもん 15
そねる→そねくる 35
その代わり→(佐)そのこーり 35
その位のこと→そんくりやーん 35
その時は→そんときや 35
その辺→そこんにき 35
そのまま→そんなり 35
そのままの状態にする→よーらし
とく 53
そばがき→きやーもち 25
ソバカス→よめあぎ 54
側杖を食う→(佐)そばちくう
35、なげあしくう 42
祖父→じじしゃん 30、(佐)じいや
ん 30
空・天→てんじく 39
そらす→(佐)きらす 25
空豆→とんまめ 41
それ→そい 35
それしたりこれしたり→そいしこ
いし 35
それだけ→そいしこ 35、そぎやし
こ 35
それで→そいけ 35
それなら→そんなら 35、(佐)そん
ないば 35
そろりと→そろつと 35
ソワソワ→けそけそ 26
そんな風に→そぎやんかかり 35
損をする→(佐)そんこく 35
【た】
鯛→たいのいお 35
たいがいに→たいんまかちや 35
台脚の不揃い→(佐)がったんこ
ふむ 22

大工→じゃーく 31
大言→ううだごつ 18
大黒柱→じゃーこくばしら 31
太鼓腹→どんばら 44
大根→じゃーこん 31
大したもの→やおなか 52
大事なこと→(佐)よくせき 53
大事にする→(佐)ししゅーがる 30
大八車→しゃりき 31
堆肥すくい→さきじょーけ 29
大変→(佐)きしょくええ 24
太陽→てんとさー 40
高い→たっか 36
だから→ばってん 45、(佐)じゃい
け 31
たきぎ→たきもん 36
炊き損ないの飯→ごつちめし 28
抱く→うたく 19
沢庵漬け→ひゃっぼんづけ 47
たくさん→いきゃしこ 17、ばさらか
45、ぐっしゃい 26、(佐)ぎゃしこん
しこ 25
竹馬→さぎゃーし 29
丈が短い→ちんちくりん 37
竹ざれ→たけしゃぼー 36
竹筒→(佐)たきやつぼ 36
竹の子→たけんこ 36
竹の地下茎→ひゃーも 47
凧(たこ)→(佐)とーばた 40
訪ね歩く→(佐)たんねこくらく 36
三和土(たたき)→あまかわ 16
脱皮直後の蟹→(佐)やわらかがい
53
立て掛ける→なんかくる 42
タニシ→(佐)たのし 36
多人数→いきゃーにじ 17
タヌキ→(佐)たのき 36
種→さね 29
種まき→(佐)たねひねい 36
頼む→(佐)うっかかる 19
束ねる→まるかす 50
度々→たんびたんび 36
たぶらかす→ちょうくらかす 37
食べ合わせ→(佐)がっしょく 22
食べ終わる→しまう 31

食べる→たふる 36、あがる 15
たまげる→たまがる 36
だます→だまくらかす 36、(佐)き
ゃーくいだます 24
堪らん→こたえん 28
溜まる→(佐)うきばん 19
だみ声→じごえ 30、じゃれごえ 31
溜め池→つつみ 38
貯め拵→しよしよだめ 32
たやすい→きやすか 25
タラ(樅木)→だら 36
たらい→たりゃー 36
だらしない→(佐)すくたれ 33
だるい→だやしか 36、(佐)ちゃ
ーましか 37
誰→だい 35
誰でも→だいでん 35、どってんこ
っでん 41
誰の物か→だいがつな 35
団子→だご 36、(佐)つづおだご
38
団子汁→だごじる 36
短冊形飴→あめがた 16
短冊形もち→かきもち 22、(佐)く
ーいもち 22
男性器→ちんぽ 38、(佐)どんべ
ん 41
段取り→たなぐる 36
旦那様→だんなんさん 36
田んぼ→ほか 49
田んぼ甕→だりがめ 36
【ち】
小さい→こんちよか 29
違いが甚だしい→(佐)うんてんば
んてん 19
茅(ちがや)→あまね 16
ちからしば→みちしば 50
筑後→ちつご 37
チクチク→しかしか 30
チシャ(植物)→(佐)ちゃば 37
乳繰り合う→(佐)ててくりあう 39
縮こまる→がじゅむ 22
縮まる→(佐)じゅーつくる 31
縮む→ちじゅむ 37
縮れ髪→(佐)ちんじゅうかしら 37

窒息→(佐)いきはいる 17
ちっとも→いっちょん 18
千鳥掛け→(佐)ちんどいかげ 38
嫡子→あととり 16
チャボ→ちゃも 37
茶碗→(佐)ならちゃ 42
中間の家→なかんえ 42
中風→ちゅうき 37
ちゅーぶらりん→(佐)ちゅーそん
ぶらい 37
調子→ほんぼん 50
長時間→(佐)したたか 30
徴収→ぬく 43
弔問→くやみ 26
直接→いけと 17
ちよくちよく→ちよつちよつ 37
ちよこんと→ちよこい 37
ちよっとの間→(佐)さつというま 29
ちよっぴり→(佐)かげつうたん 22

【つ】

使い→つきゃー 38
疲れがとれる→だりのやむ 36、
(佐)だいやみ 36
疲れる→だる 36、(佐)こつちゃー
うつ 28
付ききりて→つきみちーて 38
次々→かつがつ 22
憑き物→ふるいつく 48
土筆→ずくぼ 33
ツクツクボウシ→つくつくしよ 38
作り笑い→すりやわりゃー 34
つけ上がる→にあがる 42
附木→つけだけ 38、(佐)すいつ
けぎ 33
つけ狙う→(佐)ねつちよかくる 43
土→(佐)のろ 44
土突き→どーつき 40
突っかかる→(佐)どがいかかる
40
突く→つくじる 38
筒袖→とーじん 40
椿の実→かたいし 22
潰れる→こきしゃぐる 27
つべこべ→さっこもつこ 29
坪刈り→(佐)ごうきい 27

つますく→ととますく 31、(佐)け
一まつる 26
つまらぬ→しかとんなか 30
つみきる→つんくじる 39
つむじ→ぎりぎりす 25
つめ草→ほたるぐさ 49
冷たい→すびく 34、つんたか 39
梅雨→ながせ 42
梅雨明け頃の強い雨→はげあめ
44
辛い→しるしか 32
面憎い→つらみたんなか 39
氷柱→まがんこ 50
ツワブキ→つわ 39
ツツルテン→(佐)しつちよこちよ
30

【て】

手遊び→てませ 39
手荒い→ちゃーずがましか 37、
(佐)ばっしゃーか 45
手洗い桶→(佐)ちよっこがい 37
手荒い物音→がったんひっちん 22
亭主→てーす 39
手一杯→ていっぴゃー 39
程度が軽い→なんしか 42
丁寧→ていんがーつと 18、もつと
らーつと 52、(佐)しんみらーつと
33
手斧→ちゅーの 37
手が要らぬ→せわなし 34
出来る→しきる 30
弟子→でっちゃん 39
手品→てずまとり 39
手すから→てしー 39
てっぺん→とっぺんさき 41
鉄砲→(佐)てっふう 39
手直す→そそくる 35
手に負えぬ→(佐)てしきおよばん
39
手抜き→(佐)てやすまい 39
手拭い→てのごい 39
でびたい→でぼちん 39
手袋→てぬき 39
手掘り→(佐)いぐいばい 17
出向く→(佐)でうく 39

テメエ→うん 19
照りつけられて→(佐)ていこくら
れて 39
田楽→(佐)れんがく 54
天井裏→つち 38
天神様→てえじんさん 39
てんてこ舞い→ちんちろみゃー 37
点々と→とんぼとんぼ 41
てんでんばらばら→ちんちんばら
ばら 38
天秤棒→おーこ 20
天ぶら→つけあげ 38
デンプン→せん 34
てんやわんや→(佐)さっさほうさ
29
砥石→ていし 39

【と】

どうかすると→どぎゃんかすつと
40
童戯の一種→びっちゃんかっちゃん
46
童戯の一種→めはりごんじよ 51、
(佐)めはいごし 51
道化者→ひょんきんたん 47
凍死→(佐)こしけしぬ 27
どうしたの→どうしたと 40
どうしても→どーでんこーでん 40
同時に起こる→(佐)たたかう 36
灯心→とーしみ 40
土臼→どーす 40
どうですか→どーかい 40
ドウドウ(水の流れ)→ごんごん
29
どうかこうとか→どーてろんこ
ーてろん 40
唐突→(佐)さしつけ 29
どうにか→どーろきゃーろ 40
どうにもならぬ→どんこんなん
41
豆腐の味噌和え→しろぬたあえ
32
どうもない→どーんなか 40
道路の通行状態→(佐)みちがが
い 50
通せんぼ→とうさんまご 40

遠出→たかざるき 36
トカゲ→とかが 40
斎(とき)→おとき 21
ドクダミ草→とへら 41
とぐろを巻く→(佐)つぐらつくる 38
とげ→いげ 17
とげが刺しこむ→のかる 44
とげとげしい女相→(佐)けんか
26
どこもここも→どこんここん 40
床屋→いっせんどん 17
所→とこ 40
徒食→(佐)いぐい 17
年寄り→としより 41
ドタバタ→どすどす 41
土地の人→じのもの 31、じげんも
ん 31
どっさり→(佐)どっさい 41
どっちにしても→どっちしたっちゃ
41
土手→どんだ 41、(佐)でえ 41
とても→ふるふる 48、そーにゃ 35
滞る→(佐)ことる 28
どなたか→(佐)だいさんか 35
トノサマガエル→(佐)くうわびき
25
どのみち→どちみち 41
とびとび→とんびとんび 41
飛び跳ねる→びんこしゃんこ 47
土百姓→どんびやくしよ 41
土間→(佐)にわなか 43
泊まりがけ→(佐)とづき 41
止まれ(馬使い)→どう 40
泊まろう→(佐)とまってはる 41
どもる→ずもる 34
鳥→とい 40
採りいれ→(佐)こんのう 29
取り付く→といつく 40
鳥見鳥貝→ごーつぎゃ 27
鳥目(夜盲症)→といめ 40
どれどれ→だー 35
どれ程→どぎゃしこ 40
泥汲み具→(佐)かんびよーえ 23
泥土→ぬた 43
ドングリ→(佐)ずうぐい 33

とんでもない→ひょーしみなか 47
どんな→どぎゃん 40
どんな様子→どぎゃなふー 40
トンボ→へんぶ 49
トンボ帰り→さかとんぼ 29

【な】

内出血→(佐)あおちのよる 15
内臓→じご 30
なえる→きやーなえる 24
なおらい→のーりやー 44
長脚たらい→(佐)ちょーずこがえ 37
長い→なんか 42
長居→べったいする 48
仲間→どし 40
長巻き貝→(佐)めかじゃー 51
長持ち→もてる 52
仲良し→よかなか 53
ナギ→ちからしば 37
泣きじゃくる→(佐)いきずいたててなく 17
泣き真似→すらなき 34
泣き虫→なきべす 42
泣きやむ→すったいする 33
無くなる→のーなる 44
殴る→こつらすつ 28、くらする 26
投げ込む→なんこむ 42
投げつける→(佐)こっかくる 28
仲人→なかだっどん 42
ナスナ→ねこのしゃみせん 43
なぜ→なし 42
なぞる→だめる 36
菜種製油業→あぶらや 16
なた豆→たっちやぎ 36
なだめる→(佐)ひょーすかす 47
菜漬け→おくもじ 20
何くわぬ顔で→すれーっとして 34
何事→にやーごつ 42
何もかも→ないでんかいでん 42
何も無い→ありやーせすと 16
浪花節→さいもん 29
何をするの→どぎゃんとすつと 40
なのに→とこれ 40
生意氣→(佐)すひんか 34
怠け者→すたくもん 33、(佐)すら

かす 34
なます→(佐)かきやーえなます 22
ナマズの子→ひゅーたんご 47
生ぬるい→ふーたらぬっか 48
滑らか→しなしな 31
成り行き任せ→(佐)ないないふう じゃあ 42
苗代→のーしろ 44
苗代頃の気候→なえしろがんや 44
なんだって→なんちゃ 42
なんだと?→どーちにや 40
なんだろう→なんじゃろか 42
難聴→みみとす 50
なんとということ→なんちゅーこつ 42
なんとかこうとか→なんてろこーてろ 42

【に】

似合っている→によとる 43
ニイニイゼミ→ちーちーせび 37
煮え切らぬ味→こくんこくん 27
ニガウリ→にがごい 42
逃げる→ちんにげる 38、(佐)ちちくらみやー 37
煮込み麵→にゅーめん 43
西の方→(佐)にしめ 42
にじり寄る→(佐)にじいほじい 42
につけい→につき 42
ニッコリ→しれーつと 32
日中→ひるんひなか 47
二度目の子→にばんめ 42
担いざる→いにやじよーけ 18
担う→いなう 18
二の句が継げない→にのくちやあかん 42
荷馬車引き→ばしゃひきどん 45
荷札→えぼ 20
荷物を担ぐ→(佐)なかいにやー 42
入院→(佐)でようじょう 39
乳児→やや 53
入念に→(佐)ろくるく 54
庭→つぼ 38
鶏→(佐)たず 36

人形→ごんたさん 29
人参→にーじん 42
妊婦→さんまえ 30

【ぬ】

縫い上げ→にあげ 42
抜かず→こく 27
抜き差しならぬ→(佐)ぎっすいばったんならん 24
抜く→すつぽく 33
温い→ぬっか 43
拭う→のーごう 44
ぬくぬくと→(佐)ぬつくらつと 43
温め石→おんじゃく 21
盗人→ぬすど 43
ぬらりとして→にょーいとして 43、(佐)ぬてーつとして 43
ぬるい→(佐)ほほらぬっか 49
ヌルデの木→ふしのき 48
ヌルヌル→ぬれぬれ 43
濡れる様子→しょたしよた 32

【ね】

寝起き→ねおぞみ 43
願いが叶う→(佐)はらやくびよう 45
根木→ねんがら 44
値切る→こぎる 27
寝込む→(佐)ねしたる 43
寝小便→まりかふる 50
ねじり袖→ねつっで 43
熱中する→しんぶん 32、(佐)くしくいいる 25
寝床→なんど 42
寝ないで→ねらんずく 44
粘っこい→どちどち 41、ねばしか 44
ネバナバ→ぎちぎち 24
粘りけのある食感→もちもち 52
寝坊→ねたぼう 43
寝ぼけ→ねとぼけ 44
根掘り葉掘り→(佐)ねほいはほい 44
寝むすがり→ねしかり 43
眠たい→ねぶか 44
根元→ねつっー 43
練り込む→ねいこむ 43

練り堀小屋→ねりべごや 44
寝る→ねーる 44、(佐)ぬる 44
年季奉公の終わり→なたなげ 42
捻挫→ちごかす 37
ネンネコ→はんずうばんでん 44、
(佐)どんふいしょ 41

【の】

農作物の木陰→(佐)こつい 28
納税→じょうのう 32
軒下→ねぎだれ 43
のけ者→(佐)ひといかめ 46
ノコギリ→のこ 44
残り物→かすり(い)もん 22
後ほど→のっち 44
のっそり→によつきり 43
のっぺらぼう→のっぺらぼん 44
喉がむず痒い→ぜがぜが 34
伸びた蛇→(佐)なぎはゆる 42
伸び放題→おえかぶる 20
飲み込む→ひんのむ 47

【は】

はい(返事)→あい 15
灰→ひゃー 47
歯痛→つつく 38
這い回る→ひゃーもーそー 47
入る→ひゃんこむ 47
入れるだけ→(佐)いっしゅういっ
ぴゃー 17
ハエ→ひゃー 47
生える→おゆる 21
歯が欠けた人→(佐)はかげつうし
ろ 44
馬鹿者→ばかたれ 44、(佐)つー
たん 44
歯がゆい→はかいか 44
はかり→ちきり 37
はぐ→こっぱぐ 28
薄情な扱い→(佐)あさましゅーす
る 15
博労→ばくりゅう 44
ハコペラ→ひよこぐさ 47
破算→(佐)しんじゃーかぎい 32
端→きっぱし 24
恥ずかしい→おかしか 20
恥ずかしがり屋→つらわれ 39

蓮の実→(佐)ずうだ 33
ハゼ蠟加工業→ろーや 54
裸麦粉→こうばし 27、(佐)はった
いこ 27
裸麦を混ぜた飯→(佐)さねめし
29
肌触りが荒い→がざがざ 22
鉢・皿→(佐)さらんばち 29
鉢合わせ→ごつつんごろ 28
パチンコ(飛び道具)→ごみじゅつ
28
初おろし→(佐)あばおろし 16
はっきりせぬ→(佐)うんでんどく
ら 19、さっぱいとなか 29
はっきりと→かつきらーつと 22、こ
ろつと 29
初誕生→むかわり 51
初物→わさもん 55、はつもん 55
鼻っ柱→むこーいき 51
鼻の穴→はなんす 45
鼻の刺激→きゅんきゅん 25
花火→(佐)ひや 47
離ればなれ→つれうしなう 39
はね除ける→はんのける 46
はみ出る→ふつとでる 48
刃物がよく切れる→すたすた 33
ハヤ→たばや 36
早ばやと→はよさき 45
腹→どんばら 41
腹一杯→(佐)どっくう 41
腹が立つ→ぞんきりわく 35
バラタナゴ→しびんた 31
ハラハラ→はったはった 45
はらわた→じご 30
葉蘭→ばれん 45
針→はい 44
バリバリ→はりはり 45
腫れ物→でけもん 39
歯をむき出す→(佐)はむいだす
45
半切り桶→(佐)はんぎい 45
半天→はんちゃ 45
反応が鈍い人→(佐)ぬってつ
ー 43

【ひ】

火遊び→(佐)ひじゃーけ 46
火打ち石→かどいし 23
引きずる→ぞろびく 35
引きつる→(佐)かなそれ 23
引き回す→ひっこくる 46
卑怯者→ひけしほー 46
引き分け→やご 52
ビクビク→ひろひろ 47
ひげだらけ→ひげもくじゃ 46
籤(ひご)→へご 48
膝頭→ひざぼーず 46
久しく見ない→ちーんみらん 37、
(佐)くれくれとなか 26
菱→ひいし 46
ひしゃく→(佐)ふしゃく 48
ひしゃぐ→びっしゃぐ 46
ひしゃげる→(佐)つぶしゃぐる 13
美人→よかおなご 53
額→ひちやぐち 46
ヒタキ→(佐)したたきたらじょ 30
ひた走り→だだばしり 36
日だまり→(佐)ぬくたまい 43
左利き→ぎっちょ 24
左へ(牛馬使い)→さし 29
美男子→よかおとこ 53
ひっくり返す→でんぐりがやす 39
引越す→やうつり 52
びっしょり→(佐)ぞんふい 35
引っ張りだこ→ひっぱりなんご 46
ひどい→むげーもん 51
微動→(佐)ぎすのいごき 24
一口→ひとたま 46
一締め→しとしめ 31
一筋→いっばた 18
人だま→ひのたま 46
ひとつ→いっちょ 17
ひとつだけの物→(佐)いったん
17
一通り→つらーつと 38
人に馴れている→ひとなつこか
46
一箸→ひとはさみ 46
人まね→まねこーず 50
人見知り→じょーしき 32

独り言→ひとりごつ 46
独りでに→わがほうから 54
独りよがり→(佐)いちまき 17
ひな祭り→ひーな 46
ひねくれ者→(佐)じゅーげもん 31
ひびが入る→ひわるる 47
火吹き竹→(佐)ふすいだけ 48
紐→ひぼ 47
ひもしい→ひだるか 46
干物→ひぼかし 47
紐輪→わさ 55
百日咳→(佐)せんこずき 34
百日草→ちんだいばな 37
日雇い職人→ひゅーとり 47
日雇い賃金→ひゅーぎん 13
費用→ぞーよ 35
評価→(佐)きんねふむ 25
病氣→いたむ 17
ひょうきんな人→ひょんきんたん
47
拍子木→(佐)ひょーせき 47
ヒョウタン→ひゅうたん 47
表面→うわこ 19
表面に皮が出来る→(佐)つらば
る 39
ひょっこり→ひょこつと 47
ヒヨドリ→ひよす 47
ビリ(殿)→どんべ 41
ヒリヒリ→ひらひら 47
ヒル(蛭)→びーる 46
昼→ひり 47
昼の祭り練習→(佐)ひんならし
47
ピワ→ひわ 47
瓶→びーどろ 46
ピンとこぬ→(佐)ずつうせぬ 33
瓶の口→こぐち 27
貧乏→びんぶー 47

【ふ】

無愛想→あいそんこそんなか 15
夫婦→つれやー 39
増える→いみる 18
無遠慮→けんたいで 27
不甲斐ない→ほーとくなか 49
孵化させる→わらかす 55

符がよい→ふのよか 48
不機嫌→くーつとして 25
不器用→(佐)ととしか 41
布巾→(佐)ふきの 48
腹痛→せく 34、はらんせく 45
ふくぶくしい→でっぶらつと 39
ふくらはぎ→つとこぶら 38
ふくれ面→(佐)ふくれまんじゅう
48、ぶつつーくらげ 48
ふくれる→ほとびる 49
フクロウ→こーず 27、(佐)とろつ
とこーず 41
袋グモ→たちたちのぼれ 36
不潔→(佐)ぬたか 43
塞ぐ→うっぱまる 19
無沙汰がち→(佐)とうどうしか 40
ふさばけ→ひのくらかす 46
不躰→(佐)そくそく 35
不自由な歩行→(佐)ちっかんば
ったん 37
不承知→かんふい(る)ふる 24
不精者→ぶしよもん 48、(佐)ぬら
い 43
伏せ縫い→ふする 48
不調→ほんぼんなか 49、(佐)お
ろかげん 21
ぶっくらぼう→(佐)ちよきつと 37
沸騰→(佐)しったんたぎい 30
物々交換→ずぶがえ 34
ブト(虫)→かぶか 23
懐→ふつくら 48、(佐)つくら 38
太もも→ももど 52
布団からずり上がる→ぬきでる 43
布団の双方から脚を入れて寝る
→(佐)つごーてぬる 38
フナの昆布煮→(佐)ふなんこぐい
48
部分的ハゲ→きんばす 25
訃報→たより 36
踏み固める→(佐)ふんたつく 48
踏車→ふんぐるま 48
踏み台→(佐)たけつぎ 36
踏み倒す→ひっかける 46
踏みつける→(佐)ふんこくる 48
踏む→ふんたくる 48

不要物→(佐)うしたいもん 19
ぶらぶらする→てれんばれん 39
ブランコ→(佐)ぶうらんさんご 48
振り木(脱穀具)→ぶるこ 48
ふるい→しーの 30
禪の一種→もっこべこ 52
奮発→はりこむ 45

【へ】

平均→ぼっこみ 49、(佐)つつこ
み 38
兵児帯→へこ 48
べそをかく→(佐)べしよつくる 48
下手→へたくそ 48
へた(果実などの)→つー 38
ベタベタ→べたんべたん 48
べったり→べちゃつと 48
へっぴり腰→くそたれごし 25
へばりつく→へばいつく 48
蛇→くちなわ 26
べらり→べらい 49
屁をひる→へふる 49
偏屈者→いひゅーもん 18
弁財天→べんじゃさん 49
便所→ちょうずどこ 37
変人→ふーかじん 47
変な→(佐)つかしい 38
便秘→しんのつまる 32
扁平足→いたあし 17

【ほ】

棒→ぼくと 49
暴食→(佐)めっちゃあきい 51
ホウセンカ→つまぐれ 38
放置する→ほーくらかす 49
放尿→まる 50
放任→(佐)いきない 17
ポウフラ→ぼうふり 49
抱卵→ぬくめる 43
放り散らす→ほいちらかす 49
ほお→(佐)べんぶう 49
ホオズキ→ふーずぎ 47
ほお包み→ふーづつみ 48
ほお張る→ふーばる 48
ホーロク→こーら 27
他のこと→よのこつ 54
ほかんとして→(佐)ひよおん 47

北西風→あなぜ 16
干し柿→(佐)しゅーれんがき 31
干している→へーとる 48
補植用の稲苗→いけなえ 17
保存する→たしなむ 36
ポタポタ→すたんすたん 33
ぼたもち→(佐)よごれもち 53
蛭→(佐)ほたれんきょう 49
ボタン付き→(佐)つめつき 38
ぼちぼち→ほつほつ 49
ほっと→ほっかい 49
ホテアオイ→たいわんなぎ 35
ホテイ竹→ちんちくだけ 37
火照り→ほめく 49
程→がと 23
仏様→(佐)ほときさん 49
ほら→うーだごつ 18、(佐)うーばち 18
ホラ貝→ぶーわんぎゃ 48
堀→ほい 49
掘る→ほいたくる 49
本気になって→(佐)こしごしと 27
本家→もとえ 52
本調子→(佐)ほんぼん 49
本当→ほんなこつ 49
ほんの少し→まねかた 50
ほんやり→ぼざと 49
ほんやりしている→ほけんごしとる 49

【ま】

埋葬の穴掘り→(佐)いけほい 17
前掛け→まいかけ 50、(佐)まいふい 50
曲がる→ひこくれ 46
巻き貝→ごーひな 27、(佐)ほーじゃ 49
まぐれ当たり→(佐)まくてえ 50
マクワウリ→かしうり 22
曲げる→ひんまぐる 47
真正面→(佐)もほうき 52
ませこぜ→いっしょんたくり 17
ませた→こしゃくれた 27
混ぜる→まざる 50
股→またくら 50
まだ→(佐)まーだしか 50

跨ぐ→またぐる 50
またのリンパ腺肥大→(佐)ももねのまるくる 52
間違い→(佐)あらんこつ 16
真っ直ぐ→まっすんか 50
松虫→ちんちろりん 38
まつわる→せつく 34
間に合わぬ→(佐)ましょきあわん 50
間抜け→ぬけさく 43
真似損なう→(佐)まねかぶる 50
まばゆい→まばいか 50
間引く→くける 25
まぶす→まめす 50
ママゴト→ままちゃんご 50
マムシ→ひらくち 47
眉→まいげ 50
繭→まい 50
まるぎり→(佐)ずうきい 33
丸飲み→ぐのみ 26
丸坊主→ぼろぼうず 49
真綿→ねばし 44
周り→ぐるり 26
真ん中→(佐)ずうなか 33
満腹→どんどーんとなる 41
真ん丸→(佐)ちんまるか 38

【み】

見合わせる→(佐)よしめとく 54
右へ(牛馬使い)→へせ 48
短い→みしか 50
未熟果物→(佐)ないかね 42
水→(佐)ぎい 24
水がめ→(佐)はんずーがめ 45
自ら病気を起こす→(佐)てずからやみみゃー 39
水気が多い→じゆるか 32
水たまり→(佐)じゅったまい 32
水っぽい飯→(佐)じゅちゃじゅちゃめし 32
水鉄砲→みっじゅき 50
水の掛かりにくい田→(佐)ひやけた 47
みずばらしい→(佐)しおたれ 30
水を差す→ぬべる 43
晦日→つごもり 38

みそがい→みぞぎゃー 50
ミノサザイ→みそつちよ 50
みそ汁→おつけ 21
見それる→みしらんごつ 50
密生→(佐)ぞくまんだち 35
みっともない→みたみ(ん)なか 50
南風→はやんかせ 45
醜い→ざまなか 29
身の回り→わがみのざんみゃー 54
耳垢→みみご 50
耳汁→みみだれ 50
耳たぶ→みみんは 51
耳に入る→みみいる 51
耳の穴→みみんす 51
身もだえ→(佐)ねじもんじょう 43
明朝→あしなさ 15
妙な→(佐)じくーな 30
妙なこと→(佐)ひょんなこつ 47

【む】

無一文→すてんぼてん 33
ムカゴ→ばご 45
ムカデ→むかせ 51
麦の表皮→(佐)ぼさ 49
麦飯→どーがやし 40
麦わら→むっから 51
ムクゲ→(佐)もっげき 52
ムクドリ→(佐)もつきーどり 52
棕の木→むき 51
むくみ→すかばれ 33
ムクロジ→(佐)きんきんむくろ 25
婿→むこどん 51
蒸し暑い→にだめく 42、(佐)ぐーらしか 25
蒸しかご→(佐)かんごしき 23
虫が飛び回る→(佐)ぼうぼうしおる 49
むしろ→(佐)けつぐうで 26
蒸す→おもす 21
息子→ばぼ 45
結び手→むすで 51
娘→むすめじよ 51、(佐)じよん 32
むせる→むする 51
無駄炊き→あだび 15

無駄なこと→(佐)よもよっせんこ
っ 54

無駄働き→(佐)いんばたらき 18

ムツとする→(佐)むつくいする 51

ムベ→うべ 19

村の気風→(佐)むらだち 51

無理強い→(佐)しいぜめ 30

【め】

迷信担ぎ→(佐)ようがましか 53

メイチュウ→たのむし 36

目がよく見えない→(佐)ほぼし
か 49

目配せ→めませ 51

飯→まま 50

飯櫃(びつ)→めしつき 51

雌→めんちょ 51

雌馬→だま 36

珍しい→(佐)じんべん 32

目玉→めんこんたん 51

目玉がすわる→(佐)めんたまいき
ずいわって 51

滅茶苦茶→ちゃちゃくちや 37、め
っちゃくちや 51

滅多に→ちーん 37、(佐)いっちご
17

滅多にない→めっちゃなな 51

目に角たてて→めのしんとがらせ
て 51

目の前に→(佐)めのめきじゃー
51

目の前にちらつく→めえすがと
る 51

目やに→めほだれ 51

目をつぶる→ねねふる 44

メンコ→ぱっちり 45

【も】

盲人→(佐)めっくう 51

もう少し→まちと 50

もうひとつ→まーいっちょ 50

もがく→ばたぐるう 45、(佐)いず
る 17

もぐ→ちぎる 37

木炭→(佐)からすみ 23

モジモジ→むじむじ 51

モゾモゾ→もぎもぎ 52

もたもた→もやもや 52

もち→(佐)おかちん 20

もち網→てつきゅー 39

モチノキ→なもめ 42

もったいない→あったらか 16、
(佐)やくちやーなな 52

もつれる→つんぐりまんぐり 39

持て余す→あくしゃうつ 15、しんじ
ゃんならん 32、(佐)こっちやうつ
28

もてなす→ほとめく 49

元から→がんから 23

もとで→(佐)しぎい 30

元結い→(佐)もてえ 52

物音→(佐)さない 29

物差し→しゃく 31

物もらい→めもりやー 51

靱干しの終わり→にわあげ 43

問題はない→(佐)はなしゃなな
45

【や】

やがて→(佐)やんがて 53

焼き芋→ほっこりやき 49

やきもき→やつきもつき 52

焼き物→われもん 55

焼く→やっこくる 52

厄祝い→やくいやー 52

厄払い→やくばりやー 52

野菜→やしやー 52

屋敷内の畑→せんじゃーばたけ
34

屋敷のかさ上げ→やちもり 52

安くする→まける 50

休み→よけ 53

痩せた人→やせひぼかし 52

厄介者→(佐)いらんさん 18

やっと→やっとかっと 52

やにわに→(佐)たんとき 36

屋根ふき→ばーじゃどん 44、(佐)
えふき 19

やはり→(佐)やっぱい 52

やぶ→やね 53

やぶにらみ→ひんがらめ 47

ヤマカガシ→(佐)しいぐち 30

山積み→うったたる 19

ヤマノイモ→じねんじょ 31

山伏→やんぶし 53

山桃→やんもも 53

ヤモリ→かべちよろ 23

やり繰り→(佐)くいやあ 25

やり損なう→やいそこなう 52

柔らかい→ゆるか 53、(佐)やわ
らくか 53

柔らかく水気の状態→(佐)ゆぶ
ゆぶ 53

【ゆ】

結いつける→いいつける 16

夕方→ゆーるし 53

裕福な家→よかところ 53

夕べ→よんべ 54

幽霊→ゆうれび 53

湯がく→いがく 17

床の下→よかんした 53

ゆがむ→よがむ 53

ユキノシタ→きじんそう 24

揺さぶる→いさぶる 17

ゆっくりと→ゆるーと 53、(佐)と
っころと 41

ゆっくりゆっくり→(佐)もそうもそう
52

指→いび 18

ゆるい→あもーなる 16

【よ】

夜遊び→よぎるき 53

良い→よか 53

良い加減→(佐)よかちゅうび 53

良いこと→よかこつ 53

用事→ゆーじ 53

用心→ゆーじん 53

ようだ→ごたる 28

ようやく→ほによって 49

容量→しころ 30

要領がよい→こつよか 28

よく→よーと 53

よく噛めぬ→もえん 51

良くなかった→ゆーなかつた 53

良くなる→よーなる 53

欲の弁解→よくとふたりで 53

欲張り→よくつー 53

横→よこぎや 53

横切る→(佐)よこばんする 53
横太り→(佐)ずつくう 33
汚れ物を洗うたらい→しもだりや
ー 31
よたよた→よとよと 54
よだれ→ゆだれ 53
酔っぱらい→えーくりやー 19
夜通し→よのよー 54
よどむ→(佐)ことる 28
夜ばい→よびやー 54
余分→よころもん 53、(佐)よんに
ゆー 54
余分の水を捨てる→すためる 33
嫁→よめご 54
ヨメナ→はぎな 44
読める→よみきる 54
ヨモギ→ふつ 48
よもぎモチ→ふつもち 48
より多い→たいわんなぎ 35
寄りつかぬ→(佐)よいのく 53
寄りつき→よつき 54
選(よ)る→える 20
夜→よさり 53
夜の雨→(佐)よじ 54
夜の祭りの練習→(佐)よならし
54
夜の漁→よばい 54
よろめく→(佐)よろいすつ 54
よろよろ→ぼとぼと 49
よろり→(佐)よっちゃい 54
弱い者いじめ→(佐)めいんかみ
51
弱る→(佐)すくれる 33
四等分→(佐)よんちんわい 54

【ら】

来年→らいしん 54
落胆→がっぱい 22
乱雑→しかつか 30

【り】

力む→きばる 24
利口者→よからか 53
立派→(佐)じっばか 31
両替→きる 25
両替商→ぎんや 25
料理→(佐)じゅーる 31

リンパ腺の腫れ→こねり 28

【れ】

列→(佐)つづきわたる 38
レンゲ草→ふーずばな 47
連絡→(佐)ついやう 38

【ろ】

ろうあ者→いいし 16
老婆→(佐)こっけんぼ 28
ろくなことはしない→ろくなこたか
やさん 54
露見する→ばれる 45

【わ】

輪替え屋→わがえどん 54
若者→わきやーもん 55
わざと→わーざつ 54、(佐)わん
ざと 55
わざわざ→ぜんなく 34
綿入れの冬着→どんぎん 41
私(女性)→うち 19
私達→おどんたち 21
ワラ草履→あしなな 15
ワラづと→つと 38
ワラの素穂→わらすぼ 55
割り込む→ぜりこむ 34
悪口→(佐)にくじゆ 42
悪ふざけ→ぞーぐれ 35

既刊刊行物の紹介

研究編第1集(昭和45年刊行)

鳥栖地方の宿場(長崎街道の田代・轟木・中原)

宿駅制度の変遷を、旅日記などで考証しながら、交通の要衝、鳥栖宿場の原形をさぐる。

A 5判 99頁 絶版

研究編第2集(昭和45年刊行)

幕末田代領政争の研究(仙八さん騒動の顛末)

本藩対馬のお家騒動からむ田代騒動、その背景となつた異常な対馬藩財政にスポットをあてながら、人物の葛藤を探る力作。

A 5判 277頁 800円

研究編第3集(昭和46年刊行)

鳥栖の民家

消滅前のわら屋根、その立地と職業の違いによる民家の多様性を、生活史と構造的な両面から探求したユニークなレポート。先人の美と知恵の住いを、豊富な写真と実測図で紹介。

A 5判 110頁 700円

研究編第4集(昭和46年刊行)

鳥栖の民俗

信仰民俗学ともいふべき著者独特の方法論により、鳥栖地方の民俗の、歴史の変遷と社会構造の面から立体的に捉えた力作。

A 5判 310頁 1600円

資料編第1集(昭和44年刊行)

日記抜書(田代代官所日記)

対馬藩の飛地、田代領の統治政策と領内の民政を明らかにした、延宝ノ寛政にわたる116年間の代官所日記抄。

A 5判 339頁 1000円

資料編第2集(昭和44年刊行)

基肆養父実記・磯野寿延記

延宝年間、領民の救世主と敬愛された田代代官所副代官、賀島兵介の事績と、田代領牛原村の富豪庄屋・寿延の正保から享保年間にかけての身辺雑記。共に「日記抜書」と関連深い。

A 5判 262頁 800円

資料編第3集(昭和46年刊行)

佐賀藩法令・佐賀藩地方文書

佐賀藩政の基本となる鳥の子帳ほか、治成公御改正御書附、教諭御書附など。佐賀藩法令としては初めての復刻版。平田、立石村の庄屋文書も多数。

A 5判 285頁 1000円

資料編第4集(昭和46年刊行)

近世鳥栖商業資料

幕末から明治初年の製蠟を中心とした、商業金融関係資料。有名な「日田金」と結んで幕末北九州の経済構造解明に貴重な貢献をなすもの。

A 5判 200頁 900円

資料編第5集(平成15年刊行)

佐藤恒右衛門毎日記

資料編第6集(平成16年刊行)

続佐藤恒右衛門毎日記

幕末期の田代領に副代官として赴任してきた佐藤恒右衛門の在任7年の私的日記の復刻版。膨大な記録から当時の世相がみえてくる貴重な資料。

第5集 B 5判 450頁 2000円

第6集 B 5判 370頁 2000円

鳥栖市誌資料編 第7集

鳥栖市域の方言

平成16年3月31日

編集 鳥栖市誌編纂委員会

監修 藤田 勝良

編著 篠原 眞

発行 鳥栖市

鳥栖市宿町1118番地

鳥栖市教育委員会

印刷 大同印刷株式会社

佐賀市久保泉町大字上和泉1848-10